

# MSMにおける 予防啓発活動の評価手法の確立 及びPDCAサイクル構築のための研究

令和元(平成31)年度 総括・分担研究報告書

研究代表者 塩野 徳史  
大阪青山大学

令和2(2020)年 3月



厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策政策研究事業  
MSMにおける予防啓発活動の評価手法の確立及びPDCAサイクル構築のための研究  
令和元年度 総括・分担研究報告書

## 目次

### I. 総括研究報告書

MSMにおける予防啓発活動の評価手法の確立及びPDCAサイクル構築のための研究 研究代表者 塩野 徳史	1
--	---

### II. 分担研究報告書

1. 予防啓発活動におけるPDCAサイクルシステムの開発と機能的展開に関する研究 研究代表者 塩野 徳史	9
2. 予防行動に関する量的データ収集および包括的分析からの評価 研究分担者 金子 典代、他	25
3. 大阪のMSMにおけるHIV感染動向の把握に関する研究 - 大阪ゲイコホートの継続 研究代表者 塩野 徳史、他	45
4. 沖縄に流入する外国人MSMの予防行動に関する研究 研究分担者 健山 正男、他	53
5. 日本のMSMにおけるHIV感染動向の把握に関する研究 - HIV感染発生動向を活用した分析 研究分担者 松岡 佐織	57
6. 医療者による新規患者・診療動向からの評価 研究分担者 山本 政弘	61

III. 研究成果の刊行に関する一覧表	64
---------------------	----

## MSM における予防啓発活動の評価手法の確立及び PDCA サイクル構築のための研究

研究代表者 塩野徳史 大阪青山大学健康科学部看護学科 講師

### 研究要旨

日本ではCBO (Community based organization)・医療者・疫学研究者等による協働のもと予防啓発が進められ、先行研究ではMSM (Men who have sex with men) のコンドーム使用行動は20%促進され、より感染リスクの高い層への啓発も進められているが、地方地域では都市部と比べ格差がある。日本全体では予防啓発活動基盤は脆弱で予防規範は未成熟であり、CBO は疲弊している。今後の活動にはスマートフォン普及によるゲイツリズム活性化や外国籍MSM もふまえることが重要であり、オールジャパンでの取り組みが効果的な手法と考えられ、その体制を整備していく必要がある。

初年度に引き続き、現在展開されている予防啓発活動を整理し、実態の把握方法と評価の体制を整備し、2回の意見交換の機会を設定した。その中で①社会疫学的見地からの評価 ②CBO による相互間の評価 ③相談支援者・HIV 陽性当事者からみた予防介入の効果評価 ④予防行動に関する量的データ収集および包括的分析からの評価 ⑤日本のMSM におけるHIV 感染動向の把握と予防啓発活動の評価 ⑥医療者による新規患者・診療動向からの評価を試行した。

本年度、研究1ではモニター登録者を対象とした質問紙調査を実施し、PrEP 経験別に分析を進めた。PrEP を現在利用している人でも情報について知っているとは回答している人は45.8%であり、服用したいと回答している人でも16.6%と知っている人の割合は低く、今後予防啓発にPrEP の情報を含めていく必要があることが示唆される。

また研究2でコミュニティセンターが果たしてきた機能の評価の基礎資料が得られ、コミュニティセンターの報告書等に還元された。新たな知識(研究1)や日本全体の予防啓発活動の認知(研究2)については先行研究ではほとんど把握されておらず重要な基礎資料が得られると考える。研究4では流入が増加している外国人MSM の予防行動の実態を把握し、今後の展開を検討するために試行的に調査を実施した。日本での性行動は日本のMSM と同程度行われている一方で、日本におけるHIV 検査の情報が浸透しておらず、検査機会が少ない状況であることが示唆された。

研究3、研究5の結果を通して日本の疫学的なHIV 感染の動向を評価し、照らし合わせたうえで、研究6で医療職者からみえる現場の状況は、CBO にとって直接的なメッセージとなり、MSM における予防啓発活動の評価手法の一助となり、ハイリスク層におけるセクシュアルヘルスの向上につながることを期待できる。

次年度は、各成果を軸に、予防啓発活動の方向性を検討する。

研究分担者氏名（所属研究機関名及び所属研究機関における職名）

研究 2 金子典代（公立大学法人名古屋市立大学 看護学部 准教授）

研究 4 健山正男（国立大学法人琉球大学 大学院 医学系研究科 准教授）

研究 5 松岡佐織（国立感染症研究所 エイズ研究センター 主任研究官）

研究 6 山本政弘（独立行政法人国立病院 機構九州医療センターAIDS/HIV 総合治療センター部長）

## A. 研究目的

本研究の目的は、日本に居住する MSM を対象とした予防啓発活動における地域間の連携をもとに新たな取り組みのプランニングを行い、展開する基盤を整備することである。また、PDCA サイクルを導入することによって、日本の MSM の予防啓発の浸透度を把握し、予防啓発活動を可視化し、アカウントビリティを向上させることも含まれる。

新たな取り組みには、現行の予防啓発活動とその目的との整合性が重要であり、CBO の脆弱な基盤を焦点化させることが必要である。

PDCA サイクルの中でプログラム評価（参加型評価）の手法を活用した包括的な評価と、予防啓発活動のアカウントビリティの向上は、CBO の基盤の安定化につながると考える。

## B. 研究方法

本研究では MSM 対象の予防啓発活動における地域間連携をもとに新たな活動計画を策定し、展開基盤を整備する。また、PDCA サイクルを導入することで、日本全体の MSM の予防啓発の浸透度を把握し、予防啓発活動を可視化し、アカウントビリティ向上を目的とし、以下の研究を実施する。

### 研究 1 予防啓発活動における PDCA サイクルシステムの開発と機能的展開に関する研究

北海道・東北・東京・神奈川県・東海・大

阪・中国・四国・九州・沖縄地域の CBO と協働し、現在展開されている予防啓発活動を整理し、可視化する。アウトプットをもとに、班会議で社会疫学的視点や、CBO による相互間、相談支援者・HIV 陽性当事者の視点を含み、評価する体制を構築する。

そして現行の予防啓発活動の方針や計画を確認、見直しの必要性を班会議で検討する。オールジャパンでの予防啓発活動について年 2 回 CBO 当事者を主体とした会議で計画を検討する。最終年度には予防啓発活動の方向性について、包括的な視点を含んだアクション・プランを策定する。

また、基礎的な資料を得ることを目的として、MSM における新しい予防(PEP/PrEP)の準備性について、以下の調査を実施する。

2015 年の国勢調査を基に、20 歳から 59 歳の成人男性を 47 都道府県と年齢階級によって層化し、その割合に基づき、A 社・B 社保有のニター登録者を比例配分したのち、得られた成人男性を対象にしてスクリーニング調査を実施する。

本調査は「日本に居住する生涯の性交相手 が同性または両方である男性」を対象として、スクリーニング調査と同様に居住ブロックと年齢階級によって 2 段階抽出を行い、A 社 1,000 人、B 社 3,000 人を比例配分し、本調査を実施した。

### 研究 2 予防行動に関する量的データ収集および包括的分析からの評価

先行研究の Community-based の量的調査結果をもとに予防啓発活動の浸透度、コンドーム使用行動、HIV 抗体検査受検行動 HIV に関する最新の知識や意識に関するデータを収集し分析を行う。予防啓発の浸透度を把握のため、プログラム・コミュニティ・ソーシャルの 3 レベルを基軸とし包括的にまとめ、班会議等で還元する体制を構築する。

初年度に引き続き、プログラムレベルのモニタリング体制としてコミュニティセンター

利用者調査の実施方法について検討し、質問紙調査、実施体制を整備した。

### **研究3 大阪のMSMにおけるHIV感染動向の把握に関する研究 - 大阪ゲイコホートの継続**

平成30年度から3年間、大阪市と協働し、個別施策層を対象としたHIV抗体検査および梅毒抗原抗体検査におけるコホート研究を継続する。

### **研究4 沖縄に流入する外国人MSMの予防行動に関する研究**

沖縄は台湾や中国からの流入が多く、外国人MSMの流入が増加していることから、日本における検査行動の実態や予防行動に関する状況を量的調査により明らかにする。

### **研究5 日本のMSMにおけるHIV感染動向の把握に関する研究 - HIV感染発生動向を活用した分析**

日本のMSMにおけるHIV感染の動向について、地域別の動向や出生年コホート等の二次分析を行い、班会議で還元する。また、梅毒などの性感染症の発生動向についてもMSMに焦点をあてた分析を行う。

### **研究6 医療者による新規患者・診療動向からの評価**

主な医療機関での新規患者の傾向（AIDS発症の有無/検査場所等）を把握するためにアンケート調査を実施するとともに、各医療機関で最近の傾向について意見聴取し、班会議等で還元する。

（倫理面への配慮）

研究者が所属する研究機関において倫理審査を受けて実施する。またゲイ・バイセクシュアル男性は社会からの偏見・差別が強くこれらの点についての配慮が必要である。このため本研究では各地のCBOと連携し、調査項目や調査方法を検討し、本研究参加によって性的指向に関する差別や偏見を受けないよう

に配慮する。

本研究は血液検査が含まれており、協力依頼時には訓練された専門のスタッフが書面および口頭によって説明し、研究主体、研究目的、調査参加の任意性、予想されるメリット、デメリット、厳密な個人情報の保護、不参加の際に不利益を受けないこと、途中で中止したい場合には登録を削除できる自由について十分に理解を得たのちに同意を得たうえで実施する。研究結果については、関連学会や出版物などで個人が特定されないように処理したデータの分析結果のみを公表することを説明する。

結果判明後の診療・支援体制についても保健所と同等の環境を整備した上で研究を実施する。大阪市保健所では陽性判明結果後にCBOによる対面相談や電話相談先が適宜紹介されており、本研究でも同様の支援先を紹介する。また血液検査時には専門的な知識を有するCBOと協働し、専門家による体面相談や外国籍MSM向けに通訳（中国語・英語）ができる体制を整備する。

本研究実施については大阪青山大学研究倫理審査委員会より実施の承認を得た。

## **C. 研究結果**

### **研究1 予防啓発活動におけるPDCAサイクルシステムの開発と機能的展開に関する研究**

初年度は、システムの構築をモデル事業として大阪で開発した。各地域CBOの予防啓発活動の可視化については下記のようなフォーマットを作成し可視化に繋がることを目的に試行した。本フォーマットを活用し、医療職者、社会疫学研究者、CBO、相談支援者・HIV陽性当事者が参加し、予防啓発活動について包括的に意見交換する機会を2回設定した。

初年度に引き続き北海道・東北・東京・神奈川県・東海・大阪・中国・四国・沖縄地域のCBOと協働体制を整備し、今年度は福岡も参加することになり、オールジャパンの活動の方向性や活動内容について検討し始めた。

また基礎的な資料を得ることを目的として、成人男性における MSM 割合および新しい予防 (PEP/PrEP) の準備性の把握するために初年度に以下の調査を実施した。

2015 年の国勢調査を基に、20 歳から 59 歳の成人男性を 47 都道府県と年齢階級によって層化し、その割合に基づき、A 社・B 社保有のモニター登録者を比例配分したのち、得られた成人男性を対象にしてスクリーニング調査を実施した。

スクリーニング調査では性別、年齢、居住地、居住期間、居住形態、最終学歴、職業、婚姻状況と「これまでに性的に魅力を感じたことのある相手の性別」、「これまでに性的接触を有した相手の性別」、「相手にお金を払って性交渉 (セックス) をした経験 (これまでと過去 6 ヶ月間)」「相手からお金をもらって性交渉 (セックス) をした (これまでと過去 6 ヶ月間)」の 12 問を尋ねることとした。

本調査は「日本に居住する生涯の性交相手 が同性または両方である男性」を対象として、スクリーニング調査と同様に居住ブロックと年齢階級によって 2 段層化抽出を行い、A 社 1,000 人、B 社 3,000 人を比例配分し、本調査を実施した。

本調査の質問項目は HIV や性感染症に関する知識、新たな予防方法についての知識・意識、過去 6 ヶ月間の HIV やエイズに関する対話経験、検査行動、性感染症既往歴、性行動などの全 19 問とした。

分析の結果、「HIV 感染予防のためのセックス前の服薬 (PrEP)」や「HIV に感染したかもしれないときの予防服薬 (PEP)」に関する上記のような情報について、よく知っていた割合は 11.1%である一方で、PrEP をしたことがあると回答した割合は 10.7%であった。PrEP を現在利用している人でも情報について知っている人と回答している人は 45.8%であり、服用したいと回答している人でも 16.6%と知っている人の割合は低かった。

## 研究 2 予防行動に関する量的データ収集および包括的分析からの評価

初年度はプログラムレベルのモニタリング体制としてコミュニティセンター利用者調査の実施方法について以下のように検討した。

本研究の趣旨を事前に研修を受けた CBO スタッフが書面をもとに口頭で説明し、協力同意の得られた人を対象に回答を依頼した。回答後には、回答者自身がシールで封緘を行い、回答内容をスタッフがみることなく設置された回収箱に投函する仕組みとした。回答協力者には QUO カード 500 円相当を協力謝礼として提供した。

質問項目は、先行研究をもとに作成し基本属性 (性別、居住地、居住携帯、職業、セクシュアリティ)、過去 6 ヶ月間の利用施設など、検査行動、一番最近の性行動、性感染症既往歴、コミュニティセンターの利用経験、利用状況、HIV 抗体検査や性感染症に対する規範など 20 問とした。質問項目の作成にあたっては CBO の意見をもとに修正を行った。HIV 抗体検査や性感染症に関する規範については、先行研究で検査行動と関連が報告されている項目を抜粋し、20 項目を作成した。1 回目の調査は 2019 年 2 月から開始する予定であり、目標人数は来場者数を鑑み、東京 300 人、大阪 200 人、名古屋 100 人、仙台、沖縄で各 50 人とした。

2018 年度調査については、初来場者数は全体では、20.8%、HIV 検査行動は都市部 (東京、大阪) より地方都市 (東北、沖縄) のほうが低いことが示された。コミュニティセンターでは情報提供、相談も行っているが、スタッフからの情報提供や相談への対応のみならず、来場者間での情報入手や相互に相談しサポートが行われていることが示された。2019 年度調査では、北海道においても実施した。センターへの初来場者割合は全体では 29.8%と前年調査より増加した。

本研究結果は、コミュニティセンターが果たしてきた機能の評価の基礎資料となる。ま

た、初来場者を誘導するための方策や初来場者へのセンター内での対応についても考案する基礎資料となると考える。

### **研究3 大阪のMSMにおけるHIV感染動向の把握に関する研究 - 大阪ゲイコホートの継続**

大阪市と協働し、本年度は6回のHIV抗体および梅毒抗原抗体検査会を実施した。

2018年度の受検者数は249人であり、HIV陽性割合は0.4%、梅毒抗原陽性（要治療）割合は5.6%であった。2019年度の受検者数は210人であり、HIV陽性割合は2.4%、梅毒抗原陽性（要治療）割合は8.1%であった。

### **研究4 沖縄に流入する外国人MSMの予防行動に関する研究**

研究計画では文化的背景の近い海外（台湾など）のMSMの動向と比較研究であったが、実施可能性を検討し、沖縄に流入する外国人MSMを対象として、彼らの予防行動（検査行動および感染リスク行動）を明らかにすることを目的に研究を進めた。

初年度は、外国籍MSMが回答可能な多言語アンケートシステムの構築を行い、今年度は調査を試行した。その結果、回答者数が少なく、今後も継続して調査を実施する必要があるが、日本での性行動は日本のMSMと同程度行われている一方で、日本におけるHIV検査の情報が浸透しておらず、検査機会が少ない状況であることが示唆された。

### **研究5 日本のMSMにおけるHIV感染動向の把握に関する研究 - HIV感染発生動向を活用した分析**

本研究では感染症法に基づき実施されている病原体サーベイランスのうち、MSMにおける性感染症の動向を補足することを目的に、性的接触により感染リスクの高まる5類感染症（全数把握疾患）に関して年間報告数、感染経路、性別などの情報を抽出し、HIV予防啓発に従事するNPO、研究者らと情報を共有

した。MSMにおける性感染症の発生動向把握に向けた基礎情報の収集として、男性同性間性的接触が主な感染経路である報告数の抽出を試みた。収集した情報は班会議を通して公表し、データは電子媒体で共用した。

### **研究6 医療者による新規患者・診療動向からの評価**

初年度は、主な医療機関でのHIV/AIDS患者の傾向を把握するためにアンケート調査の内容を検討し、倫理委員会の承認を得た。

内容は、抗HIV療法未導入の初診症例の総数、検査施設・医療機関・郵送検査などにおける検査数（自発的な検査および医師からの勧奨、輸血時等）、初診時にエイズを発症していた症例数、新規感染例数の傾向等とした。

AIDS発症例については、中四国を除き横這いあるいは増加傾向であることが報告された。新規感染については北陸を除き、横這いあるいは増加傾向と報告された。関東甲信越、東海、沖縄はいずれも増加傾向であり、九州は増加後横這いの傾向であることが指摘され、背景に検査行動および予防行動が影響している可能性について班会議で意見交換を行った。こうした結果の還元は、MSMにおける予防啓発活動の評価手法の一助となり、ハイリスク層におけるセクシュアルヘルスの向上につながることを期待できる。

## **D. 考察**

本研究ではMSM対象の予防啓発活動の持続的な展開基盤を整備し、CBOと連携した日本全体のMSMにおける予防の浸透度から、アカウントビリティの向上を目指した。

研究1ではモニター登録者を対象とした質問紙調査を実施し、PrEP経験別に分析を進めた。PrEPを現在利用している人でも情報について知っているとは回答している人は45.8%であり、服用したいと回答している人でも16.6%と知っている人の割合は低く、今後予防啓発にPrEPの情報を含めていく必要があること

が示唆される。また研究2でコミュニティセンターが果たしてきた機能の評価の基礎資料が得られ、コミュニティセンターの報告書等に還元された。新たな知識(研究1)や日本全体の予防啓発活動の認知(研究2)については先行研究ではほとんど把握されておらず重要な基礎資料が得られると考える。研究4では流入が増加している外国人MSMの予防行動の実態を把握し、今後の展開を検討するために試行的に調査を実施した。日本での性行動は日本のMSMと同程度行われている一方で、日本におけるHIV検査の情報が浸透しておらず、検査機会が少ない状況であることが示唆された。研究3、研究5の結果を通して日本の疫学的なHIV感染の動向を評価し、照らし合わせたうえで、研究6で医療職者からみえる現場の状況は、CBOにとって直接的なメッセージとなり、MSMにおける予防啓発活動の評価手法の一助となり、ハイリスク層におけるセクシュアルヘルスの向上につながることを期待できる。次年度は、各成果を軸に、予防啓発活動の方向性を検討する。

## E. 結論

初年度に引き続き、現在展開されている予防啓発活動を整理し、実態の把握と評価体制を整備し、2回の意見交換の機会を設定した。その中で①社会疫学的見地からの評価 ②CBOによる相互間の評価 ③相談支援者・HIV陽性当事者からみた予防介入の効果評価 ④予防行動に関する量的データ収集および包括的分析からの評価 ⑤日本のMSMにおけるHIV感染動向の把握と予防啓発活動の評価 ⑥医療者による新規患者・診療動向からの評価を試行した。

## F. 健康危険情報

特になし。

## G. 研究発表

### 1. 論文発表

- 1) 金子典代, 塩野徳史, 内海眞, 山本政弘, 健山政男, 鬼塚哲郎, 伊藤俊広, 市川誠一: 成人男性のHIV検査受検, 知識, HIV関連情報入手状況, HIV陽性者の身近さの実態 - 2009年調査と2012年調査の比較-. 日本エイズ学会誌. 19(1):16-23, 2017.
- 2) 塩野徳史, 市川誠一, 金子典代, 佐々木由理: 都市部保健所におけるHIV抗体検査受検者の特性, 厚生指標, 2018, 65(5):35-42
- 3) 金子典代, 塩野徳史, 本間隆之, 岩橋恒太, 健山正男, 市川誠一. 地方都市在住のMSM (Men who have sex with men) における調査時点までと過去1年のHIV検査経験と関連要因. 日本エイズ学会誌, 21(1):34-44, 2019.
- 4) Takahashi, N., Matsuoka S., Minh, T. T. T., Ba, H. P., Naruse, T. K., Kimura, A., Shiino, T., Kawana-Tachikawa, A., Ishikawa, K., Matano, T., and Thi, L. A. N. Human leukocyte antigen-associated gag and nef polymorphisms in HIV-1 subtype A/E-infected individuals in Vietnam. *Microbes Infect.* (18), 30163-30171. 2018.
- 5) Kato H, Kanou K, Arima Y, Ando F, Matsuoka S, Yoshimura K, Matano T, Matsui T, Sunagawa T, Oishi K. The importance of accounting for testing and positivity in surveillance by time and place: an illustration from HIV surveillance in Japan. *Epidemiol Infect.* 12:1-7. 2018.
- 6) 松岡佐織: 2015年以降の日本国内HIV/AIDS発生動向分析. 病原微生物検出情報. 2018, Vol. 39(9) p151-152.
- 7) 嶋根卓也, 今村顕史, 池田和子, 山本政弘, 辻麻理子, 長与由紀子, 松本俊彦. 薬物使用経験のあるHIV陽性者において危険ド



ラッグ使用が服薬アドヒアランスに与える影響. 日本エイズ学会誌, 20(1):32-40, 2018.

## 2. 学会発表

- 1) ○塩野徳史 ゲイコミュニティにおける HIV 抗体検査—『これまで』と『これから』 シンポジウム 3 HIV 将来予測と流行阻止 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29. 11. 24-26
- 2) ○塩野徳史 HIV 検査の受検阻害要因としてのスティグマ シンポジウム 4 スティグマの払拭は誰が担うのか 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29. 11. 24-26
- 3) ○塩野徳史, 後藤大輔, 町 登志雄, 宮田りりい, 大畑泰次郎, 伴仲昭彦, 鬼塚哲郎, 市川誠一 商業施設を利用しはじめる若年層 MSM を対象とした予防啓発介入の開発と効果評価 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29. 11. 24-26
- 4) ○荒木順子, 金子典代, 木南拓也, 岩橋恒太, 佐久間久弘, 阿部甚兵, 大島 岳, 太田 貴, 石田敏彦, 塩野徳史, 新山 賢, 金城 健, 本間隆之, 市川誠一 akta で展開したセーフターセックスキャンペーンとコミュニティベース調査による効果評価 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29. 11. 24-26
- 5) ○宮田りりい, 塩野徳史, 後藤大輔, 町 登志雄, 大畑泰次郎, 市川誠一 MSM における性交相手との出会いの場所と方法—年齢層による差異について— 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29. 11. 24-26
- 6) ○塩野徳史, 後藤大輔, 町 登志雄, 宮田りりい MSM における検査行動に関する尺度開発とコミュニティセンター利用者の変化 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29. 11. 24-26
- 7) ○後藤大輔, 中村理恵, 宮田りりい, 塩野徳史 若年層向けの行政と連携した予防啓発方法の試み 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29. 11. 24-26
- 8) ○川畑拓也, 小島洋子, 森 治代, 駒野 淳, 岩佐 厚, 亀岡 博, 菅野展史, 近藤雅彦, 杉本賢治, 高田昌彦, 田端運久, 中村幸生, 古林敬一, 清田敦彦, 伏谷加奈子, 塩野徳史, 後藤大輔, 町 登志雄, 柴田敏之, 木下 優 大阪府における MSM 向け HIV/STI 検査相談事業・平成 28 年度実績報告 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29. 11. 24-26
- 9) ○Takaku Michiko, Dorjgotov Myagmardorj, Gombo Erdenetuya, Galsanjamts Nyampurev, Jagdagsuren Davaalkham, Ichikawa Seiichi, Shiono Satoshi, Kaneko Noriyo, Oka Shinichi Studies on NGOs' HIV prevention interventions targeting MSM community in Mongolia The 31st Annual Meeting of the Japanese Society for AIDS Research, Tokyo, Nov. 24-26, 2017
- 10) ○櫻井理恵, 真木景子, 浦林純江, 青木理恵, 浅井千絵, 松本健二, 小向 潤, 植田英也, 半羽宏之, 松村直樹, 久保徹朗, 安井典子, 塩野徳史, 市川誠一 保健福祉センターにおける HIV 抗原抗体検査受検者アンケートから見た MSM 対策の評価 ワークショップ 3 検査・相談体制 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29. 11. 24-26
- 11) ○塩野徳史: U=U をめぐるメッセージと予防啓発 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会 シンポジウム 9 U=U 誰が何をどう伝えるか: 陽性者の人権とスティグマゼロへの取り組みを視野に入れて 大阪, H30. 12. 2-
- 12) ○塩野徳史: 社会分野における予防指針の課題 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会 日本エイズ学会シンポジウム

エイズ予防指針改定の背景と課題 大阪,  
H30. 12. 2-4

- 13) 宮田りりい, 塩野徳史, 金子典代.  
MSM(Men who have sex with men)に包摂  
される女装者たちの性行動やHIV感染症  
に対する意識. 第33回日本エイズ学会学  
術集会・総会 熊本, 2019. 11. 27-29.
- 14) 金子典代, 太田貴, 荒木順子, 岩橋恒太,  
石田敏彦, 宮田りりい, 塩野徳史, 玉城  
祐貴. コミュニティセンター来場者にお  
けるセンターでの情報入手や相談経験,  
HIV検査行動、新しい知識の浸透. 第33  
回日本エイズ学会学術集会・総会 熊本,  
2019. 11. 27-29.
- 15) 塩野徳史. MSMにおけるセクシュアルヘ  
ルス(HIV検査行動、新しい知識)に関  
する現状. 第33回日本エイズ学会学術集  
会・総会 熊本, 2019. 11. 27-29.
- 16) 宮階真紀, 塩野徳史, 要友紀子, 宮田り

りい, 松下修三. セックスワーカーにお  
けるセクシュアルヘルスに関する現状.  
第33回日本エイズ学会学術集会・総会  
熊本, 2019. 11. 27-29.

- 17) 塩野徳史. HIV Futures Japan プロジェ  
クトの調査結果から～老後・災害に焦点  
をあてて～. 共催シンポジウム1長期療  
養時代の医療・行政・コミュニティの協  
働態勢の構築 第33回日本エイズ学会  
学術集会・総会 熊本, 2019. 11. 27-29.

#### H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)

1. 特許取得  
なし。
2. 実用新案登録  
なし。
3. その他  
なし。

## 予防啓発活動におけるPDCAサイクルシステムの開発と機能的展開に関する研究

研究代表者：塩野徳史（大阪青山大学 健康科学部看護学科 講師）

研究協力者：市川誠一（人間環境大学）、生島嗣（NPO法人ふれいす東京）、  
高久陽介（NPO法人JaNP+）

研究協力：北海道；にじいろほっかいどう 東北；やろっこ/ZEL 首都圏；NPO法人akta/akta  
横浜；NPO法人SHIP 東海；ANGEL LIFE NAGOYA/rise 近畿；MASH大阪/dista  
中国・四国；HaaT えひめ/BRIGE プロジェクト 沖縄；nankr 沖縄/mabui

### 研究要旨

初年度は、基礎的な資料を得ることを目的として、MSMにおける新しい予防(PEP/PrEP)の準備性について、質問紙調査を実施した。2015年の国勢調査を基に、20歳から59歳の成人男性を47都道府県と年齢階級によって層化し、その割合に基づき、A社・B社保有のニター登録者を比例配分したのち、得られた成人男性を対象にしてスクリーニング調査を実施した。HIV抗体検査受検行動について、これまでに受検経験を有する人の割合は36.0%であり、年齢によって有意差がみられた( $p<0.01$ )。また過去6ヶ月間のアナルセックス経験があると回答したのは41.8%であり、コンドーム使用状況は特定相手が39.4%、特定以外の相手が43.1%であった。「HIV感染予防のためのセックス前の服薬(PrEP)」や「HIVに感染したかもしれないときの予防服薬(PEP)」に関する上記のような情報について、よく知っていた割合は11.1%である一方で、PrEPをしたことがあると回答した割合は10.7%であった。本年度はPrEP経験別に分析を行った。PrEPを現在利用している人でも情報について知っているとは回答している人は45.8%であり、服用したいと回答している人でも16.6%と知っている人の割合は低かった。分析結果の検討を進めていく必要があるが、新たな予防行動となるPrEPの情報を日本の現状を踏まえて訴求していく必要があることが示唆された。

### A. 研究目的

本研究では、北海道・東北・東京・神奈川県・東海・大阪・中国・四国・沖縄地域のCBOと協働し、現在展開されている予防啓発活動を整理し、可視化することを目的としている。そして、アウトプットをもとに、班会議等で社会疫学的視点や、CBOによる相互間、相談支援者・HIV陽性当事者の視点を含み、評価する体制を構築する。

またインターネットの近年の普及やゲイ・ツーリズムを背景として、全地域が共同して取り組むことが求められている。またコミュ

ニティセンターのない地域でのHIV感染報告も増加傾向であり、単独地域のみでは現行の予防啓発活動にも限界があると考えられる。したがって予防活動の方針や計画を確認、見直しの必要があり、それらもふまえて班会議で検討し、オールジャパンでの予防啓発活動について年数回CBO当事者を主体とした会議で計画を検討する。最終年度には予防啓発活動の方向性について、包括的な視点を含んだアクション・プランを策定することを目標としている。

評価の方法としては、プログラムレベル・

コミュニティレベル・ソーシャルレベルなどの視点から得られたデータを再構成する必要があると思われるが、初年度は、基礎的な資料を得ることを目的として、MSM における新しい予防(PEP/PrEP)の準備性について、質問紙調査を実施した。本年度は調査結果について、さらに解析を進めた。

2015 年の国勢調査を基に、20 歳から 59 歳の成人男性を 47 都道府県と年齢階級によって層化し、その割合に基づき、A 社・B 社保有のニター登録者を比例配分したのち、得られた成人男性を対象にしてスクリーニング調査を実施した。

## B. 研究方法

本調査は「日本に居住する生涯の性交相手が同性または両方である男性」を対象として、スクリーニング調査と同様に居住ブロックと年齢階級によって 2 段階抽出を行い、A 社 1,000 人、B 社 3,000 人を比例配分し、本調査を実施した。スクリーニング調査では性別、年齢、居住地、居住期間、居住形態、最終学歴、職業、婚姻状況と「これまでに性的に魅力を感じたことのある相手の性別」、「これまでに性的接触を有した相手の性別」、「相手にお金を払って性交渉(セックス)をした経験(これまでと過去 6 ヶ月間)」「相手からお金をもらって性交渉(セックス)をした(これまでと過去 6 ヶ月間)」の 12 問を尋ねることとした。

本調査は「日本に居住する生涯の性交相手が同性または両方である男性」を対象として、スクリーニング調査と同様に居住ブロックと年齢階級によって 2 段階抽出を行い、A 社 1,000 人、B 社 3,000 人を比例配分し、本調査を実施した。

本調査の質問項目は HIV や性感染症に関する知識、新たな予防方法についての知識・意識、過去 6 ヶ月間の HIV やエイズに関する対話経験、検査行動、性感染症既往歴、性行動などの全 19 問とした。

本調査の質問項目は婚姻状況、HIV や性感染症に関する知識、過去 6 ヶ月間の HIV やエイズに関する対話経験、検査行動、性感染症既往歴、性行動、セックスワーク時の環境などを尋ね、分析では年齢層別のクロス集計を行った。カイ 2 乗検定を用いて検討した。有意水準を 5%未満とした。データの集計および統計処理には IBM SPSS Statistics 23 (Windows)を用いた。

(倫理面への配慮)

本研究実施については大阪青山大学研究倫理審査委員会より実施の承認を得た。

## C. 研究結果

本報告では 20 歳～59 歳までの成人男性でかつこれまでに男性と性的接触があると回答した人を対象に有効回答 3,367 人の B 社のデータを分析した結果、基本属性は、居住形態では独居 32.6%、同居 66.6%であり、年齢によって有意差がみられた ( $p < 0.01$ )。婚姻状況では既婚 49.7%、未婚 45.1%であり、年齢によって有意差がみられた ( $p < 0.01$ )。セクシュアリティではヘテロセクシュアルと回答する人が多く 36.5%、次いでバイセクシュアル 25.0%、ゲイ 19.1%であった。これまでに同性とのみ性交渉があるのは 54.0%、同性と異性と両方と回答したのは 46.0%であった。

このうち、「HIV 感染予防のためのセックス前の服薬(PrEP)」や「HIV に感染したかもしれないときの予防服薬(PEP)」に関する上記のような情報について、よく知っていた割合は 11.1%である一方で、PrEP をしたことがあると回答した割合は 10.7%であった。

本報告では過去 6 ヶ月間に膣性交やアナルセックスをしたことがあり、かつゲイ向け商業施設を利用したことがある 849 人を対象に、PrEP 経験別に分析を進めた。過去に飲んだことがある人は 23.9%、現在飲んでいる人は 6.9%、一度も飲んだことはない人は 69.1%であった。分析結果を表 1～表 7 に示した。さらに一度も飲んだことがない 568 人のうち、

服薬したいと回答した人は 61.6%、服薬したくないと回答した人は 38.4%であった。分析結果を表 8～表 12 に示した。

PrEP に関する情報について知っている人と回答している人は全体で 32.2%であり、PrEP を現在利用している人でも 45.8%であり、経験別に有意差がみられた ( $p<0.01$ )。また服用したいと回答している人でも知っている人と回答している人の割合は 16.6%であり、意図別に有意差がみられた ( $p=0.01$ )。一方で意図別に HIV 検査経験について分析すると、服薬したいと思っている人ではこれまでに HIV 検査したことがある人は 61.4%、服薬したくないと回答した人では 49.5%であった ( $p=0.01$ )。

#### D. 考察

先行研究と比べ、MSM における属性について著変ないと考えられるが、今回初めてセクシュアリティに関する質問が可能となり、MSM の中で高い割合でヘテロセクシュアルと自認する人がいることが明らかとなった。商業施設利用については先行研究と比較してやや高い割合となっており、回答バイアスが低減された可能性も考えられる。

「HIV 感染予防のためのセックス前の服薬 (PrEP)」や「HIV に感染したかもしれないときの予防服薬 (PEP)」に関する情報について、よく知っていた割合は 11.1%である一方で、PrEP をしたことがあると回答した割合は 10.7%であった。さらに PrEP を現在利用している人でも情報について知っている人と回答している人は 45.8%であり、服用したいと回答している人でも 16.6%と知っている人の割合は低かった。分析結果の検討を進めていく必要があるが、新たな予防行動となる PrEP の情報を日本の現状を踏まえて訴求していく必要があることが示唆された。

#### E. 結論

初年度に引き続き北海道・東北・東京・神奈川県・東海・大阪・中国・四国・沖縄地域

の CBO と協働体制を整備し、今年度は福岡も参加することになり、オールジャパンの活動の方向性や活動内容について検討し始めた。

また先行研究と同様の方法で、二段層化抽出法を用いてオールジャパンに関わる MSM のデータを得た。これには MSM における新しい予防 (PEP/PrEP) の準備性や A 型肝炎などのワクチン接種経験といった新しいデータも含まれており、今後も詳細に分析結果の検討を進めていき、予防啓発活動に還元していく。

#### G. 研究発表

##### 1. 論文発表

- 1) ○塩野徳史, 市川誠一, 金子典代, 佐々木由理: 都市部保健所における HIV 抗体検査受検者の特性, 厚生学の指標, 2018, 65(5): 35-42
- 2) ○金子典代, 塩野徳史, 本間隆之, 岩橋恒太, 健山正男, 市川誠一: 地方都市在住の MSM (Men who have sex with men) における調査時点までと過去1年の HIV 検査経験と関連要因. 日本エイズ学会誌, 2019, 21(1) (受理済).

##### 2. 学会発表

- 1) ○塩野徳史 ゲイコミュニティにおける HIV 抗体検査—『これまで』と『これから』 シンポジウム 3 HIV 将来予測と流行阻止 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29. 11. 24-26
- 2) ○塩野徳史 HIV 検査の受検阻害要因としてのスティグマ シンポジウム 4 スティグマの払拭は誰が担うのか 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29. 11. 24-26
- 3) ○塩野徳史, 後藤大輔, 町 登志雄, 宮田りりい, 大畑泰次郎, 伴仲昭彦, 鬼塚哲郎, 市川誠一 商業施設を利用しはじめる若年層 MSM を対象とした予防啓発介入の開発と効果評価 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京,

- H29. 11. 24-26
- 4) ○荒木順子, 金子典代, 木南拓也, 岩橋恒太, 佐久間久弘, 阿部甚兵, 大島 岳, 太田 貴, 石田敏彦, 塩野徳史, 新山 賢, 金城 健, 本間隆之, 市川誠一 akta で展開したセーファーセックスキャンペーンとコミュニティベース調査による効果評価 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29. 11. 24-26
- 5) ○宮田りりい, 塩野徳史, 後藤大輔, 町 登志雄, 大畑泰次郎, 市川誠一 MSM における性交相手との出会いの場所と方法一年齢層による差異について一 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29. 11. 24-26
- 6) ○塩野徳史, 後藤大輔, 町 登志雄, 宮田りりい MSM における検査行動に関する尺度開発とコミュニティセンターdista 利用者の変化 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29. 11. 24-26
- 7) ○後藤大輔, 中村理恵, 宮田りりい, 塩野徳史 若年層向けの行政と連携した予防啓発方法の試み 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29. 11. 24-26
- 8) ○川畑拓也, 小島洋子, 森 治代, 駒野 淳, 岩佐 厚, 亀岡 博, 菅野展史, 近藤雅彦, 杉本賢治, 高田昌彦, 田端運久, 中村幸生, 古林敬一, 清田敦彦, 伏谷加奈子, 塩野徳史, 後藤大輔, 町 登志雄, 柴田敏之, 木下 優 大阪府における MSM 向け HIV/STI 検査相談事業・平成 28 年度実績報告 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29. 11. 24-26
- 9) ○Takaku Michiko, Dorjgotov Myagmardorj, Gombo Erdenetuya, Galsanjamts Nyampurev, Jagdagsuren Davaalkham, Ichikawa Seiichi, Shiono Satoshi, Kaneko Noriyo, Oka Shinichi Studies on NGOs' HIV prevention interventions targeting MSM community in Mongolia The 31st Annual Meeting of the Japanese Society for AIDS Research, Tokyo, Nov. 24-26, 2017
- 10) ○櫻井理恵, 真木景子, 浦林純江, 青木理恵, 浅井千絵, 松本健二, 小向 潤, 植田英也, 半羽宏之, 松村直樹, 久保徹朗, 安井典子, 塩野徳史, 市川誠一 保健福祉センターにおける HIV 抗原抗体検査受検者アンケートから見た MSM 対策の評価 ワークショップ 3 検査・相談体制 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29. 11. 24-26
- 11) ○塩野徳史: U=U をめぐるメッセージと予防啓発 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会 シンポジウム 9 U=U 誰が何をどう伝えるか: 陽性者の人権とスティグマゼロへの取り組みを視野に入れて 大阪, H30. 12. 2-
- 12) ○塩野徳史: 社会分野における予防指針の課題 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会 日本エイズ学会シンポジウム エイズ予防指針改定の背景と課題 大阪, H30. 12. 2-4

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

##### (予定を含む)

1. 特許取得  
なし。
2. 実用新案登録  
なし。
3. その他  
なし。

表1 PrEP 経験別 基本属性

	「HIV感染予防のためのセックス前の服薬 (PrEP)」をしたことがありますか。						合計 n=849	Pearson カイ2乗	
	過去に飲んだことがある		現在飲んでいる		一度も飲んだことがない				
	n=203	n=59	n=587						
<b>年齢層</b>									
29歳以下	51	25.1%	21	35.6%	45	7.7%	117	13.8%	<b>&lt;0.01</b>
30-39歳	81	39.9%	17	28.8%	185	31.5%	283	33.3%	
40-49歳	50	24.6%	13	22.0%	228	38.8%	291	34.3%	
50歳以上	21	10.3%	8	13.6%	129	22.0%	158	18.6%	
<b>地域ブロック</b>									
北海道ブロック	7	3.4%	1	1.7%	38	6.5%	46	5.4%	<b>0.03</b>
東北ブロック	10	4.9%	6	10.2%	31	5.3%	47	5.5%	
関東ブロック	102	50.2%	25	42.4%	265	45.1%	392	46.2%	
甲信越ブロック	3	1.5%	5	8.5%	17	2.9%	25	2.9%	
北陸ブロック	6	3.0%	0	0.0%	9	1.5%	15	1.8%	
東海ブロック	22	10.8%	11	18.6%	58	9.9%	91	10.7%	
近畿ブロック	31	15.3%	8	13.6%	107	18.2%	146	17.2%	
中国ブロック	5	2.5%	1	1.7%	12	2.0%	18	2.1%	
四国ブロック	5	2.5%	2	3.4%	7	1.2%	14	1.6%	
九州ブロック	12	5.9%	0	0.0%	43	7.3%	55	6.5%	
<b>あなたは、現在お住まいの地域にどのくらいの期間住んでいますか。</b>									
1年未満	9	4.4%	11	18.6%	26	4.4%	46	5.4%	<b>&lt;0.01</b>
1-5年未満	33	16.3%	11	18.6%	77	13.1%	121	14.3%	
5-10年未満	21	10.3%	4	6.8%	62	10.6%	87	10.2%	
10-20年未満	20	9.9%	8	13.6%	163	27.8%	191	22.5%	
20年以上	38	18.7%	11	18.6%	151	25.7%	200	23.6%	
生まれてからずっと	82	40.4%	14	23.7%	108	18.4%	204	24.0%	
<b>あなたは、現在、一人暮らしですか。</b>									
はい(1人暮らし)	136	67.0%	22	37.3%	228	38.8%	386	45.5%	<b>&lt;0.01</b>
いいえ	65	32.0%	37	62.7%	358	61.0%	460	54.2%	
定住している家はない	2	1.0%	0	0.0%	1	0.2%	3	0.4%	
<b>あなたの最終学歴をお答えください。</b>									
小学校	2	1.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.2%	<b>&lt;0.01</b>
中学校	8	3.9%	1	1.7%	21	3.6%	30	3.5%	
高等学校	27	13.3%	10	16.9%	126	21.5%	163	19.2%	
専門学校	6	3.0%	8	13.6%	64	10.9%	78	9.2%	
短大・高専	3	1.5%	3	5.1%	14	2.4%	20	2.4%	
大学	142	70.0%	29	49.2%	309	52.6%	480	56.5%	
大学院	15	7.4%	8	13.6%	53	9.0%	76	9.0%	
<b>あなたの現在の職業として、最も近いのは次のどれですか。</b>									
常勤(正規雇用)	187	92.1%	47	79.7%	414	70.5%	648	76.3%	<b>&lt;0.01</b>
常勤(非正規雇用)	6	3.0%	3	5.1%	34	5.8%	43	5.1%	
パートタイマー	3	1.5%	3	5.1%	14	2.4%	20	2.4%	
アルバイト	0	0.0%	3	5.1%	26	4.4%	29	3.4%	
経営者	6	3.0%	3	5.1%	53	9.0%	62	7.3%	
その他	1	0.5%	0	0.0%	13	2.2%	14	1.6%	
働いていない	0	0.0%	0	0.0%	33	5.6%	33	3.9%	
<b>あなたは、現在結婚していますか。</b>									
結婚している	110	54.2%	38	64.4%	228	38.8%	376	44.3%	<b>&lt;0.01</b>
離別・死別	6	3.0%	4	6.8%	40	6.8%	50	5.9%	
未婚	87	42.9%	17	28.8%	319	54.3%	423	49.8%	
<b>あなたは以下のどれにあてはまりますか。</b>									
ゲイ(同性愛者)	67	33.0%	12	20.3%	204	34.8%	283	33.3%	<b>&lt;0.01</b>
バイセクシュアル(両性愛者)	114	56.2%	36	61.0%	235	40.0%	385	45.3%	
ヘテロセクシュアル(異性愛者)	15	7.4%	3	5.1%	83	14.1%	101	11.9%	
わからない	4	2.0%	4	6.8%	32	5.5%	40	4.7%	
決めたくない	3	1.5%	4	6.8%	33	5.6%	40	4.7%	

表2 PrEP 経験別 商業施設利用および検査行動、性行動

	「HIV感染予防のためのセックス前の服薬 (PrEP)」をしたことがありますか。						合計 n=849	Pearson カイ2乗	
	過去に飲んだことがある		現在飲んでいる		一度も飲んだことがない				
	n=203	n=59	n=587						
あなたはこれまでに男性同性愛者が利用するような次の場所に行ったことがありますか。-ゲイバー									
ある	184	90.6%	48	81.4%	473	80.6%	705	83.0%	<0.01
ない	17	8.4%	8	13.6%	112	19.1%	137	16.1%	
知らない	2	1.0%	3	5.1%	2	0.3%	7	0.8%	
あなたはこれまでに男性同性愛者が利用するような次の場所に行ったことがありますか。-ゲイ向けクラブイベント									
ある	172	84.7%	44	74.6%	277	47.2%	493	58.1%	<0.01
ない	31	15.3%	15	25.4%	299	50.9%	345	40.6%	
知らない	0	0.0%	0	0.0%	11	1.9%	11	1.3%	
あなたはこれまでに男性同性愛者が利用するような次の場所に行ったことがありますか。-その他のゲイ向け商業施設(サウナ等)									
ある	157	77.3%	40	67.8%	382	65.1%	579	68.2%	<0.01
ない	36	17.7%	19	32.2%	180	30.7%	235	27.7%	
知らない	10	4.9%	0	0.0%	25	4.3%	35	4.1%	
これまでに、HIV抗体検査(エイズ検査)を受けたことがありますか。									
ある	192	94.6%	54	91.5%	340	57.9%	586	69.0%	<0.01
ない	11	5.4%	5	8.5%	247	42.1%	263	31.0%	
過去1年間に、HIV抗体検査(エイズ検査)を受けたことがありますか。									
ある	185	91.1%	51	86.4%	176	30.0%	412	48.5%	<0.01
ない	7	3.4%	3	5.1%	164	27.9%	174	20.5%	
これまでにない	11	5.4%	5	8.5%	247	42.1%	263	31.0%	
これまでに性感染症にかかったことがありますか。									
ある	162	79.8%	47	79.7%	211	35.9%	420	49.5%	<0.01
ない	41	20.2%	12	20.3%	376	64.1%	429	50.5%	
過去6ヶ月間に、全部で何名の方と「膣性交」や「アナルセックス」をしましたか。配偶者も含めて数えてください。									
1人	54	26.6%	13	22.0%	186	31.7%	253	29.8%	0.17
2人	53	26.1%	13	22.0%	127	21.6%	193	22.7%	
3人	36	17.7%	9	15.3%	118	20.1%	163	19.2%	
4人	11	5.4%	2	3.4%	32	5.5%	45	5.3%	
5人	12	5.9%	3	5.1%	19	3.2%	34	4.0%	
6人以上	37	18.2%	19	32.2%	105	17.9%	161	19.0%	
過去6ヶ月間の膣性交やアナルセックスの頻度はどのくらいでしたか。									
月に1回程度以下	56	27.6%	6	10.2%	305	52.0%	367	43.2%	<0.01
月に2-3回	69	34.0%	28	47.5%	156	26.6%	253	29.8%	
週1回程度	30	14.8%	11	18.6%	77	13.1%	118	13.9%	
週2-4回	18	8.9%	6	10.2%	36	6.1%	60	7.1%	
週5回以上	30	14.8%	8	13.6%	13	2.2%	51	6.0%	
過去6ヶ月間のコンドーム使用状況									
非常用	125	65.1%	41	75.9%	266	62.0%	432	64.0%	0.12
常用	67	34.9%	13	24.1%	163	38.0%	243	36.0%	
あなたは、これまでに相手にお金を払って性交渉(セックス)をしたことがありますか。									
ある	197	97.0%	54	91.5%	383	65.2%	634	74.7%	<0.01
ない	6	3.0%	5	8.5%	204	34.8%	215	25.3%	
あなたは、これまでに相手からお金をもらって性交渉(セックス)をしたことがありますか。									
ある	179	88.2%	54	91.5%	225	38.3%	458	53.9%	<0.01
ない	24	11.8%	5	8.5%	362	61.7%	391	46.1%	



表3 PrEP 経験別 対話経験

	「HIV感染予防のためのセックス前の服薬 (PrEP)」をしたことがありますか。						合計 n=849	Pearson カイ2乗	
	過去に飲んだことがある		現在飲んでいる		一度も飲んだことがない				
	n=203	n=59	n=587						
過去6ヶ月間に、両親や兄弟姉妹とHIVやエイズについて話したことがありますか。									
ある	160	78.8%	45	76.3%	54	9.2%	259	30.5%	<b>&lt;0.01</b>
ない	36	17.7%	4	6.8%	399	68.0%	439	51.7%	
該当する人はいない	7	3.4%	10	16.9%	134	22.8%	151	17.8%	
過去6ヶ月間に、恋人や大切な人とHIVやエイズについて話したことがありますか。									
ある	164	80.8%	36	61.0%	185	31.5%	385	45.3%	<b>&lt;0.01</b>
ない	36	17.7%	17	28.8%	265	45.1%	318	37.5%	
該当する人はいない	3	1.5%	6	10.2%	137	23.3%	146	17.2%	
過去6ヶ月間に、友達や知り合いとHIVやエイズについて話したことがありますか。									
ある	158	77.8%	42	71.2%	198	33.7%	398	46.9%	<b>&lt;0.01</b>
ない	35	17.2%	10	16.9%	269	45.8%	314	37.0%	
該当する人はいない	10	4.9%	7	11.9%	120	20.4%	137	16.1%	
過去6ヶ月間に、セックスした相手とHIVやエイズについて話したことがありますか。									
ある	154	75.9%	38	64.4%	168	28.6%	360	42.4%	<b>&lt;0.01</b>
ない	44	21.7%	15	25.4%	297	50.6%	356	41.9%	
該当する人はいない	5	2.5%	6	10.2%	122	20.8%	133	15.7%	
過去6ヶ月間に、医療関係者とHIVやエイズについて話したことがありますか。									
ある	143	70.4%	30	50.8%	115	19.6%	288	33.9%	<b>&lt;0.01</b>
ない	50	24.6%	18	30.5%	335	57.1%	403	47.5%	
該当する人はいない	10	4.9%	11	18.6%	137	23.3%	158	18.6%	
あなたは、友達や知り合いにHIVに感染している人はいないと思いますか。									
いる	114	56.2%	15	25.4%	99	16.9%	228	26.9%	<b>&lt;0.01</b>
いると思う	69	34.0%	33	55.9%	122	20.8%	224	26.4%	
いないと思う	14	6.9%	11	18.6%	237	40.4%	262	30.9%	
いない	3	1.5%	0	0.0%	42	7.2%	45	5.3%	
わからない	3	1.5%	0	0.0%	87	14.8%	90	10.6%	

表4 PrEP 経験別 HIV 抗体検査・性感染症に対する意識①

	「HIV感染予防のためのセックス前の服薬 (PrEP)」をしたことがありますか。						合計 n=849	Pearson カイ2乗	
	過去に飲んだことがある		現在飲んでいる		一度も飲んだことがない				
	n=203		n=59		n=587				
エイズ発症をきっかけにHIVに感染していることがわかるより、検査で早めに感染していることがわかったほうが良いと思う									
とてもそう思う	128	63.1%	29	49.2%	416	70.9%	573	67.5%	<b>&lt;0.01</b>
ややそう思う	64	31.5%	18	30.5%	139	23.7%	221	26.0%	
あまりそう思わない	11	5.4%	8	13.6%	29	4.9%	48	5.7%	
全くそう思わない	0	0.0%	4	6.8%	3	0.5%	7	0.8%	
HIVに感染しているかどうかは、ぎりぎりまであいまいなまましておきたい									
とてもそう思う	84	41.4%	15	25.4%	96	16.4%	195	23.0%	<b>&lt;0.01</b>
ややそう思う	80	39.4%	17	28.8%	104	17.7%	201	23.7%	
あまりそう思わない	30	14.8%	21	35.6%	138	23.5%	189	22.3%	
全くそう思わない	9	4.4%	6	10.2%	249	42.4%	264	31.1%	
健康を維持するためにHIV抗体検査(エイズ検査)は受けたほうがよいと思う									
とてもそう思う	97	47.8%	20	33.9%	333	56.7%	450	53.0%	<b>0.01</b>
ややそう思う	82	40.4%	29	49.2%	207	35.3%	318	37.5%	
あまりそう思わない	23	11.3%	10	16.9%	42	7.2%	75	8.8%	
全くそう思わない	1	0.5%	0	0.0%	5	0.9%	6	0.7%	
HIV抗体検査(エイズ検査)は予防に自信のないセックスをしたときに受けるべきだと思う									
とてもそう思う	94	46.3%	21	35.6%	252	42.9%	367	43.2%	<b>0.01</b>
ややそう思う	87	42.9%	18	30.5%	220	37.5%	325	38.3%	
あまりそう思わない	17	8.4%	14	23.7%	88	15.0%	119	14.0%	
全くそう思わない	5	2.5%	6	10.2%	27	4.6%	38	4.5%	
自分の知り合いや友達の多くは、HIV抗体検査(エイズ検査)を定期的に受けることは良いことだと思っている									
とてもそう思う	100	49.3%	25	42.4%	200	34.1%	325	38.3%	<b>&lt;0.01</b>
ややそう思う	82	40.4%	27	45.8%	241	41.1%	350	41.2%	
あまりそう思わない	17	8.4%	5	8.5%	122	20.8%	144	17.0%	
全くそう思わない	4	2.0%	2	3.4%	24	4.1%	30	3.5%	
自分の知り合いや友達の多くは、HIV抗体検査(エイズ検査)を受けていると思う									
とてもそう思う	103	50.7%	14	23.7%	104	17.7%	221	26.0%	<b>&lt;0.01</b>
ややそう思う	75	36.9%	24	40.7%	141	24.0%	240	28.3%	
あまりそう思わない	24	11.8%	16	27.1%	215	36.6%	255	30.0%	
全くそう思わない	1	0.5%	5	8.5%	127	21.6%	133	15.7%	
自分の知り合いや友達の多くは、HIV抗体検査(エイズ検査)を受けるのが怖いと感じていると思う									
とてもそう思う	108	53.2%	19	32.2%	126	21.5%	253	29.8%	<b>&lt;0.01</b>
ややそう思う	66	32.5%	25	42.4%	258	44.0%	349	41.1%	
あまりそう思わない	25	12.3%	13	22.0%	157	26.7%	195	23.0%	
全くそう思わない	4	2.0%	2	3.4%	46	7.8%	52	6.1%	
自分の知り合いや友達の多くは、自分がHIV抗体検査(エイズ検査)を利用しているのを他人に知られたくないと思っていると思う									
とてもそう思う	106	52.2%	21	35.6%	243	41.4%	370	43.6%	<b>&lt;0.01</b>
ややそう思う	74	36.5%	23	39.0%	241	41.1%	338	39.8%	
あまりそう思わない	23	11.3%	14	23.7%	68	11.6%	105	12.4%	
全くそう思わない	0	0.0%	1	1.7%	35	6.0%	36	4.2%	
HIV感染症は、死に至る病であると感じる									
とてもそう思う	99	48.8%	25	42.4%	187	31.9%	311	36.6%	<b>&lt;0.01</b>
ややそう思う	73	36.0%	16	27.1%	232	39.5%	321	37.8%	
あまりそう思わない	27	13.3%	16	27.1%	131	22.3%	174	20.5%	
全くそう思わない	4	2.0%	2	3.4%	37	6.3%	43	5.1%	

表5 PrEP 経験別 HIV 抗体検査・性感染症に対する意識②

	「HIV感染予防のためのセックス前の服薬 (PrEP)」をしたことがありますか。						合計 n=849	Pearson カイ2乗	
	過去に飲んだことがある		現在飲んでいる		一度も飲んだことがない				
	n=203	n=59	n=587						
HIVに感染していても、自分は今と同じように働いたり、生活することができると思う									
とてもそう思う	99	48.8%	20	33.9%	188	32.0%	307	36.2%	<b>&lt;0.01</b>
ややそう思う	72	35.5%	23	39.0%	252	42.9%	347	40.9%	
あまりそう思わない	27	13.3%	14	23.7%	117	19.9%	158	18.6%	
全くそう思わない	5	2.5%	2	3.4%	30	5.1%	37	4.4%	
HIVに感染したら、セックスをする前に、相手にそのことを伝えたいと思う									
とてもそう思う	99	48.8%	21	35.6%	266	45.3%	386	45.5%	<b>&lt;0.01</b>
ややそう思う	78	38.4%	21	35.6%	209	35.6%	308	36.3%	
あまりそう思わない	26	12.8%	16	27.1%	83	14.1%	125	14.7%	
全くそう思わない	0	0.0%	1	1.7%	29	4.9%	30	3.5%	
HIVに感染したら、恋愛や結婚はあきらめなければならないと思う									
とてもそう思う	95	46.8%	13	22.0%	148	25.2%	256	30.2%	<b>&lt;0.01</b>
ややそう思う	71	35.0%	26	44.1%	201	34.2%	298	35.1%	
あまりそう思わない	29	14.3%	13	22.0%	177	30.2%	219	25.8%	
全くそう思わない	8	3.9%	7	11.9%	61	10.4%	76	9.0%	
性感染症に感染すれば、自分自身を振り返って悪いことしたなと感じる									
とてもそう思う	96	47.3%	24	40.7%	205	34.9%	325	38.3%	<b>&lt;0.01</b>
ややそう思う	91	44.8%	19	32.2%	278	47.4%	388	45.7%	
あまりそう思わない	14	6.9%	12	20.3%	78	13.3%	104	12.2%	
全くそう思わない	2	1.0%	4	6.8%	26	4.4%	32	3.8%	
性感染症に感染すれば、セックスをする相手は見つけにくくなると思う									
とてもそう思う	111	54.7%	19	32.2%	264	45.0%	394	46.4%	<b>&lt;0.01</b>
ややそう思う	76	37.4%	26	44.1%	240	40.9%	342	40.3%	
あまりそう思わない	14	6.9%	14	23.7%	66	11.2%	94	11.1%	
全くそう思わない	2	1.0%	0	0.0%	17	2.9%	19	2.2%	
性感染症に感染すれば、友達と今までのようにはつきあえなくなると思う									
とてもそう思う	99	48.8%	14	23.7%	145	24.7%	258	30.4%	<b>&lt;0.01</b>
ややそう思う	84	41.4%	32	54.2%	231	39.4%	347	40.9%	
あまりそう思わない	18	8.9%	11	18.6%	148	25.2%	177	20.8%	
全くそう思わない	2	1.0%	2	3.4%	63	10.7%	67	7.9%	
性感染症に感染したことが周りの友達に知られたら、嫌な印象を持たれると思う									
とてもそう思う	103	50.7%	21	35.6%	268	45.7%	392	46.2%	0.17
ややそう思う	82	40.4%	29	49.2%	271	46.2%	382	45.0%	
あまりそう思わない	13	6.4%	6	10.2%	40	6.8%	59	6.9%	
全くそう思わない	5	2.5%	3	5.1%	8	1.4%	16	1.9%	
HIVを持っている人はセックスをする前に、そのことを相手に話すべきだと思う									
とてもそう思う	112	55.2%	24	40.7%	314	53.5%	450	53.0%	<b>0.01</b>
ややそう思う	72	35.5%	19	32.2%	213	36.3%	304	35.8%	
あまりそう思わない	15	7.4%	14	23.7%	52	8.9%	81	9.5%	
全くそう思わない	4	2.0%	2	3.4%	8	1.4%	14	1.6%	

表6 PrEP 経験別 HIV 抗体検査・性感染症に関する知識

	「HIV感染予防のためのセックス前の服薬 (PrEP)」をしたことがありますか。						合計 n=849	Pearson カイ2乗	
	過去に飲んだことがある		現在飲んでいる		一度も飲んだことがない				
	n=203	n=59	n=587						
最近、わが国のHIVの感染経路は性行為によるものが最も多い									
正しい	166	81.8%	35	59.3%	462	78.7%	663	78.1%	<0.01
正しくない	26	12.8%	15	25.4%	56	9.5%	97	11.4%	
わからない	11	5.4%	9	15.3%	69	11.8%	89	10.5%	
HIV感染症は医療の進歩で、服薬を継続することでエイズ発症をコントロールできる病気となった									
正しい	153	75.4%	28	47.5%	455	77.5%	636	74.9%	<0.01
正しくない	35	17.2%	18	30.5%	46	7.8%	99	11.7%	
わからない	15	7.4%	13	22.0%	86	14.7%	114	13.4%	
適切な治療を行えば、HIVに感染しても、感染していない人とはほぼ同じ寿命を生きることができる									
正しい	142	70.0%	34	57.6%	429	73.1%	605	71.3%	<0.01
正しくない	42	20.7%	10	16.9%	60	10.2%	112	13.2%	
わからない	19	9.4%	15	25.4%	98	16.7%	132	15.5%	
適切に治療することにより、他の人へHIVを感染させる危険性をほぼ減らすことができる									
正しい	153	75.4%	26	44.1%	399	68.0%	578	68.1%	<0.01
正しくない	34	16.7%	19	32.2%	84	14.3%	137	16.1%	
わからない	16	7.9%	14	23.7%	104	17.7%	134	15.8%	
HIV感染により免疫が低下すると、さまざまな性感染症(性病)や悪性腫瘍(がん)にかかりやすくなる									
正しい	154	75.9%	26	44.1%	436	74.3%	616	72.6%	<0.01
正しくない	35	17.2%	19	32.2%	53	9.0%	107	12.6%	
わからない	14	6.9%	14	23.7%	98	16.7%	126	14.8%	
通常のHIV抗体検査(エイズ検査)では、HIVに感染してから2~3ヶ月経過しないと感染しているかどうかわからない									
正しい	145	71.4%	26	44.1%	370	63.0%	541	63.7%	<0.01
正しくない	39	19.2%	18	30.5%	69	11.8%	126	14.8%	
わからない	19	9.4%	15	25.4%	148	25.2%	182	21.4%	
HIV即日検査や郵送検査キットでは感染していなくても陽性(感染している)と結果が出ることもある									
正しい	129	63.5%	25	42.4%	319	54.3%	473	55.7%	<0.01
正しくない	46	22.7%	21	35.6%	61	10.4%	128	15.1%	
わからない	28	13.8%	13	22.0%	207	35.3%	248	29.2%	
HIV即日検査や郵送検査キットでは、検査結果を確認するため病院などで再度検査が必要になる場合がある									
正しい	146	71.9%	30	50.8%	392	66.8%	568	66.9%	<0.01
正しくない	37	18.2%	17	28.8%	32	5.5%	86	10.1%	
わからない	20	9.9%	12	20.3%	163	27.8%	195	23.0%	
保健所では名前を言わずに無料でHIV抗体検査(エイズ検査)ができる									
正しい	133	65.5%	35	59.3%	477	81.3%	645	76.0%	<0.01
正しくない	53	26.1%	10	16.9%	16	2.7%	79	9.3%	
わからない	17	8.4%	14	23.7%	94	16.0%	125	14.7%	
性感染症(性病)に感染していると、HIVに感染しやすくなる									
正しい	148	72.9%	26	44.1%	338	57.6%	512	60.3%	<0.01
正しくない	33	16.3%	23	39.0%	90	15.3%	146	17.2%	
わからない	22	10.8%	10	16.9%	159	27.1%	191	22.5%	

表7 PrEP 経験別 PrEP に関する情報認知、経験

	「HIV感染予防のためのセックス前の服薬 (PrEP)」をしたことがありますか。						合計	Pearson カイ2乗	
	過去に飲んだことがある		現在飲んでいる		一度も飲んだことがない				
	n=203	n=59	n=587	n=849					
PrEPやPEPIに関する情報について、知っていましたか。									
とてもよく知っている	167	82.3%	27	45.8%	79	13.5%	273	32.2%	<b>&lt;0.01</b>
具体的には知らないが、聞いたことはある	34	16.7%	30	50.8%	230	39.2%	294	34.6%	
まったく知らなかった	2	1.0%	2	3.4%	278	47.4%	282	33.2%	
友達や知り合い、セックスの相手で、PrEPをしている人はいると思いますか。									
いる	125	61.6%	10	16.9%	19	3.2%	154	18.1%	<b>&lt;0.01</b>
いると思う	66	32.5%	41	69.5%	126	21.5%	233	27.4%	
いないと思う	10	4.9%	7	11.9%	225	38.3%	242	28.5%	
いない	0	0.0%	1	1.7%	53	9.0%	54	6.4%	
わからない	2	1.0%	0	0.0%	164	27.9%	166	19.6%	
あなたはPrEPをしたいと思いませんか。									
服薬したい	129	63.5%	20	33.9%	96	16.4%	245	28.9%	<b>&lt;0.01</b>
どちらかといえば、服薬したい	64	31.5%	22	37.3%	254	43.3%	340	40.0%	
どちらかといえば、服薬したくない	9	4.4%	17	28.8%	166	28.3%	192	22.6%	
服薬したくない	0	0.0%	0	0.0%	52	8.9%	52	6.1%	
治療で抗HIV薬の服薬治療を続けている	1	0.5%	0	0.0%	19	3.2%	20	2.4%	

表8 PrEP 未経験者における意図別 HIV 抗体検査・性感染症に関する知識

	「HIV感染予防のためのセックス前の服薬 (PrEP)」をしたいと思いませんか。				合計		Pearson カイ2乗
	服薬したくない		服薬したい		n=568		
	n=218		n=350				
あなたは、これまでに相手にお金を払って性交渉(セックス)をしたことがありますか。							
ある	146	67.0%	228	65.1%	374	65.8%	0.65
ない	72	33.0%	122	34.9%	194	34.2%	
あなたは、これまでに相手からお金をもらって性交渉(セックス)をしたことがありますか。							
ある	71	32.6%	143	40.9%	214	37.7%	0.05
ない	147	67.4%	207	59.1%	354	62.3%	
最近、わが国のHIVの感染経路は性行為によるものが最も多い							
正しい	157	72.0%	288	82.3%	445	78.3%	0.01
正しくない	25	11.5%	29	8.3%	54	9.5%	
わからない	36	16.5%	33	9.4%	69	12.1%	
HIV感染症は医療の進歩で、服薬を継続することでエイズ発症をコントロールできる病気となった							
正しい	148	67.9%	288	82.3%	436	76.8%	<0.01
正しくない	22	10.1%	24	6.9%	46	8.1%	
わからない	48	22.0%	38	10.9%	86	15.1%	
適切な治療を行えば、HIVに感染しても、感染していない人とほぼ同じ寿命を生きることができる							
正しい	143	65.6%	267	76.3%	410	72.2%	0.02
正しくない	28	12.8%	32	9.1%	60	10.6%	
わからない	47	21.6%	51	14.6%	98	17.3%	
適切に治療することにより、他の人へHIVを感染させる危険性をほぼ減らすことができる							
正しい	128	58.7%	253	72.3%	381	67.1%	<0.01
正しくない	39	17.9%	44	12.6%	83	14.6%	
わからない	51	23.4%	53	15.1%	104	18.3%	
HIV感染により免疫が低下すると、さまざまな性感染症(性病)や悪性腫瘍(がん)にかかりやすくなる							
正しい	147	67.4%	272	77.7%	419	73.8%	0.01
正しくない	28	12.8%	23	6.6%	51	9.0%	
わからない	43	19.7%	55	15.7%	98	17.3%	
通常のHIV抗体検査(エイズ検査)では、HIVに感染してから2~3ヶ月経過しないと感染しているかどうかわからない							
正しい	128	58.7%	226	64.6%	354	62.3%	0.37
正しくない	28	12.8%	40	11.4%	68	12.0%	
わからない	62	28.4%	84	24.0%	146	25.7%	
HIV即日検査や郵送検査キットでは感染していなくても陽性(感染している)と結果が出ることもある							
正しい	101	46.3%	204	58.3%	305	53.7%	0.02
正しくない	28	12.8%	33	9.4%	61	10.7%	
わからない	89	40.8%	113	32.3%	202	35.6%	
HIV即日検査や郵送検査キットでは、検査結果を確認するため病院などで再度検査が必要になる場合がある							
正しい	123	56.4%	255	72.9%	378	66.5%	<0.01
正しくない	16	7.3%	16	4.6%	32	5.6%	
わからない	79	36.2%	79	22.6%	158	27.8%	
保健所では名前を言わずに無料でHIV抗体検査(エイズ検査)ができる							
正しい	166	76.1%	294	84.0%	460	81.0%	0.02
正しくない	5	2.3%	11	3.1%	16	2.8%	
わからない	47	21.6%	45	12.9%	92	16.2%	
性感染症(性病)に感染していると、HIVに感染しやすくなる							
正しい	105	48.2%	220	62.9%	325	57.2%	<0.01
正しくない	42	19.3%	46	13.1%	88	15.5%	
わからない	71	32.6%	84	24.0%	155	27.3%	

表9 PrEP 未経験者における意図別 HIV 抗体検査・性感染症に対する意識①

	「HIV感染予防のためのセックス前の服薬 (PrEP)」をしたいと思いますか。				合計		Pearson カイ 2 乗
	服薬したくない		服薬したい				
	n=218		n=350		n=568		
過去6ヶ月間に、両親や兄弟姉妹とHIVやエイズについて話したことがありますか。							
ある	11	5.0%	39	11.1%	50	8.8%	<b>0.03</b>
ない	152	69.7%	239	68.3%	391	68.8%	
該当する人はいない	55	25.2%	72	20.6%	127	22.4%	
過去6ヶ月間に、恋人や大切な人とHIVやエイズについて話したことがありますか。							
ある	48	22.0%	131	37.4%	179	31.5%	<b>&lt;0.01</b>
ない	110	50.5%	147	42.0%	257	45.2%	
該当する人はいない	60	27.5%	72	20.6%	132	23.2%	
過去6ヶ月間に、友達や知り合いとHIVやエイズについて話したことがありますか。							
ある	45	20.6%	145	41.4%	190	33.5%	<b>&lt;0.01</b>
ない	118	54.1%	147	42.0%	265	46.7%	
該当する人はいない	55	25.2%	58	16.6%	113	19.9%	
過去6ヶ月間に、セックスした相手とHIVやエイズについて話したことがありますか。							
ある	40	18.3%	123	35.1%	163	28.7%	<b>&lt;0.01</b>
ない	125	57.3%	163	46.6%	288	50.7%	
該当する人はいない	53	24.3%	64	18.3%	117	20.6%	
過去6ヶ月間に、医療関係者とHIVやエイズについて話したことがありますか。							
ある	27	12.4%	72	20.6%	99	17.4%	<b>0.02</b>
ない	130	59.6%	203	58.0%	333	58.6%	
該当する人はいない	61	28.0%	75	21.4%	136	23.9%	
あなたは、友達や知り合いにHIVに感染している人はいると思いますか。							
いる	27	12.4%	59	16.9%	86	15.1%	<b>0.04</b>
いると思う	35	16.1%	83	23.7%	118	20.8%	
いないと思う	101	46.3%	136	38.9%	237	41.7%	
いない	15	6.9%	27	7.7%	42	7.4%	
わからない	40	18.3%	45	12.9%	85	15.0%	
エイズ発症をきっかけにHIVに感染していることがわかるより、検査で早めに感染していることがわかったほうが良いと思う							
とてもそう思う	150	68.8%	250	71.4%	400	70.4%	0.92
ややそう思う	56	25.7%	82	23.4%	138	24.3%	
あまりそう思わない	11	5.0%	16	4.6%	27	4.8%	
全くそう思わない	1	0.5%	2	0.6%	3	0.5%	
HIVに感染しているかどうかは、ぎりぎりまであいまいなままにしておきたい							
とてもそう思う	35	16.1%	57	16.3%	92	16.2%	0.62
ややそう思う	45	20.6%	57	16.3%	102	18.0%	
あまりそう思わない	49	22.5%	82	23.4%	131	23.1%	
全くそう思わない	89	40.8%	154	44.0%	243	42.8%	
健康を維持するためにHIV抗体検査(エイズ検査)は受けたほうがよいと思う							
とてもそう思う	95	43.6%	224	64.0%	319	56.2%	<b>&lt;0.01</b>
ややそう思う	102	46.8%	102	29.1%	204	35.9%	
あまりそう思わない	18	8.3%	22	6.3%	40	7.0%	
全くそう思わない	3	1.4%	2	0.6%	5	0.9%	
HIV抗体検査(エイズ検査)は予防に自信のないセックスをしたときに受けるべきだと思う							
とてもそう思う	78	35.8%	164	46.9%	242	42.6%	<b>&lt;0.01</b>
ややそう思う	84	38.5%	133	38.0%	217	38.2%	
あまりそう思わない	46	21.1%	39	11.1%	85	15.0%	
全くそう思わない	10	4.6%	14	4.0%	24	4.2%	
自分の知り合いや友達の多くは、HIV抗体検査(エイズ検査)を定期的に受けることは良いことだと思っている							
とてもそう思う	57	26.1%	139	39.7%	196	34.5%	<b>&lt;0.01</b>
ややそう思う	99	45.4%	132	37.7%	231	40.7%	
あまりそう思わない	47	21.6%	70	20.0%	117	20.6%	
全くそう思わない	15	6.9%	9	2.6%	24	4.2%	

表10 PrEP 未経験者における意図別 HIV 抗体検査・性感染症に対する意識②

	「HIV感染予防のためのセックス前の服薬 (PrEP)」をしたいと思いませんか。				合計		Pearson カイ2乗
	服薬したくない		服薬したい		n=568		
	n=218		n=350				
自分の知り合いや友達の多くは、HIV抗体検査(エイズ検査)を受けていると思う							
とてもそう思う	33	15.1%	70	20.0%	103	18.1%	<b>&lt;0.01</b>
ややそう思う	58	26.6%	78	22.3%	136	23.9%	
あまりそう思わない	66	30.3%	140	40.0%	206	36.3%	
全くそう思わない	61	28.0%	62	17.7%	123	21.7%	
自分の知り合いや友達の多くは、HIV抗体検査(エイズ検査)を受けるのが怖いと感じていると思う							
とてもそう思う	41	18.8%	83	23.7%	124	21.8%	<b>0.03</b>
ややそう思う	87	39.9%	165	47.1%	252	44.4%	
あまりそう思わない	69	31.7%	79	22.6%	148	26.1%	
全くそう思わない	21	9.6%	23	6.6%	44	7.7%	
自分の知り合いや友達の多くは、自分がHIV抗体検査(エイズ検査)を利用しているのを他人に知られたくないと思っていると思う							
とてもそう思う	83	38.1%	153	43.7%	236	41.5%	<b>0.01</b>
ややそう思う	82	37.6%	150	42.9%	232	40.8%	
あまりそう思わない	32	14.7%	33	9.4%	65	11.4%	
全くそう思わない	21	9.6%	14	4.0%	35	6.2%	
HIV感染症は、死に至る病であると感じる							
とてもそう思う	79	36.2%	107	30.6%	186	32.7%	0.29
ややそう思う	76	34.9%	150	42.9%	226	39.8%	
あまりそう思わない	50	22.9%	75	21.4%	125	22.0%	
全くそう思わない	13	6.0%	18	5.1%	31	5.5%	
HIVに感染していても、自分は今と同じように働いたり、生活することができると思う							
とてもそう思う	62	28.4%	119	34.0%	181	31.9%	0.25
ややそう思う	92	42.2%	153	43.7%	245	43.1%	
あまりそう思わない	51	23.4%	61	17.4%	112	19.7%	
全くそう思わない	13	6.0%	17	4.9%	30	5.3%	
HIVに感染したら、セックスをする前に、相手にそのことを伝えたいと思う							
とてもそう思う	93	42.7%	171	48.9%	264	46.5%	0.38
ややそう思う	82	37.6%	120	34.3%	202	35.6%	
あまりそう思わない	30	13.8%	46	13.1%	76	13.4%	
全くそう思わない	13	6.0%	13	3.7%	26	4.6%	
HIVに感染したら、恋愛や結婚はあきらめなければならないと思う							
とてもそう思う	53	24.3%	94	26.9%	147	25.9%	<b>0.02</b>
ややそう思う	91	41.7%	106	30.3%	197	34.7%	
あまりそう思わない	50	22.9%	116	33.1%	166	29.2%	
全くそう思わない	24	11.0%	34	9.7%	58	10.2%	
性感染症に感染すれば、自分自身を振り返って悪いことしたなと感じる							
とてもそう思う	66	30.3%	131	37.4%	197	34.7%	0.28
ややそう思う	108	49.5%	163	46.6%	271	47.7%	
あまりそう思わない	32	14.7%	43	12.3%	75	13.2%	
全くそう思わない	12	5.5%	13	3.7%	25	4.4%	
性感染症に感染すれば、セックスをする相手は見つけにくくなると思う							
とてもそう思う	96	44.0%	164	46.9%	260	45.8%	<b>0.01</b>
ややそう思う	87	39.9%	143	40.9%	230	40.5%	
あまりそう思わない	22	10.1%	39	11.1%	61	10.7%	
全くそう思わない	13	6.0%	4	1.1%	17	3.0%	
性感染症に感染すれば、友達と今までのようにはつきあえなくなると思う							
とてもそう思う	52	23.9%	91	26.0%	143	25.2%	0.41
ややそう思う	95	43.6%	130	37.1%	225	39.6%	
あまりそう思わない	47	21.6%	92	26.3%	139	24.5%	
全くそう思わない	24	11.0%	37	10.6%	61	10.7%	
性感染症に感染したことが周りの友達に知られたら、嫌な印象を持たれると思う							
とてもそう思う	109	50.0%	149	42.6%	258	45.4%	0.25
ややそう思う	90	41.3%	175	50.0%	265	46.7%	
あまりそう思わない	16	7.3%	22	6.3%	38	6.7%	
全くそう思わない	3	1.4%	4	1.1%	7	1.2%	



表 1 1 PrEP 未経験者における意図別 検査行動

	「HIV感染予防のためのセックス前の服薬 (PrEP)」をしたいと思いますか。				合計		Pearson カイ 2 乗
	服薬したくない		服薬したい		n=568		
	n=218		n=350				
HIVを持っている人はセックスをする前に、そのことを相手に話すべきだと思う							
とてもそう思う	104	47.7%	206	58.9%	310	54.6%	<b>0.03</b>
ややそう思う	86	39.4%	118	33.7%	204	35.9%	
あまりそう思わない	24	11.0%	24	6.9%	48	8.5%	
全くそう思わない	4	1.8%	2	0.6%	6	1.1%	
これまでのコミュニティセンター利用							
利用なし	181	83.0%	254	72.6%	435	76.6%	<b>&lt;0.01</b>
利用あり	37	17.0%	96	27.4%	133	23.4%	
友達や知り合い、セックスの相手で、HIVに感染していない人の中にPrEPをしている人はいると思いますか。							
いる	4	1.8%	15	4.3%	19	3.3%	<b>&lt;0.01</b>
いると思う	26	11.9%	99	28.3%	125	22.0%	
いないと思う	93	42.7%	126	36.0%	219	38.6%	
いない	23	10.6%	30	8.6%	53	9.3%	
わからない	72	33.0%	80	22.9%	152	26.8%	
これまで、HIV抗体検査 (エイズ検査) を受けたことがありますか。							
ある	108	49.5%	215	61.4%	323	56.9%	<b>0.01</b>
ない	110	50.5%	135	38.6%	245	43.1%	
これまで受けた、HIV抗体検査 (エイズ検査) の場所はどこですか。 <sup>1)</sup>							
保健所の即日検査	42	38.9%	108	50.2%	150	46.4%	0.05
保健所の夜間検査	11	10.2%	41	19.1%	52	16.1%	<b>0.04</b>
保健所の即日・夜間検査以外	20	18.5%	48	22.3%	68	21.1%	0.43
病院	39	36.1%	49	22.8%	88	27.2%	<b>0.01</b>
クリニック・医院・診療所	10	9.3%	39	18.1%	49	15.2%	<b>0.04</b>
郵送検査キット	7	6.5%	24	11.2%	31	9.6%	0.18
その他	2	1.9%	1	0.5%	3	0.9%	0.22
過去1年間に、HIV抗体検査 (エイズ検査) を受けたことがありますか。							
ある	47	21.6%	118	33.7%	165	29.0%	<b>&lt;0.01</b>
ない	61	28.0%	97	27.7%	158	27.8%	
これまでにない	110	50.5%	135	38.6%	245	43.1%	
過去1年間に受けた、HIV抗体検査 (エイズ検査) の場所はどこですか。							
保健所の即日検査	19	8.7%	62	17.7%	81	14.3%	<b>&lt;0.01</b>
保健所の夜間検査	7	3.2%	21	6.0%	28	4.9%	<b>0.01</b>
保健所の即日・夜間検査以外	11	5.0%	19	5.4%	30	5.3%	<b>0.01</b>
病院	7	3.2%	19	5.4%	26	4.6%	<b>0.01</b>
クリニック・医院・診療所	9	4.1%	16	4.6%	25	4.4%	<b>0.01</b>
郵送検査キット	7	3.2%	19	5.4%	26	4.6%	<b>0.01</b>
その他	0	0.0%	1	0.3%	1	0.2%	<b>0.01</b>
HIV抗体検査 (エイズ検査) を受けなかった理由はどれにあてはまりますか。 <sup>2)</sup>							
結果を知るのが怖いから	21	19.1%	46	34.1%	67	27.3%	<b>0.01</b>
HIVに感染している可能性がないから	45	40.9%	48	35.6%	93	38.0%	0.39
曖昧なままにしておきたいから	3	2.7%	10	7.4%	13	5.3%	0.10
どこで検査を受けたら良いかわからないから	22	20.0%	28	20.7%	50	20.4%	0.89
機会(時間や場所など)がなかったから	33	30.0%	42	31.1%	75	30.6%	0.85
お金がかかるから	20	18.2%	15	11.1%	35	14.3%	0.12
HIVに感染しているのではないかと疑われるから	5	4.5%	16	11.9%	21	8.6%	0.04
面倒だから	23	20.9%	33	24.4%	56	22.9%	0.51
検査場所での知り合いに会う可能性があるから	6	5.5%	8	5.9%	14	5.7%	0.87
その他	1	0.9%	0	0.0%	1	0.4%	0.27

1) これまでにHIV抗体検査を受検したことがある人を対象として集計した

2) これまでにHIV抗体検査を受検したことがない人を対象として集計した

表 1 2 PrEP 未経験者における意向別 性行動

	「HIV感染予防のためのセックス前の服薬 (PrEP)」をしたいと思いますか。				合計		Pearson カイ 2 乗
	服薬したくない		服薬したい		n=568		
	n=218		n=350				
これまでに性感染症にかかったことがありますか。							
ある	66	30.3%	128	36.6%	194	34.2%	0.12
ない	152	69.7%	222	63.4%	374	65.8%	
PrEPやPEPに関する上記のような情報について、知っていましたか。							
とてもよく知っている	17	7.8%	58	16.6%	75	13.2%	<b>0.01</b>
具体的には知らないが、聞いたことはある	87	39.9%	136	38.9%	223	39.3%	
まったく知らなかった	114	52.3%	156	44.6%	270	47.5%	
あなたは過去6ヶ月間に、膣性交やアナルセックスをしたことがありますか。							
ある	218	100.0%	350	100.0%	568	100.0%	-
ない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
過去6ヶ月間に、全部で何名の方と「膣性交」や「アナルセックス」をしましたか。配偶者も含めて数えてください。							
1人	83	38.1%	100	28.6%	183	32.2%	0.05
2人	38	17.4%	85	24.3%	123	21.7%	
3人	48	22.0%	63	18.0%	111	19.5%	
4人	9	4.1%	23	6.6%	32	5.6%	
5人	5	2.3%	14	4.0%	19	3.3%	
6人以上	35	16.1%	65	18.6%	100	17.6%	
過去6ヶ月間の膣性交やアナルセックスの頻度はどのくらいでしたか。							
月に1回程度以下	128	58.7%	167	47.7%	295	51.9%	<b>&lt;0.01</b>
月に2-3回	39	17.9%	111	31.7%	150	26.4%	
週1回程度	28	12.8%	48	13.7%	76	13.4%	
週2-4回	18	8.3%	18	5.1%	36	6.3%	
週5回以上	5	2.3%	6	1.7%	11	1.9%	
過去6ヶ月間のコンドーム使用状況 <sup>1)</sup>							
非常用	104	70.7%	149	56.2%	253	61.4%	<b>&lt;0.01</b>
常用	43	29.3%	116	43.8%	159	38.6%	

1) 無回答を除いて集計したため総数が異なる

## 予防行動に関する量的データ収集および包括的分析からの評価

研究分担者：金子典代（名古屋市立大学看護学部 准教授）

研究協力者：塩野徳史（大阪青山大学健康科学部看護学科）、岩橋恒太（NPO 法人 akta）、東北；やろっこ/ZEL 首都圏；NPO 法人 akta/akta、横浜；NPO 法人 SHIP 東海；ANGEL LIFE NAGOYA/rise、近畿；MASH 大阪/dista、中国・四国；HaaT えひめ/BRIGE プロジェクト、沖縄；nankr 沖縄/mabui

### 研究要旨

本研究の目的は、全国のゲイバイセクシュアル男性における検査行動の実態とニーズを把握し、より効果的な検査促進プログラムの開発と検査促進プログラムの評価資料とすることである。本質問紙調査は、コミュニティセンターakta、コミュニティセンターZEL、コミュニティセンターrise、コミュニティセンターdista、コミュニティセンターmabui にて実施し、スタッフが来場者に調査目的と参加条件を説明し、アンケートを手渡しし回答を任意で依頼した。第1回調査は、2019年2月から3月にかけて仙台 ZEL では50件、東京 akta では300件、大阪では200件、名古屋では100件、沖縄では50件の質問紙を配布し総計536件の有効回答を得た。第2回調査では、第1回調査での配布地域に加え、北海道でも配布を行った。2019年12月から2020年1月にかけて実施し、総計690件の有効回答を得た。本年度は2018年度に実施した調査の来場経験別、地域別の比較を行った。

2018年度調査については、初来場者数は全体では、20.8%、HIV検査行動は都市部（東京、大阪）より地方都市（東北、沖縄）のほうが低いことが示された。コミュニティセンターでは情報提供、相談も行っているが、スタッフからの情報提供や相談への対応のみならず、来場者間での情報入手や相互に相談しサポートが行われていることが示された。2019年度調査では、北海道においても実施した。センターへの初来場者割合は全体では29.8%と前年調査より増加した。

本研究結果は、コミュニティセンターが果たしてきた機能の評価の基礎資料となる。また、初来場者を誘導するための方策や初来場者へのセンター内での対応についても考案する基礎資料となることが期待できる。

### A. 研究目的

本研究の目的は、全国のゲイバイセクシュアル男性における検査行動の実態とニーズを把握し、より効果的な検査促進プログラムの開発と検査促進プログラムの評価資料とする。

効果的な検査促進プログラムの開発、実施、評価には対象者の検査ニーズ把握、行動モニタリングが必須となる。本研究により全国の MSM の HIV 検査行動など予防行動の実態、ニーズ、

現行のプログラムの評価資料を得ることが可能となる。この成果を NPO akta やコミュニティセンターを運営するやろっこ、エンジェルライフ名古屋、MASH 大阪、nankr といった各地域の NGO の予防行動促進や検査勧奨等のプログラムに反映させ評価資料としても活用することが期待できる。

### B. 研究方法

本質問紙調査は、コミュニティセンターakta、コミュニティセンターZEL、コミュニティセンターrise、コミュニティセンターdista、コミュニティセンターmabuiにて実施する。訓練を受けたスタッフが来場者にアンケートを手渡し、調査目的と参加条件を説明し、回答を依頼する。なお、スタッフへの訓練のプログラム内容は、研究者による本研究の概要の説明、対象者に説明する内容の説明、対象者への協力依頼について実演、また実際のロールプレイを含むものとする。回答した質問紙は会場内に設置した鍵付きの回収箱にて回収する。なお、回答済み質問紙の投函に対し、500円の金券を配布する。

研究協力者と研究方法および調査内容を検討し、本研究は名古屋市立大学看護学部研究倫理審査委員会より承認を得た。

2018年のセンターごと来場者数実績をもとに、1か月の想定来場人数を算定し、一斉に調査を実施した。必要最低限なサンプル数なども鑑み、仙台ZELでは50部、東京aktaでは300部、大阪では200部、名古屋では100部、沖縄では50部の質問紙を準備し配布した。北海道にはコミュニティセンターはないが、MSM ALL JAPANのネットワークで連携しているにじいろほっかいどうのサークルの場で50部を準備し配布した。

2019年2月から3月にかけて第1回目の調査を、2019年12月から2020年1月にかけて第2回目となる調査を実施した。第1回調査では総計536件（MSM：82.9%）の有効回答を得て、第2回調査では、総計690件（MSM：71.0%）の回答を得て分析を行った。

統計解析はSPSS ver21により実施した。カテゴリー変数間の関連については回カイ二乗検定、またはFisherの直接検定により独立性、割

	東京 (N226)	大阪 (N200)	名古屋 (N68)	仙台 (N42)	沖縄 (N21)	全体 (N557)
初来場者割合	19.6%	28.0%	2.9%	11.9%	23.8%	20.2%
MSM割合	83.6%	72.0%	98.5%	97.6%	100.0%	82.9%
平均年齢	36.5	38.2	35.8	39.1	34.2	37.1

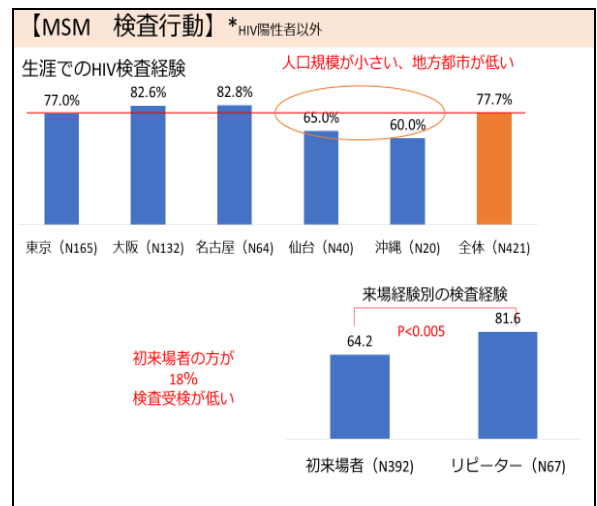
合の差の検定を行った。

## C. 研究結果

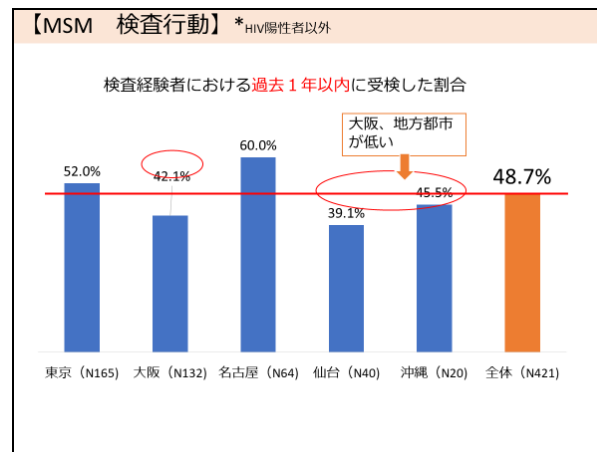
### 1) 2018年度調査について

地域別の来場者の属性は、下記表1のとおりである。全体で見ると、初来場割合は20.2%であった。MSM割合は82.9%、平均年齢は地域により若干の差があるものの、全体では37歳であった。

MSMに限定しHIV検査行動を見たところ、生涯の検査経験については、地域別に差が見られた。地方都市の方が低くリピーターの方が初来場者より、検査経験を有していた。



過去1年のHIV検査行動については、名古屋が60.0%と最も高く、大阪、仙台、沖縄が平均より低くなっていった。



コミュニティセンターでMSMの来場者により

行われる相談は、様々な形態のものがあり、クライアントからスタッフへ寄せられるもののみならず、センター利用者に相談するもの、センターに来て友達どうして相談するものなど複数の形態があることが示された。ピアでの相談も多く行われていることが示された。センター来場者のうち 40.7%が何らかの形で悩みや不安について相談していることが示された。

MSM 来場者における、U=U や治療薬の延命効果の知識の保有度については地域により差が見られ、沖縄、仙台が平均より低い傾向が見られた。また、来場経験別にみると、初来場者よりリピーターの方が認知割合が高かった。2018 年に実施された内閣府の世論調査と比較すると知識は高いことが示された。またこれらの新しい知識の保有と検査行動に関連があるかを調べたところ、いずれの項目においてもこの知識を持っていることと生涯での検査行動には関連が見られた。

## 2) 2019 年度調査について

初来場者割合は全体では 28.6%、MSM 割合は 71.0%、平均年齢は 37.1%であった。昨年より初来場者割合が上昇していた。

	東京 (N300)	大阪 (N200)	名古屋 (N95)	仙台 (N37)	沖縄 (N38)	北海道 (N20)	全体 (N557)
初来場者割合	36.7%	22.1%	25.5%	21.6%	18.4%	20.0%	28.6%
MSM割合	60.0%	81.5%	62.1%	89.2%	94.7%	95.0%	71.0%
平均年齢	37.0	37.7	38.2	41.3	33.4	26.1	37.1

MSM に限定した分析については、来場経験別にみると、初来場者割合は 17.4%、初来場者の方が一人暮らしが多く、性指向はゲイの割合が高かった。過去6か月の商業施設の利用では、リピーターの方がサークルの利用が有意に高く、その他の施設の利用もリピーターの方が高い傾向が見られた。性行動については、初来場者の方が過去6か月に性交渉をしているものの割合が高かった。梅毒の罹患割合は初来場者は 7.0%、リピーターは 13.2%であり、有意差はないがリピーターの方が高かった。センターでのコンドームや資材の受け取り経験、情報入手、相談経験はリピーターの方が高かった。自身が MSM であることを周囲の異性愛

者にカミングアウトをしている割合は初来場者の方が低かった。生涯での HIV 検査を受けたことがある割合については、リピーターの方が高かった。来場経験にかかわらず、保健所を最後の検査場所にしたものがどの地域でも多かった。

MSM に限定し、かつ地域別にみると、来場者の年齢層は名古屋、仙台で高く、沖縄、北海道は低い傾向が見られた。ゲイナイト、ゲイショップ、有料ハッテン場の利用は地方都市の方が低く、出会い系アプリは地方都市の方が高かった。金銭を払った性交渉の経験は、東京、名古屋で高かった。センターでの情報入手、相談経験は名古屋、仙台、沖縄で高かった。生涯の検査受検行動は沖縄、北海道が低かった。HIV 検査の受検場所は保健所・保健センター、病院、臨時検査会を挙げるものが多かった。

## D. 考察

これまでに複数の男性同性愛者向けコミュニティセンターの来場者に対して一斉に実施した調査はなく、本調査は初めてコミュニティセンター来場者の特性を示すものとなった。概ね半数以上のセンター来場者はコミュニティペーパーや予防資材を受け取り、スタッフからも性感染症やエイズの情報を得ていた。来場者のうち 84-87%は、過去6か月に男性とアナルセックス経験があり、初来場者においても 66.7-80.8%は過去6か月にアナルセックスの経験を有しておりある程度性行動アクティブなものを受け入れる場所として機能していることが示唆された。リピーターはセンターにおいて HIV エイズの情報やコンドームなどの資材を入手しているのみならず、相談をスタッフにした経験、またセンター内で来場者に相談を行うなどピアサポートも行われていることが明らかとなった。

## E. 結論

コミュニティセンターの来場者の特性を基礎属性、検査行動、性行動、HIV や検査に関する考え方、知識など複数の側面から明らかにする

ことができた。今後は来場経験のみならず、地域別、年齢別にも特性を分析を行っていく。本研究結果は、コミュニティセンターが果たしてきた機能の評価の基礎資料となる。また、初来場者を誘導するための方策や初来場者へのセンター内での対応についても考案する基礎資料となると考える。

## F. 研究発表

### 1. 論文発表

○1) 金子典代, 塩野徳史, 本間隆之, 岩橋恒太, 健山正男, 市川誠一: 地方都市在住の MSM (Men who have sex with men) における調査時点までと過去1年の HIV 検査経験と関連要因. 日本エイズ学会誌, 2019, 21(1)

### 2. 学会発表

#### 2. 学会発表 (国内)

- 1) 金子典代: MSM における HIV 検査受検、定期検査受検のハードルを下げるための試み. 日本エイズ学会シンポジウム、第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 2) 金子典代: MSM に対する検査提供と予防介入の実践と変遷. シンポジウム 4、第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 3) 高橋良介、石田敏彦、藤浦裕二、岩崎 誠、今橋真弓、金子典代: 東海地域におけるゲイ・バイセクシュアル男性を対象とした性感染症検査会の NGO による広報とその効果. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 4) 金子典代、太田 貴、荒木 順、岩橋恒太、石田敏彦、宮田りりい、塩野徳史、玉城祐貴: コミュニティセンター来場者におけるセンターでの情報入手や相談経験、HIV 検査行動、新しい知識の浸透. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 5) 岩橋恒太、金子典代、高野 操、岡 慎一、本間隆之、健山正男、玉城祐貴、市川誠一、荒木 順、木南拓也、生島 嗣、佐藤郁夫、福原寿弥、林田庸総、中山保世、小日向弘雄、今村顕史: MSM を対象とした郵送検査キット用

いた HIV 検査「HIVcheck.jp」のベニューの拡大の試行. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.

- 6) 宮田りりい、塩野徳史、金子典代: MSM (Men who have sex with men) に包摂される女装者たちの性行動や HIV 感染症に対する意識. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
  - 7) Michiko Takaku, Myagmardorj Dorjgotov, Erdenetuya Gombo, Nyampurev Galsanjamts, Davaalkham Jagdagsuren, Seiichi Ichikawa, Satoshi Shiono, Noriyo Kaneko, Shinichi Oka : Studies evaluating NGOs' HIV prevention interventions targeting MSM community in Mongolia: Results of the internet surveys in FY 2013, 2014, 2017 and 2018. The 33<sup>rd</sup> Annual Meeting of the Japanese Society for AIDS Research, Kumamoto, 2019.
  - 8) 林田庸総、柏木恵莉、土屋亮人、高野 操、青木孝弘、鴻永博之、菊池 嘉、岩橋恒太、金子典代、岡 慎一: 乾燥ろ紙血を用いた HIV Ag/Ab 郵送検査の性質についての検討. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
  - 9) 岩橋恒太、金子典代、荒木 順、木南拓也、鈴木敦大、堅多敦子、今村顕史: MSM を対象とする、2018 年の A 型肝炎の拡大の注意喚起に関する効果評価調査. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
  - 10) 今村顕史、堅多敦子、岩橋恒太、荒木 順、金子典代、生島 嗣、西浦 博、齋藤涼平: MSM における A 型肝炎流行への対策と効果についての検討. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
  - 11) 金子典代: MSM に対する支援 何が必要か. シンポジウム 1、第 68 回日本感染症学会東日本地方会学術集会・第 66 回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会、仙台、2019.
- ### 3. 学会発表 (国外)
- 1) Kota Iwahashi, Noriyo Kaneko, Misao

Takano, Shinichi Oka, Takayuki Honma, Masao Tateyama, Seiichi Ichikawa, Jun Araki, Takuya Kinami, Yuzuru Ikushima, Ikuo Sato, Toshiya Fukuhara, Tsunefusa Hayashida, Nakayama Yasuyo, Hiroo Obinata, Akifumi Imamura: Dry Blood Spot-Based HIV Testing ‘HIVcheck.jp’ is a New Testing Opportunity for Men who have Sex with Men in Tokyo, Japan. FAST-TRACK CITIES 2019, LONDON, September, 2019.

2) Kinami T, Fujiwara K, Suzuki A, Abe J, Araki J, Iwahashi K, Kaneko N, Honma T: The Outreach Programme “Delivery Health Project” as the Best Practice of HIV Prevention for MSM in Tokyo Japan. FAST-TRACK CITIES 2019, LONDON, September, 2019.

#### **G. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）**

1. 特許取得

なし。

2. 実用新案登録

なし。

3. その他

なし。

表 1. 来場経験別に見た基礎属性、商業施設の利用（2018 年度調査）

	初来場者 N=66		リピーター N=391		合計 N=457		有意差□
<b>地域</b>							
東京	37	55.2%	150	38.2%	187	40.7%	0.01
大阪	18	26.9%	126	32.1%	144	31.3%	
名古屋	2	3.0%	65	16.5%	67	14.6%	
仙台	5	7.5%	36	9.2%	41	8.9%	
沖縄	5	7.5%	16	4.1%	21	4.6%	
<b>居住形態</b>							
1人暮らし	22	32.8%	197	50.1%	219	47.6%	0.01
親や兄弟・姉妹と同居	30	44.8%	135	34.4%	165	35.9%	0.10
同性のパートナーと同居	7	10.4%	40	10.2%	47	10.2%	0.95
<b>就労形態</b>							
正規雇用経営者	30	45.5%	197	53.1%	227	51.9%	0.38
非正規学生アルバイト	32	48.5%	146	39.4%	178	40.7%	
無職	4	6.1%	28	7.5%	32	7.3%	
<b>性指向</b>							
ゲイ（同性愛者）	49	73.1%	341	87.0%	390	85.0%	0.01
バイセクシュアル（両性愛者）	16	23.9%	40	10.2%	56	12.2%	
わからない・決めたくない	1	1.5%	8	2.0%	9	2.0%	
その他	1	1.5%	3	.8%	4	.9%	
<b>過去6か月商業施設利用</b>							
ゲイバー	40	59.7%	255	64.9%	295	64.1%	0.41
ゲイナイト	11	16.4%	102	26.0%	113	24.6%	0.09
ゲイショップ	14	20.9%	123	31.3%	137	29.8%	0.09
ゲイ向けサークル	4	6.0%	64	16.3%	68	14.8%	0.03
ゲイ向け合コン	0	0.0%	7	1.8%	7	1.5%	0.27
twitter/facebook sns	30	44.8%	216	55.0%	246	53.5%	0.12
P C 出会い系サイト	8	11.9%	36	9.2%	44	9.6%	0.47
携帯出会い系サイト	18	26.9%	78	19.8%	96	20.9%	0.19
エロ系SNS	4	6.0%	31	7.9%	35	7.6%	0.58
スマートフォンのゲイ向けアプリ	31	46.3%	208	52.9%	239	52.0%	0.31
乱交パーティー	0	0.0%	8	2.0%	8	1.7%	0.24
有料ハッテン場	23	34.3%	127	32.3%	150	32.6%	0.75
野外のハッテン場	7	10.4%	23	5.9%	30	6.5%	0.16
何も利用せず	11	16.4%	73	18.6%	84	18.3%	0.67



表2 来場経験別に見た性行動 (2018年度調査)

	初来場者 N=66		リピーター N=391		合計 N=457		有意差口
<b>生涯での男性とのアナルセックス経験</b>							
ある	55	84.6%	344	88.4%	399	87.9%	0.38
ない	10	15.4%	45	11.6%	55	12.1%	
<b>最後の男性とのアナル時の時期</b>							
現在～過去6カ月間の間	45	84.9%	201	58.6%	246	62.1%	0.00
過去6カ月間～過去1年間の間	1	1.9%	30	8.7%	31	7.8%	
1年以上前	3	5.7%	85	24.8%	88	22.2%	
覚えていない	4	7.5%	27	7.9%	31	7.8%	
<b>最後のアナル時の相手</b>							
彼氏や恋人	14	26.9%	109	32.1%	123	31.4%	0.46
友達やセックスフレンド	20	38.5%	96	28.2%	116	29.6%	
その場限りの相手	15	28.8%	119	35.0%	134	34.2%	
その他	3	5.8%	16	4.7%	19	4.8%	
<b>最後のアナル時のゴム使用</b>							
使った	31	58.5%	227	66.6%	258	65.5%	0.17
使わなかった	20	37.7%	89	26.1%	109	27.7%	
覚えていない	2	3.8%	25	7.3%	27	6.9%	
<b>過去6か月アナルした人での常用非常用</b>							
使った	31	58.5%	227	66.6%	258	65.5%	0.25
使わず覚えてない	22	41.5%	114	33.4%	136	34.5%	
<b>過去半年に金銭をもらったセックス</b>							
ある	4	6.3%	11	2.9%	15	3.3%	0.16
ない	60	93.8%	374	97.1%	434	96.7%	
<b>過去半年に金銭を払ったセックス</b>							
ある	3	4.8%	18	4.8%	21	4.8%	0.98
ない	59	95.2%	359	95.2%	418	95.2%	
<b>これまでに罹患したSTD</b>							
梅毒	3	4.5%	45	11.5%	48	10.4%	0.08
A型肝炎	2	3.0%	6	1.5%	8	1.7%	0.40
B型肝炎	1	1.5%	27	6.9%	28	6.1%	0.09
C型肝炎	1	1.5%	4	1.0%	5	1.1%	0.73
クラミジア	3	4.5%	31	7.9%	34	7.4%	0.32
コンジローマ	4	6.0%	16	4.1%	20	4.3%	0.48
淋病	6	9.0%	25	6.4%	31	6.7%	0.43
HIV感染症	4	6.0%	36	9.2%	40	8.7%	0.39
赤痢アメーバ	0	0.0%	8	2.0%	8	1.7%	0.24
毛じらみ	13	19.4%	99	25.2%	112	24.3%	0.31
性器ヘルペス	0	0.0%	6	1.5%	6	1.3%	0.31
その他	0	0.0%	5	1.3%	5	1.1%	0.35
いずれもない	42	62.7%	214	54.5%	256	55.7%	0.21

表 3、来場経験別の資材受け取り、相談、検査行動（2018 年度調査）

	初来場者 N=66		リピーター N=391		合計 N=457		有意差口
<b>センターでのゴムや資材受け取り経験</b>							
ある	8	11.9%	332	85.1%	340	74.4%	0.00
ない	59	88.1%	58	14.9%	117	25.6%	
<b>センターでの情報入手経験(誰から)</b>							
センターのスタッフから聞いた	4	6.0%	245	62.3%	249	54.1%	0.00
センターに来て、利用者 友達から	1	1.5%	86	21.9%	87	18.9%	0.00
センターに来て、雑誌から得た	1	1.5%	65	16.5%	66	14.3%	0.00
センターに来て、雑誌から得た	4	6.0%	173	44.0%	177	38.5%	0.00
<b>悩みや不安について相談したこと</b>							
センターのスタッフに相談した	1	1.5%	128	32.6%	129	28.0%	0.00
利用者に相談	0	0.0%	48	12.2%	48	10.4%	0.00
、友達同士で相談	1	1.5%	75	19.1%	76	16.5%	0.00
全くなし	63	94.0%	205	52.2%	268	58.3%	0.00
<b>あなたは異性愛者にどのくらいカミングアウトしていますか？</b>							
誰にもしていない	21	32.3%	82	21.8%	103	23.3%	0.02
1-10人未満	36	55.4%	194	51.5%	230	52.0%	
10人以上	8	12.3%	101	26.8%	109	24.7%	
<b>生涯でのHIV検査経験</b>							
ある	43	64.2%	320	81.6%	363	79.1%	0.00
ない	24	35.8%	72	18.4%	96	20.9%	
<b>生涯での検査回数</b>							
1回だけ	17	41.5%	73	23.4%	90	25.5%	0.09
2回	6	14.6%	52	16.7%	58	16.4%	
3回	5	12.2%	41	13.1%	46	13.0%	
4回以上	13	31.7%	146	46.8%	159	45.0%	
<b>直近の検査時期</b>							
過去6カ月の間	12	27.9%	106	33.1%	118	32.5%	0.58
過去6カ月以上前～過去1年の間	6	14.0%	38	11.9%	44	12.1%	
過去1年以上前～過去3年の間	15	34.9%	96	30.0%	111	30.6%	
過去3年以上前	7	16.3%	70	21.9%	77	21.2%	
不明	3	7.0%	10	3.1%	13	3.6%	
<b>過去1年の検査受検</b>							
過去1年	18	45.0%	144	46.5%	162	46.3%	0.86
1年より前	22	55.0%	166	53.5%	188	53.7%	
<b>直近の検査場所</b>							
病院	7	17.5%	53	17.0%	60	17.0%	0.21
診療所・クリニック・医院	6	15.0%	26	8.3%	32	9.1%	
保健所・保健センター	19	47.5%	97	31.1%	116	33.0%	
南新宿検査・相談室	3	7.5%	23	7.4%	26	7.4%	
chot CAST なんば	2	5.0%	13	4.2%	15	4.3%	
自宅/郵送検査（H I V検査キット）	1	2.5%	12	3.8%	13	3.7%	
HIV check（東京/akta）	0	0.0%	18	5.8%	18	5.1%	
NLGR+検査会（名古屋）	0	0.0%	21	6.7%	21	6.0%	
M検（名古屋・岐阜）・名古屋市性感染症	0	0.0%	10	3.2%	10	2.8%	
distaでピタッとちえっくん（大阪）	0	0.0%	21	6.7%	21	6.0%	
mabuiで HIV&梅毒検査!!（沖縄）	0	0.0%	4	1.3%	4	1.1%	
その他	2	5.0%	14	4.5%	16	4.5%	

表 4、配布地域別の基礎属性（2018 年度調査）

	東京 N=226	大阪 N=200	名古屋 N=68	仙台 N=42	沖縄 N=21	合計 N=557	有意差
<b>来場経験</b>							
初来場者	37 19.8%	18 12.5%	2 3.0%	5 12.2%	5 23.8%	67 14.6%	0.009
リピーター	150 80.2%	126 87.5%	65 97.0%	36 87.8%	16 76.2%	393 85.4%	
<b>年齢3区分</b>							
29歳未満	60 32.4%	36 25.2%	28 42.4%	10 24.4%	9 42.9%	143 31.4%	0.021
30-39	55 29.7%	59 41.3%	10 15.2%	13 31.7%	6 28.6%	143 31.4%	
40以上	70 37.8%	48 33.6%	28 42.4%	18 43.9%	6 28.6%	170 37.3%	
<b>居住形態</b>							
一人暮らし	100 52.9%	76 52.8%	24 35.8%	18 43.9%	3 14.3%	221 47.8%	0.002
親や兄弟・姉妹と同居	51 27.0%	46 31.9%	37 55.2%	16 39.0%	15 71.4%	165 35.7%	0.000
同性パートナーと同郷	23 12.2%	15 10.4%	4 6.0%	3 7.3%	2 9.5%	47 10.2%	0.644
<b>就労形態</b>							
正規雇用経営者	77 43.3%	79 59.0%	38 58.5%	25 61.0%	8 42.1%	227 51.9%	0.117
非正規学生アルバイト	83 46.6%	48 35.8%	24 36.9%	13 31.7%	10 52.6%	178 40.7%	
無職	18 10.1%	7 5.2%	3 4.6%	3 7.3%	1 5.3%	32 7.3%	
<b>過去6か月商業施設利用</b>							
ゲイバー	134 70.9%	94 65.3%	36 53.7%	20 48.8%	12 57.1%	296 64.1%	0.020
ゲイナイト	53 28.0%	43 29.9%	10 14.9%	4 9.8%	3 14.3%	113 24.5%	0.012
ゲイショップ	65 34.4%	34 23.6%	21 31.3%	17 41.5%	1 4.8%	138 29.9%	0.009
ゲイ向けサークル	24 12.7%	31 21.5%	9 13.4%	3 7.3%	1 4.8%	68 14.7%	0.050
ゲイ向け合コン	1 0.5%	4 2.8%	1 1.5%	1 2.4%	0 0.0%	7 1.5%	
twitter/facebook sns	95 50.3%	85 59.0%	42 62.7%	14 34.1%	10 47.6%	246 53.2%	0.024
P C出会い系サイト	26 13.8%	14 9.7%	3 4.5%	1 2.4%	0 0.0%	44 9.5%	0.033
携帯出会い系サイト	48 25.4%	23 16.0%	8 11.9%	12 29.3%	6 28.6%	97 21.0%	0.038
工口系SNS	19 10.1%	10 6.9%	2 3.0%	3 7.3%	1 4.8%	35 7.6%	0.407
スマートフォンのゲイ向けアプリ	102 54.0%	65 45.1%	40 59.7%	21 51.2%	11 52.4%	239 51.7%	0.331
乱交パーティー	5 2.6%	1 0.7%	2 3.0%	0 0.0%	0 0.0%	8 1.7%	0.470
有料ハッテン場	75 39.7%	47 32.6%	18 26.9%	8 19.5%	3 14.3%	151 32.7%	0.020
野外のハッテン場	18 9.5%	8 5.6%	3 4.5%	1 2.4%	1 4.8%	31 6.7%	0.336
ハッテン場で有名な銭湯・プール	38 20.1%	25 17.4%	10 14.9%	10 24.4%	2 9.5%	85 18.4%	0.543

表 5、配布地域別の性行動（2018 年度調査）

	東京 N=226	大阪 N=200	名古屋 N=68	仙台 N=42	沖縄 N=21	合計 N=557	有意差
<b>生涯での男性とのアナルセックス経験</b>							
経験あり	163 88.6%	124 86.1%	63 95.5%	34 85.0%	16 76.2%	400 87.9%	0.131
<b>最後の男性とのアナル時の時期</b>							
現在～過去6カ月間の間	101 63.1%	71 58.7%	40 62.5%	24 66.7%	10 62.5%	246 62.0%	0.846
過去6カ月間～過去1年間の間	16 10.0%	9 7.4%	3 4.7%	3 8.3%	0 0.0%	31 7.8%	
1年以上前	35 21.9%	29 24.0%	15 23.4%	6 16.7%	4 25.0%	89 22.4%	
<b>最後のアナル時の相手</b>							
覚えていない	8 5.0%	12 9.9%	6 9.4%	3 8.3%	2 12.5%	31 7.8%	0.114
彼氏や恋人	41 25.6%	47 39.2%	18 29.5%	12 33.3%	5 31.3%	123 31.3%	
友達やセックスフレンド	51 31.9%	24 20.0%	23 37.7%	14 38.9%	4 25.0%	116 29.5%	
その場限りの相手	58 36.3%	47 39.2%	16 26.2%	8 22.2%	6 37.5%	135 34.4%	
その他	10 6.3%	2 1.7%	4 6.6%	2 5.6%	1 6.3%	19 4.8%	
<b>最後のアナル時のゴム使用</b>							
直近アナルでゴムを使った	100 62.1%	83 69.2%	47 74.6%	21 60.0%	7 43.8%	258 65.3%	0.029
使わなかった	52 32.3%	28 23.3%	10 15.9%	14 40.0%	6 37.5%	110 27.8%	
覚えていない	9 5.6%	9 7.5%	6 9.5%	0 0.0%	3 18.8%	27 6.8%	
<b>過去半年に金銭をもらったセックス</b>							
ある	9 4.9%	3 2.1%	3 4.6%	0 0.0%	0 0.0%	15 3.3%	0.350
ない	175 95.1%	137 97.9%	62 95.4%	40 100.0%	21 100.0%	435 96.7%	
<b>過去半年に金銭を払ったセックス</b>							
ある	15 8.4%	4 2.9%	0 0.0%	1 2.5%	1 4.8%	21 4.8%	0.044
ない	164 91.6%	132 97.1%	64 #####	39 97.5%	20 95.2%	419 95.2%	
<b>これまでに罹患したSTD</b>							
梅毒	25 13.2%	17 11.8%	3 4.5%	3 7.3%	1 4.8%	49 10.6%	0.243
A型肝炎	6 3.2%	2 1.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	8 1.7%	0.321
B型肝炎	15 7.9%	7 4.9%	6 9.0%	0 0.0%	0 0.0%	28 6.1%	0.164
C型肝炎	2 1.1%	2 1.4%	0 0.0%	1 2.4%	0 0.0%	5 1.1%	0.773
クラミジア	14 7.4%	14 9.7%	3 4.5%	2 4.9%	1 4.8%	34 7.4%	0.631
コンジローマ	9 4.8%	10 6.9%	0 0.0%	1 2.4%	0 0.0%	20 4.3%	0.147
淋病	15 7.9%	12 8.3%	1 1.5%	3 7.3%	0 0.0%	31 6.7%	0.239
HIV感染症	24 12.7%	11 7.6%	3 4.5%	1 2.4%	1 4.8%	40 8.7%	0.092
赤痢アメーバ	4 2.1%	3 2.1%	0 0.0%	1 2.4%	0 0.0%	8 1.7%	0.747
毛じらみ	51 27.0%	39 27.1%	10 14.9%	9 22.0%	3 14.3%	112 24.2%	0.213
性器ヘルペス	5 2.6%	1 .7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 1.3%	0.310

表 6、配布地域別の資材受け取り、検査行動（2018 年度調査）

	東京 N=226	大阪 N=200	名古屋 N=68	仙台 N=42	沖縄 N=21	合計 N=557	有意差
<b>あなたは異性愛者にどのくらいカミングアウトしていますか？</b>							
誰にもしていない	34 18.3%	37 27.6%	15 23.1%	13 34.2%	4 20.0%	103 23.3%	0.002
1-10人未満	87 46.8%	73 54.5%	37 56.9%	19 50.0%	15 75.0%	231 52.1%	
10人以上	65 34.9%	24 17.9%	13 20.0%	6 15.8%	1 5.0%	109 24.6%	
<b>センターでの Condom 資材の受け取り経験</b>							
あり	131 70.1	103 72.5	60 89.6	33 80.5	14 66.7	341 74.5	0.02
なし	56 29.9%	39 27.9%	7 10.4%	8 19.5%	7 33.3%	117 25.5%	
<b>センターでの情報入手経験(誰から)</b>							
センターのスタッフから聞いた	83 43.9%	73 50.7%	54 80.6%	28 68.3%	11 52.4%	249 53.9%	0.000
センターに来て、利用者	31 16.4%	25 17.4%	18 26.9%	9 22.0%	4 19.0%	87 18.8%	0.403
友達から	26 13.8%	20 13.9%	15 22.4%	4 9.8%	1 4.8%	66 14.3%	0.267
センターに来て、雑誌や	70 37.0%	58 40.3%	27 40.3%	18 43.9%	5 23.8%	178 38.5%	0.579
<b>悩みや不安について相談したこと</b>							
センターのスタッフに相談した	41 21.7%	36 25.0%	23 34.3%	22 53.7%	7 33.3%	129 27.9%	0.001
利用者に相談	16 8.5%	12 8.3%	8 11.9%	10 24.4%	2 9.5%	48 10.4%	0.037
、友達同士で相談	26 13.8%	26 18.1%	14 20.9%	7 17.1%	3 14.3%	76 16.5%	0.678
全くなし	124 65.6%	83 57.6%	34 50.7%	17 41.5%	12 57.1%	270 58.4%	0.032
<b>生涯での HIV 検査経験</b>							
ある	150 79.4%	120 83.9%	56 83.6%	27 65.9%	12 57.1%	365 79.2%	0.010
ない	39 20.6%	23 16.1%	11 16.4%	14 34.1%	9 42.9%	96 20.8%	
<b>生涯での検査回数</b>							
1回だけ	51 34.5%	20 16.8%	10 18.9%	6 25.0%	3 27.3%	90 25.4%	0.007
2回	24 16.2%	22 18.5%	8 15.1%	4 16.7%	1 9.1%	59 16.6%	
3回	17 11.5%	12 10.1%	7 13.2%	7 29.2%	4 36.4%	47 13.2%	
4回以上	56 37.8%	65 54.6%	28 52.8%	7 29.2%	3 27.3%	159 44.8%	
<b>直近の検査時期</b>							
直近の検査時期過去6カ月の間	51 34.0%	35 29.2%	18 32.1%	9 33.3%	5 41.7%	118 32.3%	0.017
過去6カ月以上前～過去1年の間	20 13.3%	12 10.0%	13 23.2%	0 0.0%	0 0.0%	45 12.3%	
過去1年以上前～過去3年の間	39 26.0%	42 35.0%	14 25.0%	12 44.4%	4 33.3%	111 30.4%	
過去3年以上前	38 25.3%	28 23.3%	7 12.5%	3 11.1%	2 16.7%	78 21.4%	
不明	2 1.3%	3 2.5%	4 7.1%	3 11.1%	1 8.3%	13 3.6%	
<b>過去1年の検査受検</b>							
過去1年に受けた	71 48.0%	47 40.2%	31 59.6%	9 37.5%	5 45.5%	163 46.3%	0.172
1年より前	77 52.0%	70 59.8%	21 40.4%	15 62.5%	6 54.5%	189 53.7%	

表 7、配布地域別の資材受け取り、検査行動（2018 年度調査）

	東京 N=226	大阪 N=200	名古屋 N=68	仙台 N=42	沖縄 N=21	合計 N=557	有意差
<b>直近の検査場所</b>							
病院	33 22.6%	20 16.8%	5 9.4%	3 12.0%	0 0.0%	61 17.2%	0.000
診療所・クリニック・医院	16 11.0%	13 10.9%	2 3.8%	1 4.0%	0 0.0%	32 9.0%	
保健所・保健センター	37 25.3%	40 33.6%	18 34.0%	17 68.0%	5 45.5%	117 33.1%	
南新宿検査・相談室	25 17.1%	0 0.0%	1 1.9%	0 0.0%	0 0.0%	26 7.3%	
chot CAST なんば	0 0.0%	13 10.9%	0 0.0%	0 0.0%	2 18.2%	15 4.2%	
自宅/郵送検査（H I V検査キット）	9 6.2%	3 2.5%	1 1.9%	0 0.0%	0 0.0%	13 3.7%	
HIV check（東京/akta）	18 12.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	18 5.1%	
NLGR + 検査会（名古屋）	3 2.1%	3 2.5%	15 28.3%	0 0.0%	0 0.0%	21 5.9%	
M検（名古屋・岐阜）・名古屋市感染症	1 .7%	1 .8%	8 15.1%	0 0.0%	0 0.0%	10 2.8%	
distaでピタッとちえっくん（大阪）	0 0.0%	20 16.8%	1 1.9%	0 0.0%	0 0.0%	21 5.9%	
mabuiで HIV&梅毒検査!!（沖縄）	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 36.4%	4 1.1%	
その他	4 2.7%	6 5.0%	2 3.8%	4 16.0%	0 0.0%	16 4.5%	
<b>以下、HIV陰性者（自己申告）のみ（再掲）</b>							
<b>直近の検査時期</b>							
直近の検査時期過去6カ月の間	45 35.4%	33 30.3%	17 32.1%	9 34.6%	5 41.7%	109 33.3%	0.049
過去6カ月以上前～過去1年の間	20 15.7%	12 11.0%	13 24.5%	0 0.0%	0 0.0%	45 13.8%	
過去1年以上前～過去3年の間	37 29.1%	42 38.5%	13 24.5%	12 46.2%	4 33.3%	108 33.0%	
過去3年以上前	23 18.1%	20 18.3%	7 13.2%	2 7.7%	2 16.7%	54 16.5%	
不明	2 1.6%	2 1.8%	3 5.7%	3 11.5%	1 8.3%	11 3.4%	
<b>過去1年の検査受検</b>							
過去1年に受けた	65 52.0%	45 42.1%	30 60.0%	9 39.1%	5 45.5%	154 48.7%	0.208
1年より前	60 48.0%	62 57.9%	20 40.0%	14 60.9%	6 54.5%	162 51.3%	
<b>直近の検査場所</b>							
病院	25 20.3%	15 13.9%	3 6.0%	3 12.5%	0 0.0%	46 14.6%	0.000
診療所・クリニック・医院	11 8.9%	12 11.1%	2 4.0%	1 4.2%	0 0.0%	26 8.2%	
保健所・保健センター	32 26.0%	37 34.3%	18 36.0%	16 66.7%	5 45.5%	108 34.2%	
南新宿検査・相談室	21 17.1%	0 0.0%	1 2.0%	0 0.0%	0 0.0%	22 7.0%	
chot CAST なんば	0 0.0%	11 10.2%	0 0.0%	0 0.0%	2 18.2%	13 4.1%	
自宅/郵送検査（H I V検査キット）	9 7.3%	3 2.8%	1 2.0%	0 0.0%	0 0.0%	13 4.1%	
HIV check（東京/akta）	18 14.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	18 5.7%	
NLGR + 検査会（名古屋）	3 2.4%	3 2.8%	15 30.0%	0 0.0%	0 0.0%	21 6.6%	
M検（名古屋・岐阜）・名古屋市感染症	1 .8%	1 .9%	7 14.0%	0 0.0%	0 0.0%	9 2.8%	
distaでピタッとちえっくん（大阪）	0 0.0%	20 18.5%	1 2.0%	0 0.0%	0 0.0%	21 6.6%	
mabuiで HIV&梅毒検査!!（沖縄）	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 36.4%	4 1.3%	
その他	3 2.4%	6 5.6%	2 4.0%	4 16.7%	0 0.0%	15 4.7%	

表 8. 来場経験別の基礎属性 (2019 年度調査)

	初来場者 N=86		リピーター N=402		合計 N=488		有意差□
<b>地域</b>							
東京	33	38.4%	147	36.6%	180	36.9%	0.01
大阪	26	30.2%	136	33.8%	162	33.2%	
名古屋	12	14.0%	46	11.4%	58	11.9%	
仙台	5	5.8%	28	7.0%	33	6.8%	
沖縄	6	7.0%	30	7.5%	36	7.4%	
北海道	4	4.7%	15	3.7%	19	3.9%	
<b>居住形態</b>							
1人暮らし	49	57.0%	206	51.2%	255	52.3%	0.01
親や兄弟・姉妹と同居	24	27.9%	133	33.1%	157	32.2%	0.10
同性のパートナーと同居	5	5.8%	38	9.5%	43	8.8%	0.95
<b>就労形態</b>							
正規雇用経営者	48	55.8%	199	50.1%	247	51.1%	0.38
非正規学生アルバイト	30	34.9%	145	36.5%	175	36.2%	
無職	8	9.3%	53	13.4%	61	12.6%	
<b>性指向</b>							
ゲイ (同性愛者)	61	70.9%	342	85.5%	403	82.9%	0.01
バイセクシュアル (両性愛者)	12	14.0%	41	10.3%	53	10.9%	
わからない・決めたくない	6	7.0%	15	3.8%	21	4.3%	
その他	7	8.1%	2	0.5%	9	1.9%	
<b>過去6か月商業施設利用</b>							
ゲイバー	44	51.2%	254	63.2%	298	61.1%	0.41
ゲイナイト	18	20.9%	104	25.9%	122	25.0%	0.09
ゲイショップ	18	20.9%	114	28.4%	132	27.0%	0.09
ゲイ向けサークル	9	10.5%	83	20.6%	92	18.9%	0.03
ゲイ向け合コン	2	2.3%	12	3.0%	14	2.9%	0.27
twitter/facebook sns	45	52.3%	219	54.5%	264	54.1%	0.12
P C 出会い系サイト	7	8.1%	44	10.9%	51	10.5%	0.47
携帯出会い系サイト	20	23.3%	87	21.6%	107	21.9%	0.19
エロ系SNS	3	3.5%	33	8.2%	36	7.4%	0.58
スマートフォンのゲイ向けアプリ	40	46.5%	217	54.0%	257	52.7%	0.31
乱交パーティー	1	1.2%	14	3.5%	15	3.1%	0.24
有料ハッテン場	19	22.1%	140	34.8%	159	32.6%	0.75
野外のハッテン場	4	4.7%	37	9.2%	41	8.4%	0.16
ハッテン場で有名な銭湯・プール	11	12.8%	77	19.2%	88	18.0%	0.16
何も利用せず	12	14.0%	24	6.0%	36	7.4%	0.67

表 9. 来場経験別の性行動 (2019 年度調査)

	初来場者 N=86		リピーター N=402		合計 N=488		有意差口
<b>生涯での男性とのアナルセックス経験</b>							
ある	63	73.3%	357	89.5%	420	86.6%	0.38
ない	23	26.7%	42	10.5%	65	13.4%	
<b>最後の男性とのアナル時の時期</b>							
現在～過去6カ月間の間	42	66.7%	210	59.3%	252	60.4%	0.00
過去6カ月間～過去1年間の間	7	11.1%	26	7.3%	33	7.9%	
1年以上前	12	19.0%	87	24.6%	99	23.7%	
覚えていない	2	3.2%	31	8.8%	33	7.9%	
<b>最後のアナル時の相手</b>							
彼氏や恋人	16	25.4%	97	27.0%	110	26.8%	0.46
友達やセックスフレンド	31	49.2%	118	33.9%	149	36.3%	
その場限りの相手	16	25.4%	126	36.2%	142	34.5%	
その他	0	0.0%	10	2.9%	10	2.4%	
<b>最後のアナル時のゴム使用</b>							
使った	46	73.0%	222	63.4%	268	64.9%	0.17
使わなかった	14	22.2%	99	28.3%	113	27.4%	
覚えていない	3	4.8%	29	8.3%	32	7.7%	
<b>過去6か月アナルした人での常用非常用</b>							
使った	46	73.0%	222	63.4%	268	64.9%	0.25
使わず覚えてない	17	27.0%	128	36.6%	145	35.1%	
<b>過去半年に金銭をもらったセックス</b>							
ある	1	1.2%	13	3.3%	14	3.0%	0.16
ない	80	98.8%	379	96.7%	459	97.0%	
<b>過去半年に金銭を払ったセックス</b>							
ある	6	7.5%	13	3.4%	19	4.1%	0.98
ない	74	92.5%	369	96.6%	443	95.9%	
<b>これまでに罹患したSTD</b>							
梅毒	6	7.0%	53	13.2%	59	12.1%	0.08
A型肝炎	0	0.0%	10	2.5%	10	2.0%	0.40
B型肝炎	4	4.7%	30	7.5%	34	7.0%	0.09
C型肝炎	1	1.2%	6	1.5%	7	1.4%	0.73
クラミジア	4	4.7%	29	7.2%	33	6.8%	0.32
コンジローマ	2	2.3%	22	5.5%	24	4.9%	0.48
淋病	3	3.5%	24	6.0%	27	5.5%	0.43
HIV感染症	1	1.2%	39	9.7%	40	8.2%	0.39
赤痢アメーバ	2	2.3%	10	2.5%	12	2.5%	0.24
毛じらみ	13	15.1%	101	25.1%	114	23.4%	0.31
性器ヘルペス	2	2.3%	4	1.0%	6	1.2%	0.31
その他	0	0.0%	10	2.5%	10	2.0%	0.35
いずれもない	67	77.9%	223	55.5%	290	59.4%	0.21



表 10. 来場経験別の資材受け取り経験 (2019 年度調査)

	初来場者 N=86		リピーター N=402		合計 N=488		有意差口
<b>センターでのゴムや資材受け取り経験</b>							
ある	9	10.5%	347	86.3%	356	73.0%	
ない	77	89.5%	55	13.7%	132	27.0%	0.00
<b>センターでの情報入手経験(誰から)</b>							
センターのスタッフから聞いた	4	4.7%	255	63.4%	259	53.1%	0.00
センターに来て、利用者から聞いた	0	0.0%	93	23.1%	93	19.1%	0.00
センターに来て、友達から聞いた	1	1.2%	77	19.2%	78	16.0%	0.00
センターに来て、雑誌から得た	1	1.2%	160	39.8%	161	33.0%	0.00
<b>悩みや不安について相談したこと</b>							
センターのスタッフに相談した	0	0.0%	122	30.6%	122	25.3%	0.00
利用者に相談した	0	0.0%	57	14.3%	57	11.8%	0.00
友達同士で相談した	0	0.0%	87	21.8%	87	18.0%	0.00
<b>異性愛者にカミングアウトしているか</b>							
誰かにはしている	46	60.5%	301	78.4%	347	75.4%	0.02
誰にもしていない	30	39.5%	83	21.6%	113	24.6%	
<b>生涯でのHIV検査経験</b>							
ある	57	66.3%	327	81.8%	384	79.0%	0.00
ない	29	33.7%	73	18.3%	102	21.0%	
<b>生涯での検査回数</b>							
1回だけ	25	43.9%	75	23.9%	100	27.0%	0.09
2回	4	7.0%	43	13.7%	47	12.7%	
3回	5	8.8%	33	10.5%	38	10.2%	
4回以上	23	40.4%	163	51.9%	186	50.1%	
<b>直近の検査時期</b>							
過去6カ月の間	26	45.6%	126	40.1%	152	41.0%	0.58
過去6カ月以上前～過去1年の間	10	17.5%	42	13.4%	52	14.0%	
過去1年以上前～過去3年の間	12	21.1%	74	23.6%	86	23.2%	
過去3年以上前	9	15.8%	72	22.9%	81	21.8%	
<b>過去1年の検査受検</b>							
過去1年	36	63.2%	168	53.5%	204	55.0%	0.86
1年より前	21	36.8%	146	46.5%	167	45.0%	
<b>直近の検査場所</b>							
病院	18	31.6%	66	21.2%	84	22.8%	0.21
診療所・クリニック・医院	5	8.8%	34	10.9%	39	10.6%	
保健所・保健センター	22	38.6%	97	31.1%	119	32.2%	
南新宿検査・相談室	1	1.8%	14	4.5%	15	4.1%	
shot CAST なんば	3	5.3%	15	4.8%	18	4.9%	
自宅/郵送検査 (H I V 検査キット)	2	3.5%	4	1.3%	6	1.6%	
HIV check (東京/akta)	0	0.0%	18	5.8%	18	4.9%	
NLGR + 検査会 (名古屋)	2	3.5%	20	6.4%	22	6.0%	
M検 (名古屋・岐阜)・名古屋市性感染	1	1.8%	4	1.3%	5	1.4%	
distaでピタッとちえっくん (大阪)	0	0.0%	22	7.1%	22	6.0%	
mabuiで HIV&梅毒検査!! (沖縄)	0	0.0%	6	1.9%	6	1.6%	
その他	3	5.3%	12	3.8%	15	4.1%	

表 11. 配布地域別の基礎属性 (2019 年度調査)

	東京 N=180	大阪 N=162	名古屋 N=58	仙台 N=33	沖縄 N=36	北海道 N=19	合計 N=488	有意差
<b>来場経験</b>								
初来場者	33 18.3%	26 16.0%	12 20.7%	5 15.2%	6 16.7%	4 21.1%	86 17.6%	0.960
リピーター	147 81.7%	136 84.0%	46 79.3%	28 84.8%	30 83.3%	15 78.9%	402 82.4%	
<b>性指向</b>								
ゲイ (同性愛者)	141 78.8%	139 85.8%	49 83.1%	29 87.9%	30 83.3%	16 84.2%	404 82.8%	0.796
バイセクシュアル (両性愛者)	21 11.7%	14 8.6%	8 13.6%	3 9.1%	5 13.9%	3 15.8%	54 11.1%	
わからない・決めたくない	11 6.1%	6 3.7%	2 3.4%	1 3.0%	1 2.8%	0 0.0%	21 4.3%	
その他	6 3.4%	3 1.9%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	9 1.8%	
<b>年齢3区分</b>								
29歳未満	43 24.0%	42 26.3%	13 22.0%	3 9.1%	14 38.9%	15 78.9%	130 26.7%	0.000
30歳 - 39歳	60 33.5%	60 37.5%	19 32.2%	12 36.4%	13 36.1%	4 21.1%	168 34.6%	
40歳以上	76 42.5%	58 36.3%	27 45.8%	18 54.5%	9 25.0%	0 0.0%	188 38.7%	
<b>居住形態</b>								
一人暮らし	104 57.8%	92 56.4%	20 33.9%	17 51.5%	14 38.9%	10 52.6%	257 52.4%	0.016
親や兄弟・姉妹と同居	39 21.7%	47 28.8%	34 57.6%	11 33.3%	18 50.0%	8 42.1%	157 32.0%	0.000
同性パートナーと同居	22 12.2%	13 8.0%	2 3.4%	4 12.1%	1 2.8%	1 5.3%	43 8.8%	0.199
<b>就労形態</b>								
正規雇用経営者	87 48.9%	86 53.4%	30 50.8%	20 60.6%	16 45.7%	8 42.1%	247 50.9%	0.088
非正規学生アルバイト	66 37.1%	55 34.2%	25 42.4%	9 27.3%	12 34.3%	10 52.6%	177 36.5%	
無職	25 14.0%	20 12.4%	4 6.8%	4 12.1%	7 20.0%	1 5.3%	61 12.6%	
<b>過去6か月商業施設利用</b>								
ゲイバー	116 64.4%	101 62.0%	31 52.5%	20 60.6%	20 55.6%	11 57.9%	299 61.0%	0.659
ゲイナイト	56 31.1%	44 27.0%	7 11.9%	2 6.1%	9 25.0%	4 21.1%	122 24.9%	0.007
ゲイショップ	69 38.3%	36 22.1%	12 20.3%	6 18.2%	4 11.1%	5 26.3%	132 26.9%	0.001
ゲイ向けサークル	41 22.8%	23 14.1%	13 22.0%	3 9.1%	5 13.9%	8 42.1%	93 19.0%	0.016
ゲイ向け合コン	5 2.8%	7 4.3%	1 1.7%	1 3.0%	0 0.0%	0 0.0%	14 2.9%	0.681
twitter/facebook sns	100 55.6%	87 53.4%	31 52.5%	17 51.5%	18 50.0%	11 57.9%	264 53.9%	0.984
P C 出会い系サイト	20 11.1%	14 8.6%	6 10.2%	5 15.2%	2 5.6%	5 26.3%	52 10.6%	0.193
携帯出会い系サイト	46 25.6%	30 18.4%	10 16.9%	11 33.3%	9 25.0%	3 15.8%	109 22.2%	0.265
工口系SNS	19 10.6%	6 3.7%	4 6.8%	3 9.1%	1 2.8%	4 21.1%	37 7.6%	0.033
スマートフォンのゲイ向けアプリ	94 52.2%	78 47.9%	28 47.5%	17 51.5%	25 69.4%	15 78.9%	257 52.4%	0.042
乱交パーティー	9 5.0%	4 2.5%	0 0.0%	1 3.0%	1 2.8%	0 0.0%	15 3.1%	0.321
有料ハッテン場	72 40.0%	52 31.9%	18 30.5%	7 21.2%	6 16.7%	5 26.3%	160 32.7%	0.050
野外のハッテン場	17 9.4%	9 5.5%	5 8.5%	5 15.2%	5 13.9%	0 0.0%	41 8.4%	0.210
ハッテン場で有名な銭湯・プール	39 21.7%	30 18.4%	7 11.9%	9 27.3%	2 5.6%	1 5.3%	88 18.0%	0.050

表 12. 配布地域別の性行動 (2019 年度調査)

	東京 N=180	大阪 N=162	名古屋 N=58	仙台 N=33	沖縄 N=36	北海道 N=19	合計 N=488	有意差
<b>生涯での男性とのアナルセックス経験</b>								
経験あり	155 87.1%	142 88.2%	52 89.7%	29 87.9%	27 75.0%	15 78.9%	420 86.6%	0.303
<b>最後の男性とのアナル時の時期</b>								
現在～過去6カ月間の間	105 66.9%	81 57.9%	25 49.0%	19 65.5%	14 53.8%	8 57.1%	252 60.4%	0.232
過去6カ月間～過去1年間の間	7 4.5%	15 10.7%	6 11.8%	2 6.9%	3 11.5%	0 0.0%	33 7.9%	
1年以上前	34 21.7%	35 25.0%	15 29.4%	4 13.8%	5 19.2%	6 42.9%	99 23.7%	
覚えていない	11 7.0%	9 6.4%	5 9.8%	4 13.8%	4 15.4%	0 0.0%	33 7.9%	
<b>最後のアナル時の相手</b>								
彼氏や恋人	36 23.4%	43 31.4%	9 18.0%	8 27.6%	11 40.7%	3 21.4%	110 26.8%	0.457
友達やセックスフレンド	54 35.1%	48 35.0%	20 40.0%	10 34.5%	12 44.4%	5 35.7%	149 36.3%	
その場限りの相手	61 39.6%	41 29.9%	19 38.0%	11 37.9%	4 14.8%	6 42.9%	142 34.5%	
その他	3 1.9%	5 3.6%	2 4.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	10 2.4%	
<b>最後のアナル時のゴム使用</b>								
直近アナルでゴムを使った	105 67.3%	85 62.5%	31 60.8%	17 58.6%	17 63.0%	13 92.9%	268 64.9%	0.509
使わなかった	41 26.3%	42 30.9%	14 27.5%	9 31.0%	7 25.9%	0 0.0%	113 27.4%	
覚えていない	10 6.4%	9 6.6%	6 11.8%	3 10.3%	3 11.1%	1 7.1%	32 7.7%	
<b>過去半年に金銭をもらったセックス</b>								
ある	8 4.5%	4 2.6%	2 3.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	14 3.0%	0.524
ない	169 95.5%	150 97.4%	56 96.6%	32 100.0%	34 100.0%	18 100.0%	459 97.0%	
<b>過去半年に金銭を払ったセックス</b>								
ある	11 6.4%	2 1.3%	5 9.1%	0 0.0%	0 0.0%	1 5.9%	19 4.1%	0.038
ない	160 93.6%	152 98.7%	50 90.9%	31 100.0%	34 100.0%	16 94.1%	443 95.9%	
<b>これまでに罹患したSTD</b>								
梅毒	24 13.3%	22 13.5%	8 13.6%	4 12.1%	1 2.8%	0 0.0%	59 12.0%	0.282
A型肝炎	4 2.2%	5 3.1%	1 1.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	10 2.0%	0.737
B型肝炎	10 5.6%	15 9.2%	7 11.9%	2 6.1%	0 0.0%	0 0.0%	34 6.9%	0.146
C型肝炎	3 1.7%	3 1.8%	1 1.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	7 1.4%	0.906
クラミジア	12 6.7%	15 9.2%	2 3.4%	3 9.1%	1 2.8%	0 0.0%	33 6.7%	0.393
コンジローマ	8 4.4%	11 6.7%	3 5.1%	2 6.1%	0 0.0%	0 0.0%	24 4.9%	0.520
淋病	13 7.2%	9 5.5%	3 5.1%	2 6.1%	0 0.0%	0 0.0%	27 5.5%	0.513
HIV感染症	21 11.7%	13 8.0%	4 6.8%	1 3.0%	1 2.8%	0 0.0%	40 8.2%	0.196
赤痢アメーバ	1 0.6%	6 3.7%	4 6.8%	1 3.0%	0 0.0%	0 0.0%	12 2.4%	0.081
毛じらみ	50 27.8%	41 25.2%	8 13.6%	12 36.4%	3 8.3%	0 0.0%	114 23.3%	0.002
性器ヘルペス	3 1.7%	1 0.6%	2 3.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 1.2%	0.525

表 13. 配布地域別の資材受け取り経験と検査行動（2019 年度調査）

	東京 N=180	大阪 N=162	名古屋 N=58	仙台 N=33	沖縄 N=36	北海道 N=19	合計 N=488	有意差
<b>あなたは異性愛者にどのくらいカミングアウトしていますか？</b>								
誰かにはカムアウトした	130 77.4%	113 73.9%	40 70.2%	25 75.8%	25 78.1%	16 84.2%	349 75.5%	0.803
誰にもしていない	38 22.6%	40 26.1%	17 29.8%	8 24.2%	7 21.9%	3 15.8%	113 24.5%	
<b>センターでのコンドーム資材の受け取り経験</b>								
あり	124 68.9%	119 73.5%	44 75.9%	28 84.8%	27 75.0%	14 73.7%	356 73.0%	0.518
なし	56 31.1%	43 26.5%	14 24.1%	5 15.2%	9 25.0%	5 26.3%	132 27.0%	
<b>センターでの情報入手経験(誰から)</b>								
センターのスタッフから聞いた	71 39.4%	89 54.6%	39 66.1%	25 75.8%	23 63.9%	13 68.4%	260 53.1%	0.000
センターに来て、利用者から	24 13.3%	42 25.8%	13 22.0%	7 21.2%	6 16.7%	2 10.5%	94 19.2%	0.075
センターに来て、友達から	21 11.7%	36 22.1%	12 20.3%	4 12.1%	4 11.1%	2 10.5%	79 16.1%	0.100
センターに来て、雑誌から	62 34.4%	59 36.2%	17 28.8%	9 27.3%	12 33.3%	3 15.8%	162 33.1%	0.490
<b>悩みや不安について相談したこと</b>								
センターのスタッフに相談した	27 15.1%	44 27.3%	14 24.6%	18 54.5%	13 36.1%	7 36.8%	123 25.4%	0.000
利用者に相談した	12 6.7%	20 12.4%	10 17.5%	3 9.1%	7 19.4%	5 26.3%	57 11.8%	0.029
友達同士で相談した	26 14.5%	26 16.1%	11 19.3%	6 18.2%	7 19.4%	11 57.9%	87 17.9%	0.000
<b>生涯でのHIV検査経験</b>								
ある	136 76.0%	141 87.0%	46 78.0%	29 87.9%	24 66.7%	10 52.6%	386 79.1%	0.001
ない	43 24.0%	21 13.0%	13 22.0%	4 12.1%	12 33.3%	9 47.4%	102 20.9%	
<b>生涯での検査回数</b>								
1回だけ	42 31.8%	30 22.2%	11 25.6%	9 31.0%	4 16.7%	4 40.0%	100 26.8%	0.076
2回	17 12.9%	15 11.1%	1 2.3%	4 13.8%	8 33.3%	2 20.0%	47 12.6%	
3回	10 7.6%	15 11.1%	5 11.6%	5 17.2%	3 12.5%	1 10.0%	39 10.5%	
4回以上	63 47.7%	75 55.6%	26 60.5%	11 37.9%	9 37.5%	3 30.0%	187 50.1%	
<b>直近の検査時期</b>								
過去6カ月の間	56 42.7%	50 36.8%	23 53.5%	10 34.5%	9 37.5%	4 40.0%	152 40.8%	0.051
過去6カ月以上前～過去1年の間	15 11.5%	18 13.2%	8 18.6%	3 10.3%	7 29.2%	2 20.0%	53 14.2%	
過去1年以上前～過去3年の間	29 22.1%	41 30.1%	3 7.0%	5 17.2%	5 20.8%	4 40.0%	87 23.3%	
過去3年以上前	31 23.7%	27 19.9%	9 20.9%	11 37.9%	3 12.5%	0 0.0%	81 21.7%	
<b>過去1年の検査受検</b>								
過去1年に受けた	71 39.4%	68 41.7%	31 52.5%	13 39.4%	16 44.4%	6 31.6%	205 41.8%	0.520
1年より前	109 60.6%	95 58.3%	28 47.5%	20 60.6%	20 55.6%	13 68.4%	285 58.2%	

表 14. 配布地域別の資材受け取り経験と、検査行動 (2019 年度調査)

	東京 N=180	大阪 N=162	名古屋 N=58	仙台 N=33	沖縄 N=36	北海道 N=19	合計 N=488	有意差
<b>直近の検査場所</b>								
病院	43 32.3%	27 20.1%	6 14.3%	5 17.9%	3 12.5%	0 0.0%	84 22.6%	0.000
診療所・クリニック・医院	15 11.3%	23 17.2%	1 2.4%	1 3.6%	0 0.0%	0 0.0%	40 10.8%	
保健所・保健センター	35 26.3%	30 22.4%	14 33.3%	18 64.3%	14 58.3%	9 90.0%	120 32.3%	
南新宿検査・相談室	14 10.5%	0 0.0%	0 0.0%	1 3.6%	0 0.0%	0 0.0%	15 4.0%	
chot CAST なんば	0 0.0%	18 13.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	18 4.9%	
自宅/郵送検査 (HIV検査キット)	3 2.3%	2 1.5%	0 0.0%	0 0.0%	1 4.2%	0 0.0%	6 1.6%	
HIV check (東京/akta)	17 12.8%	1 0.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	18 4.9%	
NLGR+検査会 (名古屋)	1 0.8%	5 3.7%	16 38.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	22 5.9%	
M検 (名古屋・岐阜)・名古屋市性感	1 0.8%	0 0.0%	4 9.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	5 1.3%	
distaでピタッとちえっくん (大阪)	0 0.0%	22 16.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	22 5.9%	
mabuiで HIV&梅毒検査!! (沖縄)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 25.0%	0 0.0%	6 1.6%	
その他	4 3.0%	6 4.5%	1 2.4%	3 10.7%	0 0.0%	1 10.0%	15 4.0%	
以下、HIV陰性者 (自己申告) のみ								
<b>生涯でのHIV検査経験</b>								
ある	116 73.4%	129 86.0%	42 76.4%	28 87.5%	23 65.7%	10 52.6%	348 77.5%	0.208
ない	42 26.6%	21 14.0%	13 23.6%	4 12.5%	12 34.3%	9 47.4%	101 22.5%	
<b>直近の検査時期</b>								
過去6カ月の間	52 46.4%	47 37.9%	22 56.4%	10 35.7%	8 34.8%	4 40.0%	143 42.6%	0.049
過去6カ月以上前～過去1年の間	15 13.4%	18 14.5%	8 20.5%	3 10.7%	7 30.4%	2 20.0%	53 15.8%	
過去1年以上前～過去3年の間	28 25.0%	40 32.3%	2 5.1%	5 17.9%	5 21.7%	4 40.0%	84 25.0%	
過去3年以上前	17 15.2%	19 15.3%	7 17.9%	10 35.7%	3 13.0%	0 0.0%	56 16.7%	
<b>過去1年の検査受検</b>								
過去1年に受けた	67 42.1%	65 43.3%	30 54.5%	13 40.6%	15 42.9%	6 31.6%	196 43.6%	0.208
1年より前	92 57.9%	85 56.7%	25 45.5%	19 59.4%	20 57.1%	13 68.4%	254 56.4%	
<b>直近の検査場所</b>								
病院	33 29.2%	20 16.4%	4 10.3%	4 14.8%	2 8.7%	0 0.0%	63 18.9%	0.000
診療所・クリニック・医院	13 11.5%	22 18.0%	1 2.6%	1 3.7%	0 0.0%	0 0.0%	37 11.1%	
保健所・保健センター	31 27.4%	28 23.0%	13 33.3%	18 66.7%	14 60.9%	9 90.0%	113 33.8%	
南新宿検査・相談室	11 9.7%	0 0.0%	0 0.0%	1 3.7%	0 0.0%	0 0.0%	12 3.6%	
chot CAST なんば	0 0.0%	16 13.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	16 4.8%	
自宅/郵送検査 (HIV検査キット)	3 2.7%	2 1.6%	0 0.0%	0 0.0%	1 4.3%	0 0.0%	6 1.8%	
HIV check (東京/akta)	17 15.0%	1 0.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	18 5.4%	
NLGR+検査会 (名古屋)	1 0.9%	5 4.1%	16 41.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	22 6.6%	
M検 (名古屋・岐阜)・名古屋市性感	1 0.9%	0 0.0%	4 10.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	5 1.5%	
distaでピタッとちえっくん (大阪)	0 0.0%	22 18.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	22 6.6%	
mabuiで HIV&梅毒検査!! (沖縄)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 26.1%	0 0.0%	6 1.8%	
その他	3 2.7%	6 4.9%	1 2.6%	3 11.1%	0 0.0%	1 10.0%	14 4.2%	

## 大阪のMSMにおけるHIV感染動向の把握に関する研究 大阪ゲイコホートの継続

研究代表者：塩野徳史（大阪青山大学 健康科学部看護学科 講師）  
研究協力者：後藤大輔、宮田りりい（公益財団法人エイズ予防財団/MASH 大阪）  
宮階真紀、伴仲昭彦（公益財団法人エイズ予防財団/MASH 大阪）  
大畑泰次郎、町登志雄（MASH 大阪） 鬼塚哲郎（京都産業大学文化学部/MASH 大阪）  
松本健二（大阪市保健所感染症対策監）  
半羽宏之（大阪市健康局医務監兼保健所感染症対策課長）  
櫻井理恵、山脇慎介（大阪市保健所感染症対策課）  
岡本香子（保健衛生検査所）

### 研究要旨

大阪市と協働し、本年度は6回のHIV抗体および梅毒抗原抗体検査会を実施した。2020年3月までの実施の概要について整理した。なお、HIV陽性者については本検査会の確認検査を経て、新たに感染が判明した人の数である。2018年度の受検者数は249人であり、HIV陽性割合は0.4%、梅毒抗原陽性（要治療）割合は5.6%であった。2019年度の受検者数は210人であり、HIV陽性割合は2.4%、梅毒抗原陽性（要治療）割合は8.1%であった。

### A. 研究目的

MSM出生年代別にみた先行研究ではAIDS罹患率の推移は1950年代生まれ以外のいずれの年代でも増加傾向であった。近年では1970年代生まれや1980年代生まれでは感染拡大傾向は抑制されつつあるものの、出生年代層が若い群の方がより高く相対的にMSM集団における感染拡大が示唆されている。特にゲイ向け商業施設利用者は性行動が活発であり、感染リスクの高い集団である。またMSMにおいて梅毒は感染が増加していることも報告されており、MSM対象の検査会での梅毒有病率はHIV感染よりも高い。

MSMにおけるHIV感染や梅毒感染の状況を把握することは、今後の感染対策の方針の決定や予防啓発の評価尺度として極めて有効である。初年度は大阪のゲイ向け商業施設を中心としたゲイコミュニティにおいて、血液検

査と連動させた前向きコホートを構築することを目的とした。本報告では検査会利用者の属性について明らかにすることを通して、コミュニティセンターでの検査会の効果について検討する。

### B. 研究方法

#### 1) コホートの継続

本研究では対象者の個人特定には生体認証の技術（スワイプ式指紋認証システム）を応用したシステムによって、住所や氏名などの個人情報取得することなくコホート集団を構築することとした。認証された指紋情報は、ソフトウェア（OmniPass）を活用し、暗号化した上でIDを発行する仕組みとした。対象者には口頭で説明し、同意を得た上で指紋情報を登録してもらい、内蔵されたソフトウェアによって暗号化し、指紋情報と一致させた個

別のIDを番号シールとして発行した。情報の保守性を考慮し、本研究で活用する機器端末は、インターネット接続されない仕組みとし、本年度は前回の検査日時も伝えられるよう、OSのバージョンアップを行った。

## 2) 分析方法

各回の受検者の属性について単純集計を行った。年齢はコミュニティセンター利用者と同様に、24歳以下、25歳-34歳、35歳以上の3区分の年齢層に分類した。質問項目は、年齢層、性別、居住形態、職業、セクシュアリティなどの基本属性と、過去6ヵ月間の商業施設などの利用状況、性感染症既往歴、性行動、検査行動、コミュニティセンターdistaの利用状況、本検査会における満足度とした。

本年度は2018年、2019年の月別に検査会利用者の分析を進めた。単純集計にはSPSS23を用いた。

なお、本調査は大阪青山大学倫理委員会の承認も得て実施した。

## C. 研究結果

実施状況について2018年度の概要を表1、表2に、2019年度の概要を表3、表4に示した。なお、HIV陽性者については本検査会の確認検査を経て、新たに感染が判明した人の数である。2018年度の受検者数は249人であり、HIV陽性割合は0.4%、梅毒抗原陽性（要治療）割合は5.6%であった。2019年度の受検者数は210人であり、HIV陽性割合は2.4%、梅毒抗原陽性（要治療）割合は8.1%であった。

2018年、2019年の検査利用者について月別に受検者アンケートの結果を表5～表8に示した。2018年のアンケート回答者数は266人であり、2019年のアンケート回答者数は201人であった。本検査会が初受検になった人の割合は2018年が10.7%～28.2% ( $p=0.15$ ) であり、2019年は2.8%～17.2% ( $p=0.56$ ) であった。ゲイ向け商業施設利用者の割合は2018年が66.7%～82.0% ( $p=0.62$ ) であり、2019年は62.9%～78.1% ( $p=0.75$ ) であった。

表1 HIV抗体および梅毒抗原抗体検査会の概要 2018年度 ①

実施月	5月	7月	9月	11月
受検者数	43人	27人	50人	29人
新規指紋登録者数(登録率)	20人 (64.5%)	12人 (66.7%)	19人 (48.7%)	10人 (55.6%)
結果受取	43人	25人	50人	29人
HIV陽性者(割合)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	1人 (2.0%)	0人 (0.0%)
梅毒抗原陽性者数(割合)	5人 (11.6%)	1人 (3.7%)	5人 (10.0%)	1人 (3.4%)
梅毒感染既往者数(割合)	2人 (4.7%)	4人 (14.8%)	5人 (10.0%)	6人 (20.7%)

表2 HIV抗体および梅毒抗原抗体検査会の概要 2018年度 ②

実施月	12月*	1月	3月	計
受検者数	40人	31人	29人	249人
新規指紋登録者数(登録率)	実施せず	10人 (62.5%)	11人 (64.7%)	82人 (59.0%)
結果受取	40人	30人	29人	246人
HIV陽性者(割合)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	1人 (0.4%)
梅毒抗原陽性者数(割合)	2人 (5.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	14人 (5.6%)
梅毒感染既往者数(割合)	2人 (5.0%)	3人 (9.7%)	1人 (3.4%)	23人 (9.2%)

\*12月はHIV抗体検査および梅毒抗原抗体検査をゲイ向けクラブイベント会場にて迅速検査で実施。

表3 HIV抗体および梅毒抗原抗体検査会の概要 2019年度 ①

実施月	5月	7月	9月	11月
受検者数	32人	39人	36人	36人
新規指紋登録者数(登録率)	集計中	集計中	集計中	集計中
結果受取	集計中	集計中	集計中	集計中
HIV陽性者(割合)	1人 (3.1%)	1人 (2.6%)	2人 (5.6%)	0人 (0.0%)
梅毒抗原陽性者数(割合)	4人 (12.5%)	3人 (7.7%)	5人 (13.9%)	2人 (5.6%)
梅毒感染既往者数(割合)	3人 (9.4%)	5人 (12.8%)	6人 (16.7%)	5人 (13.9%)

表4 HIV抗体および梅毒抗原抗体検査会の概要 2019年度 ②

実施月	1月	3月	計
受検者数	29人	38人	210人
新規指紋登録者数(登録率)	集計中	集計中	-人
結果受取	集計中	集計中	-人
HIV陽性者(割合)	1人(3.4%)	0人(0.0%)	5人(2.4%)
梅毒抗原陽性者数(割合)	3人(10.3%)	3人(7.9%)	17人(8.1%)
梅毒感染既往者数(割合)	3人(10.3%)	2人(5.1%)	24人(11.4%)

#### D. 考察

1回の検査会における受検者数は30人前後であり、ゲイ向け商業施設利用者の割合も総じて高いことから、コミュニティにとっても定着化しつつあることが示される一方で、初受検者の割合が徐々に低くなっており、新たな層にも訴求するべきか方向性を検討する必要があると考えられる。

しかし、2019年度ではHIV感染症と梅毒感染症の重複感染であった人も報告されており、外国籍の受検者も増加していることから依然としてハイリスク層への効果的な検査会となっていると考えられる。

#### E. 結論

本検査会は大阪市が事業化を継続しており、安定して運営できる体制が構築できていると考えられる。受検者数は毎回30人前後となっており、コミュニティにとっても定着化しつつあることが示された。

#### G. 研究発表

##### 1. 論文発表

- 塩野徳史, 市川誠一, 金子典代, 佐々木由理: 都市部保健所におけるHIV抗体検査受検者の特性, 厚生指標, 2018, 65(5): 35-42
- 金子典代, 塩野徳史, 本間隆之, 岩橋恒

太, 健山正男, 市川誠一: 地方都市在住のMSM (Men who have sex with men) における調査時点までと過去1年のHIV検査経験と関連要因. 日本エイズ学会誌, 2019, 21(1) (受理済).

##### 2. 学会発表

- 塩野徳史 ゲイコミュニティにおけるHIV抗体検査—『これまで』と『これから』 シンポジウム3 HIV将来予測と流行阻止 第31回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29. 11. 24-26
- 塩野徳史 HIV検査の受検阻害要因としてのスティグマ シンポジウム4 スティグマの払拭は誰が担うのか 第31回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29. 11. 24-26
- 塩野徳史, 後藤大輔, 町登志雄, 宮田りりい, 大畑泰次郎, 伴仲昭彦, 鬼塚哲郎, 市川誠一 商業施設を利用しはじめる若年層MSMを対象とした予防啓発介入の開発と効果評価 第31回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29. 11. 24-26
- 荒木順子, 金子典代, 木南拓也, 岩橋恒太, 佐久間久弘, 阿部甚兵, 大島岳, 太田貴, 石田敏彦, 塩野徳史, 新山賢, 金城健, 本間隆之, 市川誠一 aktaで展開したセーフターセックスキャンペーンとコミュニティベース調査による効果評価 第31回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29. 11. 24-26
- 宮田りりい, 塩野徳史, 後藤大輔, 町登志雄, 大畑泰次郎, 市川誠一 MSMにおける性交相手との出会いの場所と方法一年齢層による差異について— 第31回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29. 11. 24-26
- 塩野徳史, 後藤大輔, 町登志雄, 宮田りりい MSMにおける検査行動に関する尺度開発とコミュニティセンターdista



- 利用者の変化 第 31 回日本エイズ学会  
 学術集会・総会 東京, H29. 11. 24-26
- 7) ○後藤大輔, 中村理恵, 宮田りりい, 塩野  
 徳史 若年層向けの行政と連携した予防  
 啓発方法の試み 第 31 回日本エイズ学  
 会学術集会・総会 東京, H29. 11. 24-26
- 8) ○川畑拓也, 小島洋子, 森 治代, 駒野 淳,  
 岩佐 厚, 亀岡 博, 菅野展史, 近藤雅  
 彦, 杉本賢治, 高田昌彦, 田端運久, 中  
 村幸生, 古林敬一, 清田敦彦, 伏谷加奈  
 子, 塩野徳史, 後藤大輔, 町 登志雄,  
 柴田敏之, 木下 優 大阪府における  
 MSM 向け HIV/STI 検査相談事業・平成 28  
 年度実績報告 第 31 回日本エイズ学会  
 学術集会・総会 東京, H29. 11. 24-26
- 9) ○Takaku Michiko, Dorjgotov Myagmardorj,  
 Gombo Erdenetuya, Galsanjamts  
 Nyampurev, Jagdagsuren Davaalkham,  
 Ichikawa Seiichi, Shiono Satoshi,  
 Kaneko Noriyo, Oka Shinichi Studies on  
 NGOs' HIV prevention interventions  
 targeting MSM community in Mongolia  
 The 31st Annual Meeting of the Japanese  
 Society for AIDS Research, Tokyo, Nov.  
 24-26, 2017
- 10) ○櫻井理恵, 真木景子, 浦林純江, 青木  
 理恵, 浅井千絵, 松本健二, 小向 潤,  
 植田英也, 半羽宏之, 松村直樹, 久保徹  
 朗, 安井典子, 塩野徳史, 市川誠一 保  
 健福祉センターにおける HIV 抗原抗体  
 検査受検者アンケートから見た MSM 対  
 策の評価 ワークショップ 3 検査・相談  
 体制 第 31 回日本エイズ学会学術集  
 会・総会 東京, H29. 11. 24-26
- 11) ○塩野徳史: U=U をめぐるメッセージと  
 予防啓発 第 32 回日本エイズ学会学術  
 集会・総会 シンポジウム 9 U=U 誰が何  
 をどう伝えるか: 陽性者の人権とステイ  
 グマゼロへの取り組みを視野に入れて  
 大阪, H30. 12. 2-
- 12) ○塩野徳史: 社会分野における予防指針

の課題 第 32 回日本エイズ学会学術集  
 会・総会 日本エイズ学会シンポジウム  
 エイズ予防指針改定の背景と課題 大阪,  
 H30. 12. 2-4

#### H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

1. 特許取得  
なし。
2. 実用新案登録  
なし。
3. その他  
なし。







表8 2019年 性感染症既往およびコミュニティセンターdista利用、検査会の満足度

	月												合計 n=201	Pearson カイ2乗	
	1月 n=31	3月 n=29	5月 n=32	7月 n=38	9月 n=35	11月 n=36									
過去6か月間に、相手からお金をもらって、セックスをしたことがありますか？															
ある	2	6.5%	1	3.4%	0	0.0%	2	5.3%	1	2.9%	0	0.0%	6	3.0%	0.55
ない	29	93.5%	28	96.6%	32	100.0%	36	94.7%	33	94.3%	36	100.0%	194	96.5%	
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	2.9%	0	0.0%	1	0.5%	
過去6か月間に、相手にお金を払って、セックスをしたことがありますか？															
ある	1	3.2%	0	0.0%	2	6.3%	0	0.0%	2	5.7%	0	0.0%	5	2.5%	0.37
ない	30	96.8%	29	100.0%	30	93.8%	38	100.0%	32	91.4%	36	100.0%	195	97.0%	
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	2.9%	0	0.0%	1	0.5%	
これまでにHIV抗体検査(エイズ検査)を受けたことがありますか？															
ない・無回答	4	12.9%	5	17.2%	4	12.5%	5	13.2%	5	14.3%	1	2.8%	24	11.9%	0.56
ある	27	87.1%	24	82.8%	28	87.5%	33	86.8%	30	85.7%	35	97.2%	177	88.1%	
これまでに何回HIV抗体検査(エイズ検査)を受けたことがありますか？															
ない・無回答	4	12.9%	5	17.2%	4	12.5%	5	13.2%	5	14.3%	1	2.8%	24	11.9%	0.66
1回・2回	7	22.6%	8	27.6%	5	15.6%	9	23.7%	4	11.4%	8	22.2%	41	20.4%	
3回以上ある	20	64.5%	16	55.2%	23	71.9%	24	63.2%	26	74.3%	27	75.0%	136	67.7%	
これまでににかかったことがある性感染症はありますか？															
梅毒	3	9.7%	1	3.4%	3	9.4%	4	10.5%	8	22.9%	5	13.9%	24	11.9%	0.39
A型肝炎	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	5.6%	2	1.0%	0.22
B型肝炎	2	6.5%	1	3.4%	0	0.0%	2	5.3%	5	14.3%	3	8.3%	13	6.5%	0.38
C型肝炎	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
クラミジア	3	9.7%	5	17.2%	4	12.5%	6	15.8%	7	20.0%	4	11.1%	29	14.4%	0.77
尖圭コンジローマ	1	3.2%	2	6.9%	4	12.5%	6	15.8%	2	5.7%	4	11.1%	19	9.5%	0.62
淋病	3	9.7%	2	6.9%	0	0.0%	4	10.5%	1	2.9%	4	11.1%	14	7.0%	0.52
HIV感染症	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
赤痢アメーバ	1	3.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	2.9%	1	2.8%	3	1.5%	0.73
毛じらみ	12	38.7%	11	37.9%	10	31.3%	12	31.6%	15	42.9%	12	33.3%	72	35.8%	0.78
性器ヘルペス	0	0.0%	0	0.0%	3	9.4%	0	0.0%	0	0.0%	1	2.8%	4	2.0%	0.11
その他	0	0.0%	0	0.0%	1	3.1%	1	2.6%	0	0.0%	1	2.8%	3	1.5%	0.76
いずれもない	14	45.2%	12	41.4%	14	43.8%	13	34.2%	7	20.0%	15	41.7%	75	37.3%	0.44
これまでににかかったことがある性感染症はありますか？															
いずれもあり	16	51.6%	14	48.3%	17	53.1%	24	63.2%	25	71.4%	20	55.6%	116	57.7%	0.41
いずれもない(無回答含む)	15	48.4%	15	51.7%	15	46.9%	14	36.8%	10	28.6%	16	44.4%	85	42.3%	
「distaでピタッとちえっくん」について伺います。今後も利用したいと思いますか？															
また利用したい	29	93.5%	28	96.6%	30	93.8%	35	92.1%	33	94.3%	35	97.2%	190	94.5%	0.91
もう利用したくない	1	3.2%	0	0.0%	0	0.0%	1	2.6%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.0%	
無回答	1	3.2%	1	3.4%	2	6.3%	2	5.3%	2	5.7%	1	2.8%	9	4.5%	
検査に対する満足度_話し方・言葉づかいはどうでしたか? <sup>2)</sup>															
とても満足	27	90.0%	27	93.1%	30	93.8%	31	83.8%	31	91.2%	33	91.7%	179	90.4%	0.67
やや満足	3	10.0%	2	6.9%	1	3.1%	5	13.5%	3	8.8%	3	8.3%	17	8.6%	
やや不満	0	0.0%	0	0.0%	1	3.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.5%	
とても不満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	2.7%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.5%	
検査に対する満足度_質問しやすい雰囲気についてはどうでしたか? <sup>2)</sup>															
とても満足	29	96.7%	26	89.7%	30	93.8%	31	83.8%	30	88.2%	32	88.9%	178	89.9%	0.47
やや満足	1	3.3%	3	10.3%	1	3.1%	4	10.8%	4	11.8%	4	11.1%	17	8.6%	
やや不満	0	0.0%	0	0.0%	1	3.1%	2	5.4%	0	0.0%	0	0.0%	3	1.5%	
検査に対する満足度_安心できる雰囲気についてはどうでしたか? <sup>2)</sup>															
とても満足	26	86.7%	24	82.8%	30	93.8%	31	83.8%	29	85.3%	31	86.1%	171	86.4%	0.92
やや満足	4	13.3%	4	13.8%	2	6.3%	5	13.5%	5	14.7%	4	11.1%	24	12.1%	
やや不満	0	0.0%	1	3.4%	0	0.0%	1	2.7%	0	0.0%	1	2.8%	3	1.5%	
検査に対する満足度_プライバシー保護についてはどうでしたか? <sup>2)</sup>															
とても満足	23	76.7%	21	72.4%	23	71.9%	31	83.8%	29	85.3%	27	75.0%	154	77.8%	0.82
やや満足	5	16.7%	7	24.1%	6	18.8%	4	10.8%	5	14.7%	6	16.7%	33	16.7%	
やや不満	2	6.7%	1	3.4%	3	9.4%	1	2.7%	0	0.0%	2	5.6%	9	4.5%	
とても不満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	2.7%	0	0.0%	1	2.8%	2	1.0%	
今日を除いて、これまでにdista(ディスタ)を訪れたことがありますか？															
過去6か月以内	17	54.8%	15	51.7%	18	56.3%	17	44.7%	13	37.1%	20	55.6%	100	49.8%	0.77
過去6か月より以前	5	16.1%	7	24.1%	7	21.9%	12	31.6%	10	28.6%	10	27.8%	51	25.4%	
訪れたことはない	9	29.0%	7	24.1%	7	21.9%	9	23.7%	11	31.4%	6	16.7%	49	24.4%	
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	2.9%	0	0.0%	1	0.5%	

2) 無回答をのぞいて集計したため総数は異なる

## 沖縄に流入する外国人 MSM の予防行動に関する研究

研究分担者：健山正男（琉球大学大学院医学研究科 准教授）

研究協力者：nankr 沖縄

### 研究要旨

本研究の目的は、国内外からのツーリストが多い沖縄県において、沖縄県を訪れる外国籍 MSM の感染リスク行動を明らかにするための多言語対応の MSM 向け HIV 感染リスク行動調査の質問紙を作成することである。過去の MSM を対象にコミュニティベースで実施されてきたアンケート項目をすべて収集し、外国籍 MSM に対して尋ねるべき項目を選択する作業を実施した。

日本における外国籍 MSM における新規 HIV 感染者、新規 AIDS 患者報告数は近年増加しており、日本を訪問する外国籍 MSM の実態把握、予防行動の実態把握と対策の考案は急務である。

初年度は、外国籍 MSM が回答可能な多言語アンケートシステムの構築を行い、今年度は調査を試行した。その結果、回答者数が少なく、今後も継続して調査を実施する必要があるが、日本での性行動は日本の MSM と同程度行われている一方で、日本における HIV 検査の情報が浸透しておらず、検査機会が少ない状況であることが示唆された。

### A. 研究目的

本研究の目的は、国内外からのツーリストが多い沖縄県において、沖縄県を訪れる外国籍 MSM の感染リスク行動を明らかにするための多言語対応の MSM 向け HIV 感染リスク行動調査の質問紙を作成し、ニーズを把握することである。

### B. 研究方法

過去の MSM を対象にコミュニティベースで実施されてきたアンケート項目をすべて収集し、外国籍 MSM に対して尋ねるべき項目を選択する作業を実施した。性指向、出身国、年齢、職業、などの基礎項目、過去 6 か月に使用したゲイ向け商業施設、生涯や過去 1 年の HIV 検査行動、性行動など 25 問である。アンケートの依頼文、質問項目については、英語版のみならず、中国語版も作成し、多言語に対応したものとした。質問項目一覧は資前年度報告書に添付したとおりである。

### C. 研究結果

初年度に開発、作成したアンケートシステムを活用し、本年度は日本に滞在する外国籍 MSM の実態調査を試行した。

得られた回答は 55 人で、そのうち男性 44 人（80.0%）で女性 11 人（20.0%）であった。44 人を対象にこれ以降の分析を進めた。

44 人の回答者のうち、出身国をアメリカ、フランス、ドイツ、イタリアなどの欧米と回答した人は 25 人（56.8%）、韓国、中国などアジアと回答した人は 5 人（11.4%）、日本と回答した人は 14 人（31.8%）であった。

さらに国籍を欧米、アジア、日本に分類し分析を進めた。回答者の平均年齢±標準偏差は欧米 30.0±7.2 歳、アジア 33.0±1.9 歳、日本 32.4±7.3 歳であった。ゲイであると回答した割合は欧米 72.0%、アジア 100%、日本 71.4%であった。

国籍別に HIV 検査に関して回答した内容を

表1、表2にまとめた。滞在期間について、欧米国籍は様々であり、3か月未満で60%を占め、1年～5年も24.0%であった。アジアはすべてが1週間以内で、来日目的は旅行であった。過去6カ月間に、日本でセックスをした経験については有意差はみられず、欧米60.0%、アジア40.0%、日本は71.4%であった。

日本国籍(85.7%)と比べ、日本に来てからHIVや性感染症の検査を受けたいと思ったことがある割合は欧米36.0%、アジア20.0%と低かった( $p<0.01$ )。一方で日本では、保健所でHIV検査を無料・匿名で受けられることを知っている割合も同様で、日本78.6%に比べ、欧米28.0%、アジア0.0%であった( $p<0.01$ )。これまでにHIV検査を受けたことがある割合は60.0%～88.0%( $p=0.24$ )と変わらない一方で、日本でHIV検査を受けたことがある割合は、日本57.1%に比べて、欧米20.0%、アジア0.0%と低かった( $p=0.02$ )。

表1 国籍別 基本属性

	国籍			合計 n=44	Pearsonの カイ2乗
	欧米 n=25	アジア n=5	日本 n=14		
あなたは日本にどれくらい滞在していますか(通算)?					
1週間以内	3 12.0%	5 100.0%	0 0.0%	8 18.2%	<b>&lt;0.01</b>
1か月未満	5 20.0%	0 0.0%	1 7.1%	6 13.6%	
1か月～3か月	7 28.0%	0 0.0%	0 0.0%	7 15.9%	
3か月～1年	3 12.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 6.8%	
1年～5年	6 24.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 13.6%	
10年以上	1 4.0%	0 0.0%	13 92.9%	14 31.8%	
日本に来た目的を教えてください。					
日本生まれ	0 0.0%	0 0.0%	10 71.4%	10 22.7%	<b>&lt;0.01</b>
留学、研修など	9 36.0%	0 0.0%	0 0.0%	9 20.5%	
仕事で	7 28.0%	0 0.0%	1 7.1%	8 18.2%	
旅行で	7 28.0%	5 100.0%	1 7.1%	13 29.5%	
その他	2 8.0%	0 0.0%	2 14.3%	4 9.1%	
あなたは、過去6カ月間に、日本でセックスをしたことがありますか。					
ある	15 60.0%	2 40.0%	10 71.4%	27 61.4%	0.45
ない	10 40.0%	3 60.0%	4 28.6%	17 38.6%	

表2 国籍別 検査行動

	国籍			合計 n=44	Pearsonの カイ2乗
	欧米 n=25	アジア n=5	日本 n=14		
あなたは日本に来てからHIVや性感染症の検査を受けたいと思ったことがありますか?					
ある	9 36.0%	1 20.0%	12 85.7%	22 50.0%	<b>&lt;0.01</b>
ない	16 64.0%	4 80.0%	2 14.3%	22 50.0%	
あなたは、日本では、保健所でHIV検査を無料・匿名で受けられることを知っていますか?					
知っている	7 28.0%	0 0.0%	11 78.6%	18 40.9%	<b>&lt;0.01</b>
知らない	18 72.0%	5 100.0%	3 21.4%	26 59.1%	
あなたはこれまでにHIV検査を受けたことがありますか?					
ある	22 88.0%	3 60.0%	10 71.4%	35 79.5%	0.24
ない	3 12.0%	2 40.0%	4 28.6%	9 20.5%	
あなたは日本でHIV検査を受けたことがありますか?					
ある	5 20.0%	0 0.0%	8 57.1%	13 29.5%	<b>0.02</b>
ない	20 80.0%	5 100.0%	6 42.9%	31 70.5%	

## D. 考察

日本における外国籍MSMにおける新規HIV感染者、新規AIDS患者報告数は近年増加しており、日本を訪問する外国籍MSMの実態把握、予防行動の実態把握と対策の考案は急務である。沖縄県は、MSM向けツーリズムの受け入れ先として人気が高く、多くの日本国籍MSMが沖縄県を訪問している実態をH27、H28年度に実施した研究で示した。

2018年の暦年(1～12月)の入域観光客数が前年比4.7%増(44万6200人増)の984万2400人になったと発表した。台風や麻疹(はしか)の影響で前年割れの月があったものの、6年連続で過去最高を更新した。国籍別にみると、台湾が13.0%増の88万9700人、韓国が6.2%増の55万5500人、中国が25.5%増の63万2400人となっており、近隣アジア国からの観光客が多いことが想定される。初年度に開発、作成したアンケートシステムを活用し、2019年には、日本に滞在する外国籍MSMの実態調査を試行した。

その結果、回答者数が少なく、今後も継続して調査を実施する必要があるが、日本での性行動は日本のMSMと同程度行われている一方で、日本におけるHIV検査の情報が浸透しておらず、検査機会が少ない状況であることが示唆された。

## E. 結論

日本における外国籍MSMにおける新規HIV感染者、新規AIDS患者報告数は近年増加しており、日本を訪問する外国籍MSMの実態把握、予防行動の実態把握と対策の考案は急務である。外国籍MSMが回答可能な多言語アンケートシステムの構築を行い、今年度は調査を試行した。またアジア圏の来日者の急増も鑑み、中国語でも回答可能なアンケートを構築した。次年度も調査を継続し、実態の解明につなげる。

## G. 研究発表

### 1. 論文発表

- 1) 金子典代, 塩野徳史, 本間隆之, 岩橋恒太, 健山正男, 市川誠一: 地方都市在住の MSM (Men who have sex with men) における調査時点までと過去1年の HIV 検査経験と関連要因. 日本エイズ学会誌, 2019, 21(1)
- 2) Kami-Onaga K, Tateyama M, Kinjo T, Parrott G, Tominaga D, Takahashi-Nakazato A, et al. Comparison of two screening tests for HIV-Associated Neurocognitive Disorder suspected Japanese patients with respect to cART usage. PloS one. 2018;13(6)

### 2. 学会発表

- 1) 和田秀穂, 塩野徳史, 徳永博俊, 竹内麻子, 健山正男, 市川誠一, 金子典代: 中国四国地方におけるより感染リスクの高い MSM 層の実態把握と HIV 抗体検査受検経験に関するコミュニティアンケート調査, 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4
- 2) 岩橋恒太, 金子典代, 高野操, 岡慎一, 本間隆之, 健山正男, 市川誠一, 荒木順子, 木南拓也, 高久道子, 生島嗣, 佐藤郁夫, 福原寿弥, 林田庸総, 中山保世, 小日向弘雄, 今村顕史: MSM を対象とする、郵送検査手法を用いた新たな HIV 検査機会としての「HIVcheck.jp」の取り組み. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4
- 3) 宮城京子, 豊里竹彦, 前田サオリ, 健山正男, 大嶺千代美, 藤田次郎: 沖縄県内訪問看護師の HIV 感染患者の受け入れ意識に関連する要因の検討. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4
- 4) 上薫, 健山正男, 金城武士, Parrott Gretchen, 富永大介, 高橋愛, 仲村秀太, 宮城京子, 前田サオリ, 藤田次郎: 日本人における、2つの HIV 関連認知機能障害スクリーニング検査の cART 非投与群と投与群の比較. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4
- 5) 岡崎玲子, 蜂谷敦子, 佐藤かおり, 豊嶋崇徳, 佐々木 悟, 伊藤俊広, 林田庸総, 岡 慎一, 湯永博之, 古賀道子, 長島真美, 貞升健志, 近藤真規子, 椎野禎一郎, 須藤弘二, 加藤真吾, 谷口俊文, 猪狩英俊, 寒川 整, 加藤英明, 石ヶ坪良明, 中島秀明, 吉野友祐, 太田康男, 茂呂寛, 渡邊珠代, 松田昌和, 重見 麗, 岩谷靖雅, 横幕能行, 渡邊 大, 小島洋子, 森 治代, 藤井輝久, 高田清式, 南 留美, 山本政弘, 松下修三, 健山正男, 藤田次郎, 杉浦 互, 吉村和久, 菊池 正: 国内新規 HIV/AIDS 診断症例における薬剤耐性 HIV-1 の動向. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4
- 6) 笠島志穂, 山城朋子, 健山正男, 仲村秀太, 山入端一貴, 兼久 梢, 新垣若子, 鍋谷大二郎, 藤田次郎: 上気道閉塞のリスクを有するカポジ肉腫の治療経験症例. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4
- 7) 上原 仁, 諸見牧子, 与那覇房子, 外間惟夫, 前田サオリ, 宮城京子, 石郷岡美穂, 大城市子, 辺士名優美子, 上 薫, 仲村秀太, 中村克徳, 健山正男, 藤田次郎: 腸瘻からの cART 投与において血中濃度測定を行い用量調整した一例. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4
- 8) 西原一秀, 平野惣大, 健山正男, 前田サオリ, 宮城京子, 藤田次郎, 新崎 彰: 沖縄県歯科医療従事者の HIV/AIDS 患者歯科診療に対するアンケート調査の検討. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4
- 9) 健山正男: 沖縄県における HIV の現況. 九州医師連合会 HIV 医療講演会 2018
- 10) 兼久 梢, 健山正男, 鍋谷大二郎, 喜友名朋, 新里 彰, 新垣若子, 宮城一也, 原永修作, 藤田次郎: 免疫再構築に伴う病変増大が疑われた HIV 関連トキソプラズマ脳



症の一例. 第 92 回日本感染症学会学術集会 2018. 6. 1 感染症学雑誌 92 357 2018

11) 原永修作, 西山直哉, 鍋谷大二郎, 金城武士, 宮城一也, 健山正男, 藤田次郎: 男性同性愛者に発症し化膿性扁桃炎として診断・治療された扁桃梅毒の 1 例と case review. 第 92 回日本感染症学会学術集会 2018. 6. 1 感染症学雑誌 92 284 2018

12) 石原美紀, 健山正男, 渡嘉敷良乃, 鍋谷大二郎, 金城武士, 宮城一也, 藤田次郎: HIV 新規診断症例においてインテグラーゼ領域に P145S を検出した一例. 第 92 回日本感染症学会学術集会 2018. 6. 1 感染症学雑誌 92 375 2018

#### **H. 知的財産権の出願・登録状況**

##### **(予定を含む)**

1. 特許取得

なし。

2. 実用新案登録

なし。

3. その他

なし。



## 日本のMSMにおけるHIV感染動向の把握に関する研究 - HIV感染発生動向を活用に関する研究

研究分担者：松岡佐織（国立感染症研究所エイズ研究センター 主任研究官）

### 研究要旨

日本国内の感染症蔓延防止にむけ、正確な発生動向の把握は効果的な予防対策を計画する上である。本研究では感染症法に基づき実施されている病原体サーベイランスのうち、MSMにおける性感染症の動向を補足することを目的に、性的接触により感染リスクの高まる5類感染症（全数把握疾患）に関して年間報告数、感染経路、性別などの情報を抽出し、HIV 予防啓発に従事するNPO、研究者らと情報を共有した。

### A. 研究目的

国内の感染症蔓延防止にむけ、正確な発生動向の把握は効果的な予防対策を計画する上で重要である。日本国内においては感染症法に基づき、規定された疾患の報告数を調査、集計されている。2020年1月時点で80以上の疾患が規定されている。このうち、発生数が希少なため定点での報告では正確な発生動向把握に結びつかないため日本国内で診断されたすべての感染者が報告対象になる全数把握疾患と、発生数が比較的多いために定点把握疾患に分類される疾患の2種がある。すべての疾患について患者情報及び病原体情報を併せ週、月単位で全国情報を集計し、速報値として感染症発生動向調査週報（Infectious diseases weekly report、IDWR、<https://www.niid.go.jp/niid/ja/idwr.html>）、病原体検出情報（Infection agents surveillance Report, IASR、<https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr.html>）等で即日に情報が公開されている。更に疾患毎に年単位で集計されている

（<https://www.niid.go.jp/niid/ja/ydata/8113-report-ja2017-30.html>）。疾患によっては性別、年齢別、感染経路別、報告数の周期的特性

の把握が重要な情報となりうるが、現時点では報告数の集計が主である。

全数報告が義務付けられている第5類感染症のうち、HIV感染症、アメーバ赤痢、A型肝炎、梅毒は届け出票の中で、推定される感染原因・感染経路の選択肢として性的接触が項目として挙げられている。更に記載項目として性別、同性間性的接触があり、これらの疾患の報告数を抽出することで、MSMにおける性感染症の発生動向把握において重要な情報である。

本研究では、感染症発生動向調査において第5類感染症（全数把握疾患）に分類される疾患のうち、梅毒、A型肝炎、アメーバ赤痢の性別、感染経路別報告数に関する公式な分析、解析結果に関して情報収集を試みた。

### B. 研究方法

感染症サーベイランス（National Epidemiological Surveillance of Infectious Disease [NESID]）システムを介して報告されているデータを基に、2次分析に必要な情報を抜粋した。週報、月報に記載されていない情報に関しては、国立感染症研究所疫学センターの協力のもと、所内担当部局に情報及びその公開元情報を収集した。

(倫理面への配慮)

エイズ発生動向報告値は既に公開されている情報を使用した。今後、エイズ発生動向報告の基礎データとなる感染症サーベイランス(NESID)システムの閲覧が必要になった場合は、管理規約に基づき管理者へ申請し閲覧の許可を得ることを申し合わせた。

### C. 研究結果

感染症発生動向調査として報告され、集計された情報公開元をまとめた。学術論文など独自の視点で分析された情報は除外した。複数の集計結果がある場合は、集計日、集計方法が読み取れるよう情報元を複数列挙した。抜粋データに関しては研究班内で共有し、討議のための基礎データとした。

### D. 考察

本研究班全体として MSM 対象の予防啓発活動における地域間連携をもとに新たな活動計画を策定、PDCA サイクルを導入することで、日本全体の MSM の予防啓発の浸透度を把握し、予防啓発活動の可視化を目指している。本年は分担研究として MSM における性感染症の発生動向把握に向けた基礎情報の収集として、男性同性間性的接触が主な感染経路である報告数の抽出を試みた。感染経路別の確定値はいずれの疾患においても公表されていない。

梅毒に関しては、2013 年以降男性同性間性的接触による報告数の増加が指摘されている。しかしながら男性同性間性的接触による報告が増加し始めるのと同時に、2013 年以降は日本国内での男性(同性間性的接触を含まない)、女性における報告数の増加がより顕著であり、いずれの感染の波及が起点となっているのか不明のままである。また異性間性的接触が主な報告である性器クラミジア症は 2013 年以降報告数は横ばいであり、男性同性間性的接触を含まない男性、女性の梅毒の報告数の増減傾向と単純に結びつけることは困難であることが示唆される。

A 型肝炎に関しては、経口感染、性的接触に

よる感染が主な感染経路である。感染経路別の詳細な解析はなされていないものの、報告数の性別から、女性の報告数は 2006 年から 2019 年の約 10 年間報告数の増減は少ないのに対し、男性においては 2018 年の報告数は約 500 件増加している。以上のことから発生動向報告値からは、2018 年に男性同性間でのアウトブレイクがあり、2019 年には収束に向かっていることが示唆された。

アメーバ赤痢に関しては、十分な情報が得られていない。今後関係者から聞き取りを継続し、データ収集でき次第関係者らに還元する。

### E. 結論

MSM における性感染症の発生動向把握に向けた基礎情報の収集として、男性同性間性的接触が主な感染経路である報告数の抽出を試みた。収集した情報は班会議を通して公表し、データは電子媒体で共用した。

### F. 研究発表

#### 1. 論文発表

1. Ishii H, Matsuoka S, Ikeda N, Kurihara K, Ueno T, Takiguchi M, Naruse TK, Kimura A, Yokoyama M, Sato H, Matano T. Determination of a T cell receptor of potent CD8+ T cells against simian immunodeficiency virus infection in Burmese rhesus macaques. *Biochem Biophys Res Commun.* 2020;521(4):894-899.
2. Nagashima M, Kumagai R, Kitamura Y, Matsuoka S, Imamura A, Chiba T, Sadamasu K. Examination of the efficient HIV confirmatory testing protocol using HIV-1/2 antibody differentiation assay *Jpn. J. Infe. Dis.* 2019. In press.
3. Matsuoka S, Nagashima M, Sadamasu K, Mori H, Tawahata T, Zaitso S, Nakamura A, de Souza M, Matano T. Estimating HIV-1 incidence in Japan from the proportion of recent infections. *Prev. Med. Rep.*

2019 ;16:100994.

4. Adusei-Poku MA, Matsuoka S, Bonney EY, Abana CZ, Duker EO, Nii-Trebi NI, Ofori SB, Mizutani T, Ishizaka A, Shiino T, Kawana-Tachikawa A, Ishikawa K, Ampofo WK, Matano T. Human leukocyte antigen-associated HIV-1 CRF02\_AG gag and vif polymorphisms in Ghana. Jpn. J. Infe. Dis. 2019. 72:374-380.
5. 松岡佐織 エイズ発生動向調査における診断時 CD4 数の把握とその活用. 病原微生物検出情報 (IASR) Vol.34(10) p165-166, 2019.
6. 病原体検出マニュアル後天性免疫不全症候群  
<https://www.niid.go.jp/niid/images/lab-manual/HIV20191122.pdf>

## 2. 学会発表 (国内)

1. 松岡佐織 日本国内の HIV 発生動向に関する解析. 第 33 回日本エイズ学会学術集会 熊本. 2019 年 11 月.
2. 松岡佐織 近年の日本国内の HIV 発生動向に関する分析. 第 40 回衛生微生物協議会. 熊本. 2019 年 6 月.

## G. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

1. 特許取得  
なし。
2. 実用新案登録  
なし。
3. その他  
なし。

期間（西暦年）	集計の詳細	情報提供元
2016-2018	四半期ごと、年齢、性別、感染経路別に報告数を集計。MSM における報告数の抽出可能。	<a href="https://www.niid.go.jp/niid/ja/syphilis-m/syphilis-trend.html">https://www.niid.go.jp/niid/ja/syphilis-m/syphilis-trend.html</a>
1999-2018	年次別・性別の報告数を集計、感染経路情報なし	<a href="https://www.mhlw.go.jp/topics/2005/04/tp0411-1.html">https://www.mhlw.go.jp/topics/2005/04/tp0411-1.html</a>

**表 1. 梅毒の発生動向調査報告数の情報元**

期間（西暦年）	集計の詳細	情報提供元
2015-2019年3月	4半期・性別の報告数の集計。感染経路ごとの集計なし(*1)	<a href="https://www.mhlw.go.jp/topics/2005/04/tp0411-1.html">https://www.mhlw.go.jp/topics/2005/04/tp0411-1.html</a>

**表 2. A 型肝炎の発生動向調査報告数の情報元**

\*1;但し一部感染経路が特定されているものがある。詳細、解釈は本文を参照されたい。

## 医療者による新規患者・診療動向からの評価

研究分担者：山本政弘（九州医療センター）

研究協力者：伊藤俊宏（仙台医療センター）、健山正男（琉球大学大学院医学系研究科）

### 研究要旨

本研究は、主な医療機関での新規患者の傾向（AIDS 発症の有無/検査場所等）を把握し、予防啓発活動に還元することを目的としている。初年度は、主な医療機関での HIV/AIDS 患者の傾向を把握するためにアンケート調査の内容を検討し、倫理委員会の承認を得た。

内容は、抗 HIV 療法未導入の初診症例の総数、検査施設・医療機関・郵送検査などにおける検査数（自発的な検査および医師からの勧奨、輸血時等）、初診時にエイズを発症していた症例数、新規感染例数の傾向等とした。AIDS 発症例については、中四国を除き横這いあるいは増加傾向であることが報告された。新規感染については北陸を除き、横這いあるいは増加傾向と報告された。関東甲信越、東海、沖縄はいずれも増加傾向であり、九州は増加後横這いの傾向であることが指摘され、背景に検査行動および予防行動が影響している可能性について班会議で意見交換を行った。こうした結果の還元は、MSM における予防啓発活動の評価手法の一助となり、ハイリスク層におけるセクシュアルヘルスの向上につながることを期待できる。

### A. 研究目的

HIV 感染拡大抑制に向け早期診断・早期治療は重要戦略であり、WHO はカスケードケアに基づく 90-90-90 達成を目指すことを推奨している。これは、HIV 陽性者が感染の状況について自らの診断を知っている率（診断率）、診断者の治療率、治療の成功率のいずれも 90%以上を各国が目指すものである。日本国内においても早期診断・早期治療に向け、コミュニティ当事者を中心に HIV 抗体検査機会を拡大し、HIV 抗体検査受検行動を促進する取り組みが展開されている。

日本国内では特に男性同性間での性的接触による感染が 7 割を占めているが、都市部と地方では状況が異なり、地方では AIDS を発症して報告される例も少なくない。こうしたハイリスク集団を中心に HIV 抗体検査受検行動が促進されれば、医療機関における状況も変化していくことが考えられるため、主な医療

機関での新規患者の傾向（AIDS 発症の有無/検査場所等）を把握し、予防啓発活動に還元することを目的としている。

### B. 研究方法

初年度は、主な医療機関での HIV/AIDS 患者の傾向を把握するためにアンケート調査の内容を検討し、倫理委員会の承認を得た。

内容は、抗 HIV 療法未導入の初診症例の総数、検査施設・医療機関・郵送検査などにおける検査数（自発的な検査および医師からの勧奨、輸血時等）、初診時にエイズを発症していた症例数、新規感染例数の傾向等とした。

各医療機関で最近の傾向についてメールでアンケート調査を実施し、班会議で還元した。

### C. 研究結果・考察

各医療機関で最近の傾向について意見聴取した概要結果は次の図の通りである。

2018年における各ブロックにおける主要拠点病院の新規患者の傾向（北海道）



2018年における各ブロックにおける主要拠点病院の新規患者の傾向（東海）



2018年における各ブロックにおける主要拠点病院の新規患者の傾向（東北）



2018年における各ブロックにおける主要拠点病院の新規患者の傾向（近畿）



2018年における各ブロックにおける主要拠点病院の新規患者の傾向（関東甲信越）



2018年における各ブロックにおける主要拠点病院の新規患者の傾向（中四国）



2018年における各ブロックにおける主要拠点病院の新規患者の傾向（北陸）

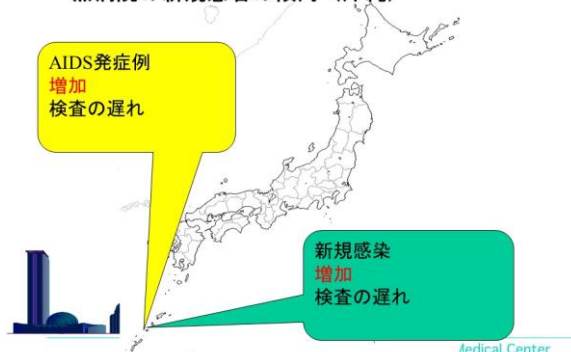


2018年における各ブロックにおける主要拠点病院の新規患者の傾向（九州）





2018年における各ブロックにおける主要拠点病院の新規患者の傾向（沖縄）



AIDS 発症例については、中四国を除き横這いあるいは増加傾向であることが報告された。新規感染については北陸を除き、横這いあるいは増加傾向と報告された。関東甲信越、東海、沖縄はいずれも増加傾向であり、九州は増加後横這いの傾向であることが指摘され、背景に検査行動および予防行動が影響している可能性について班会議で意見交換を行った。

## E. 結論

日本の MSM における HIV 感染予防対策では、医療機関とコミュニティとの連携がうまく図られないことも多く、各医療機関で最近の傾向について意見聴取し、班会議等で還元した。数値等で示される動向と異なり、医療機関から発信される本研究の結果は CBO の活動に直接的な情報として認識されやすく、

意見交換しやすい。こうした結果の還元は、MSM における予防啓発活動の評価手法の一助となり、ハイリスク層におけるセクシュアルヘルスの向上につながることを期待できる。

## G. 研究発表

### 1. 論文発表

- 1) ○嶋根 卓也, 今村 顕史, 池田 和子, 山本政弘, 辻 麻理子, 長与 由紀子, 松本 俊彦: 薬物使用経験のあるHIV陽性者において危険ドラッグ使用が服薬アドヒアランスに与える影響. 日本エイズ学会誌 (1344-9478)20巻1号 Page32-40(2018. 02)
- 2) ○金子典代, 塩野徳史, 内海眞, 山本政弘, 健山正男, 鬼塚哲郎, 伊藤俊広, 市川誠一: 成人男性の HIV 検査受検, 知識, HIV 関連情報入手状況, HIV 陽性者の身近さの実態- 2009 年調査と 2012 年調査の比較-. 日本エイズ学会誌, 2017, 19(1):16-23.

## H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

1. 特許取得 なし。
2. 実用新案登録 なし。
3. その他 なし。

## 研究成果の刊行に関する一覧表

### 書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
長島真美, 貞升健治, 川畑拓也, 近藤真規子, 草川茂, 立川愛, 松岡佐織	後天性免疫不全 症候群 (エイズ) /HIV 感染症	国立感染症 研究所	病原体 検出マ ニュアル	Web 公開		2018 年 10 月改訂	<a href="https://www.niid.go.jp/niid/ja/labo-manual.html">https://www.niid.go.jp/niid/ja/labo-manual.html</a>

### 雑誌

著者氏名	論文タイトル名	雑誌名	巻	ページ	出版年
Takahashi N, Matsuoka S, Thi Minh TT, Naruse TK, Kimura A, Shiino T, Kawana-Tachikawa A, Ishikawa K, Matano T, Ngyyen Thi LA	Human lucoyto-antigen associated gag and nef polymorphisms in HIV-1 subtype A/E-infected individuals in Vietnam.	Microbes and Infection	21	113-118	2019
Kato H, Kanou K, Arima Y, Ando F, Matsuoka S, Yoshimura K, Matano T, Matsui T, Sunagawa T, Oishi K	The importance of accounting for testing and positivity in surveillance by time and place: an illustration from HIV surveillance in Japan	Epidemiol Infect	146	2072-2078	2018
松岡佐織	2015 年以降の日本国内 HIV 感染発生動向	病原微生物体検 出情報 (IASR)	29	151	2018
塩野徳史, 市川誠一, 金子典代, 佐々木由 理	都市部保健所における HIV 抗体検査受検者の特性	厚生 の 指 標	65 (5)	35-42	2018.5
金子典代, 塩野徳史, 本間隆之, 岩橋恒太, 健山正男, 市川誠一	地方都市在住の MSM (Men who have sex with men) における 調査時点までと過去 1 年の HIV 検査経験と関連要因	日本エイズ学会 誌	21 (1)	34-44	2019.2
金子典代, 塩野徳史, 内海眞, 山本政弘, 健山政男, 鬼塚哲郎, 伊藤俊広, 市川誠一	成人男性の HIV 検査受検, 知 識, HIV 関連情報入手状況, HIV 陽性者の身近さの実態 - 2009 年調査と 2012 年調査の 比較-	日本エイズ学会 誌	19 (1)	16-23	2017
7) 嶋根卓也, 今村顕 史, 池田和子, 山本 政弘, 辻麻理子, 長 与由紀子, 松本俊彦	薬物使用経験のある HIV 陽 性者において危険ドラッグ 使用が服薬アドヒアランス に与える影響	日本エイズ学会 誌	20 (1)	32-40	2018

令和2年 3月 31日

厚生労働大臣  
—(国立医薬品食品衛生研究所長)—殿  
—(国立保健医療科学院長)—

機関名 大阪青山大学  
所属研究機関長 職名 学長  
氏名 久田 敏彦



次の職員の平成 年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 研究事業名 エイズ対策政策研究事業
- 研究課題名 MSMにおける予防啓発活動の評価手法の確立及びPDCAサイクル構築のための研究
- 研究者名 (所属部局・職名) 大阪青山大学 講師  
(氏名・フリガナ) 塩野 徳史・シオノ サトシ

#### 4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	大阪青山大学	<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称: )	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

#### 5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

#### 6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和2年3月25日

厚生労働大臣 殿

機関名 公立大学法人  
名古屋市立大学

所属研究機関長 職 名 理事長

氏 名 郡 健二郎



次の職員の令和元年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 研究事業名 エイズ対策政策研究事業
- 研究課題名 MSMにおける予防啓発活動の評価手法の確立及びPDCA サイクル構築のための研究  
(H30 - エイズ - 一般 - 006)
- 研究者名 (所属部局・職名) 大学院看護学研究科・准教授  
(氏名・フリガナ) 金子典代・カネコノリヨ

#### 4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	名古屋市立大学看護学部	<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称： )	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

#### 5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

#### 6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和2年 3月 31日

厚生労働大臣  
—(国立医薬品食品衛生研究所長)—殿  
—(国立保健医療科学院長)—

機関名 大阪青山大学  
所属研究機関長 職名 学長  
氏名 久田 敏彦



次の職員の平成 年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 エイズ対策政策研究事業
2. 研究課題名 MSMにおける予防啓発活動の評価手法の確立及びPDCAサイクル構築のための研究
3. 研究者名 (所属部局・職名) 大阪青山大学 講師  
(氏名・フリガナ) 塩野 徳史・シオノ サトシ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	大阪青山大学	<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称: )	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

2020年3月30日

厚生労働大臣 殿

機関名 国立大学法人琉球大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 西田 睦 印



次の職員の令和元年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 1. 研究事業名 エイズ対策政策研究事業
- 2. 研究課題名 MSMにおける予防啓発活動の評価手法の確立及びPDCAサイクル構築のための研究  
(H30-エイズ一般-006)
- 3. 研究者名 (所属部局・職名) 大学院医学研究科 准教授  
(氏名・フリガナ) 健山 正男 (タテヤマ マサオ)

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input checked="" type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称: )	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

本研究は大阪で先行研究を行い、その結果を踏まえて、沖縄県で実施予定でしたが、年度内のクラブでのイベント開催が新型コロナウイルスによる自粛および集客が望めない状況のため、研究費による資材は揃っておりますが、倫理審査申請は提出できておりません。研究は2年目ですので主任研究者と次年度への計画変更の調整を行っております。

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )

(留意事項) ・該当する口にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

厚生労働大臣 殿

機関名 国立感染症研究所

所属研究機関長 職名 所長

氏名 脇田 隆字



次の職員の令和元年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 エイズ対策政策研究事業
2. 研究課題名 MSMにおける予防啓発活動の評価手法の確立およびPCDAサイクル構築のための研究
3. 研究者名 (所属部局・職名) エイズ研究センター・主任研究官  
(氏名・フリガナ) 松岡 佐織・マツオカ サオリ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称: )	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

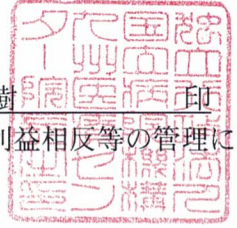
令和 2 年 3 月 31 日

厚生労働大臣  
—(国立医薬品食品衛生研究所長) 殿  
—(国立保健医療科学院長)—

機関名 国立病院機構九州医療センター

所属研究機関長 職 名 院長

氏 名 森田 茂樹



次の職員の令和 元 年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 エイズ対策政策研究事業
2. 研究課題名 MSM における予防啓発活動の評価手法の確立及び PDCA サイクル構築のための研究  
(H30-エイズ-一般-006)
3. 研究者名 (所属部局・職名) AIDS/HIV 総合治療センター 部長  
(氏名・フリガナ) 山本 政弘 ・ ヤマモト マサヒロ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	九州医療センター	<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称： )	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。